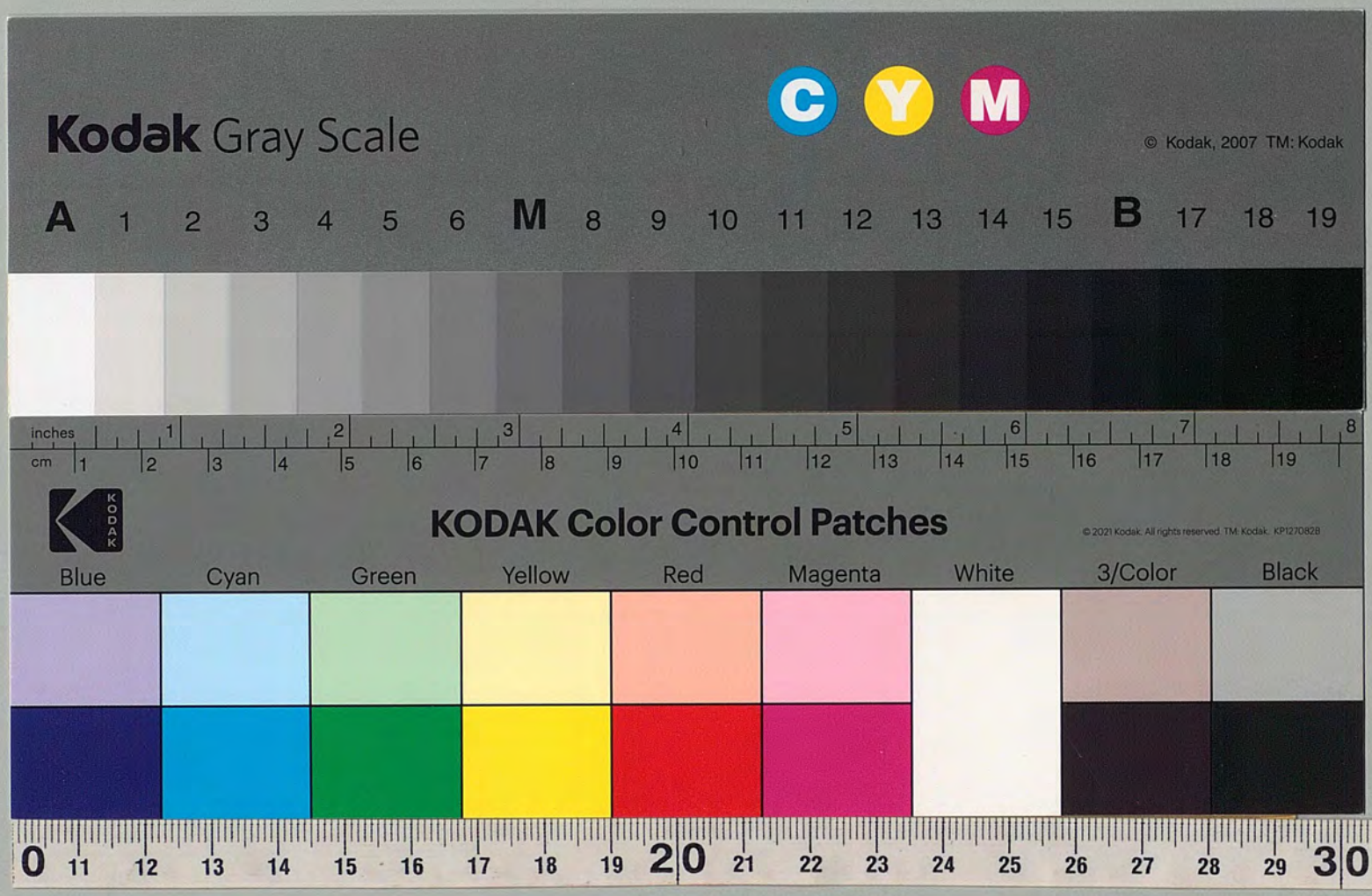
ガラス使用



大正十五年十一月十五日　毎月十五日發行　第二百二十二號

會報

埼玉縣教育會

第二百二十二號

兒童優良文集

女子高等師範學校教授　倉橋惣三
文部省囑託　久留島武彦
東洋家政女學校長　岸邊福雄　序

長沼依山　編

實費提供

尋常科　七十錢　高等科　七十錢
頁數二百卅四頁　頁數二百十五頁

縣下各小學校兒童の赤誠は茲に結晶す

◇昨歳御慶事記念出版◇

倉橋先生曰く

此の文集が如何にお芽出度い國民的記念のために出版せられたのであるかといふことは此文集に依る諸君の思出を一層光輝あらしめることである、子供の時のことを黄金時代といふ言葉がある、實にこの文集こそは此黄金時代に依りて作られた尊い記念品なのである、永久に光澤を失ふことのない黄金の實物なのである。

久留島先生曰く

吾々は少年少女諸君と相携へ既に二十余年にもなる斯くして子供雜の同志の一人も多く倶に携へ行くことを思念じて止まない、蓋し未來の建設者である少女諸君の健全なる發展ぬ來たす所以であろ、茲武藏野に匂ふ文の林が少國民諸君の赤誠を現し長沼氏の力に成つたことは多くの子供の心の糧どもなるべきことを思ひ廣く多く活用されんことを希望する。

岸邊先生曰く

この美文集に載せられて居る數百の學童の文集はいづれもういゝ〳〵しい純美さと潑溂たろ勇ましさとを兼備してゐる讀み行く中にかぎりなき懷しさ心強さをほおえたのでありますす、其懷しさは全く兒童美の感動であり其心強さは全く國民精神の發露に感激させられたのであります。

編者曰く

本書は昨年の帝室の御慶事を記念する爲めに縣下各小學校から選ばれた優良文を上梓したので向上の氣分の橫溢した眞に創作的生活への道程を辿つてゐる子供が其の儘歌つたり綴つたりして至純な心情を發露させたものであります。口繪は四少年が分擔した圖畫で表紙繪は東京の畫伯が氷川神社と熊谷櫻堤を妙筆に依つて描かれたもので本縣唯一の文集と存じ普くお頒ち致して初期に副いたいと思ひます。

發兌　教育出版社　東京上野鶯谷
電話下谷七一三番　上根岸四十四
振替東京〇六五一番

埼玉教育目次

十一月號　第二百二十二號
大正十五年十一月拾五日發行

▽卷頭時言……依山生……一

論說

▽現下農村に善處すべき教育方案に就て……斗星生……二
▽アンルデルゼンの童話創作上の態度……京大教授……田中梅吉……一二

研究

▽直觀幾何教授の提唱（一）……松山中學校……柳直一郎……二五
▽算術科成績考査に關する研究……青柳尋常高等小學校訓導……丸山知得……三一
▽農村的公民學校の內容充實……埼玉縣大幡公民學校……鈴木禮藏……三八
▽辿るべき讀方教育の道……熊谷女子校訓導……村田茂市……六七
▽內省の修身教育……秩父大椚小學校訓導……大野武男……七〇

說叢

▽滿鮮支の旅……大里郡深谷小學校長……小林倭子……七四
▽埼玉會館の沿革と其の設備……一〇二

彙報

▽關東聯合教育會況……一〇五

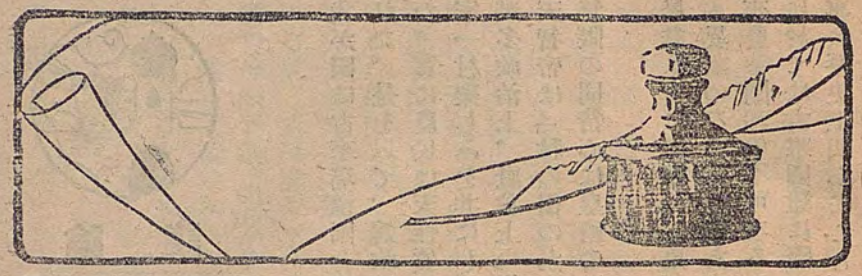
本縣教育會出版目錄

公民學校の部

國語讀本	前期卷一六十錢 同卷二六十錢	同卷二同 同卷三七十三錢	後期卷一六十八錢 （大正十四年十一月二十日發行）
公民教科書	上　三十八錢	中　三十八錢	下　四十錢 （大正十五年五月三日發行）
數學教科書	前期卷一三十五錢 同卷二三十五錢	同卷二五十錢 同卷三三十錢	後期卷一六十錢 （大正十五年一月十日發行）

小學校の部

理科筆記帳	四年　二十錢 高一　二十錢	五年　二十五錢 高二　二十二錢	六年　三十錢 （大正十四年二月十五日發行）
裁縫筆記帳	四年　五年　六年　各二十錢		（大正十五年九月十日發行）
農業教科書	高一、二年　各十五錢 卷一、二　各四十錢		（大正十四年三月二十九日發行）
埼玉地理	七錢		（最近修正の見込）
學習帳	各學年　金五錢		（大正十二年四月二十二日）
夏季練習帳	各五錢　（一部修正の見込）		（大正十四年度發行） （每年夏季發行）



卷頭時言

既報の通り第二十二回關東聯合教育會は去る十一月十一日より三日間新築の東宮殿下御慶事記念の埼玉會館に開催せらるゝ、加盟教育會より派遣せられたる出席者二百八十九名、提出議案凡て五十四、之を略記すれば、

一、小學校令に關する件、一、年功加俸に關する件、一、青年教育に關する件、一、教育會に關する件、一、幼稚園に關する件、一、教育費國庫負擔に關する件、一、青年訓練所に關する件、一、

件、皇后陛下の御誕辰日を祝日とする件、教育基金令の復活、實業補習教育の義務制、師範制度の改善、學務部の獨立、視學制度の改正、農村教育の振興、恩給法の改正、

高等普通教育の完全、

等は其の總括せられたものにて、文部省よりは諮問案として、

時勢に鑑み小學校教育をして一層實際生活に適應せしむる具體的方案如何、

の提出あり會子督學官は說明の爲め來會せられ、一堂に會する代議員諸氏は、地方の事情に通曉せる點及教育當事者たる點等よりして以上の諸問題を檢討すべく最も適應し而も其の熱誠にして抱負を傾倒して餘蘊なき點は將に教育の大指針を發揮せしむべき概あるに似たり、加ふるに澤柳博士は教育方典を述べて會衆に滿足を與へられ、更に浦和町及大宮町、或は昌溝保護會の斡旋は其の機宜を得て本會遂行の爲めに花を添へたる感なくんばあらず、況んや本縣教育界の長老高塚、菅野兩校長の表彰は本會の榮譽に止まらず、關東教育界の爲めに慶祝に堪へざる所なり尙其の間縣下各學校及個人團體の出陳せる教育品展覽會は大歡迎裡に終りたり。

卽ち三日間の集會は本縣教育界の前途に何物か偉大なるものを與へたるものなるべし、吾々は連攜、以て教育事實の充實、發展或は改善に勇往するの意氣を以て邁進すべきものなることを思念す、三日間の過去を顧みて一言を叙して云爾。（佐山生）



論説

現下農村に善處すべき教育方案に就て

斗星生

（一）

我が國は古來瑞穗國と稱して、皇祖天照大神よりして、稼穡の事を重んぜられ、農業を以て治國の根本義とせられた。是を以て、爲政家は農民の休戚を常に念とし、農民の勞苦に同情するといふことが德政の最大要件であつた。實に農民は天性質朴であり、順良であり、勤勉であり、常に天然に親しみ、體健に、心裕て、煩悶少なく一家一村樂しみを共にし、憂を分ち、神を信じ、祖を敬ひ、而して、貢租の事を重んぜしは古今を通じて、變ぜず幾多政治上、社會上の變革ありしに拘らず國家の爲に盡して來たことは何人も爭ふべからざる事實である。

天智帝は「秋の田のかりほの庵の苫をあらみ我衣手は露にぬれつゝ」と詠ぜ給ふた。此の大多數の農民に對する無限の同情心は皇祖の旨を體し給ふ大御心にして、皇室と臣民とを永久に連ぬる樞紐である。

（二）

農業は實に國家の源泉である。政治も經濟もその他各種の產業もその基礎を農業に置き又置き來つたことは何人も異論のない事實である。獨り我が國のみならず、彼の英國の如き、商工を以て立國の大本とせる國に於ても近來農業閑却の不可なることを悟り、歐洲大戰以來特に農村に關する施設の實行に汲々たる有樣である。更に獨逸に於ては古來國難に際會する毎に、國力の恢復策として常に農業の興隆を圖り、然も着々その實効を收め來り し事は歷史上明かなことである。

鑑つて、我が現狀を見るに、明治維新以後の開國進取の國策は學術技藝の進步を來し、商工業の勃興を來し、國富國力の偉大なる發達を遂げしめ、今日都會地に於ける燦然たる文化は日に月に、其の光を增して來たのである。此の間、獨り、農業は閑却された譯ではないが商工業等に比すればその進步は遲々たるもので、殆ど、舊套を脫しないと云つてもよい位である。故に農業の產業的價値は國富、國力に伴はず、我が大多數の農民の生活は自ら困難とならざるを得なかつた。之に反して、一方學術技藝は敎育の普及と共に進み、學問萬能の思想は世を掩ひ人々は一途に智識の吸收にのみ努めた。この爲に人々は自然狡猾となり今迄天下泰平悠々としてゐたものが急に落ち着きなく、禮讓を缺くやうになり、古來より「勝てば官軍、負ければ賊」といふ諺の如く、資本家階級の十中の八九までが某々と結托して利益を交換するといふことが公然の祕密となつたのである。偶々歐洲大戰勃發し、我が國は莫大なる利益を蒙つた。從つて商工業の盛な都會地にあつてはその影響大きく、次第々々に奢侈逸樂の風が起つたのである。流行の風は止むべくもない。山間僻地に介在する農村にも徐々として浸み込んで來た。血氣にはやり、理想に燃え理性に乏しい農村青年何とて默してゐられやう。不安焦燥の念に感染し、多年住み馴れた故園を後に都へと志し、放浪生活を送るやうになつたのである。而して都會といはず、田舍といはず浮華放縱奢侈逸樂の風は漲り渡つた。此の時に當りて、外國より移入せられた數多の思想は直譯的に解され、或は階級打破、或は共有財產、或はデモクラシーと叫ばれ、世は愈々輕佻詭激の風に傾いたのである。而して遂に資本家對勞働者地主對小作人の二大爭議となつて現れた。此に於て我が大和民族否農民の素質たる質朴、剛健順良勤勉、敬神崇祖の風は彼等本來の平和幸福と共に奪ひ去られたのである。是を人口の方面に徵するに人口の增加率は、農村は都會に比して、遙に高い。然も明治四十年に全戶數の六割二分を占めてゐた農民が十二年後の大正七年には五割四分に減じてゐる。斯くも我が國は農業立國の上に多大の動搖を感じつゝあるも、尙農業は。政治上、社會上依然として鞏固なる地位を占め、各種產業中その首位を占めてゐる。實に農業の盛衰は一に掛つて國運を左右するものである。

熟々惟ふに、國家を雙肩に擔ふて立てる農民が斯くも浮華放縱、輕佻詭激の氣風に染み、人心益々惡化し、且つ農業を厭ひて、祖先代々昔より受け繼いだ田畑を賣りて、故里を出奔し、農村をして愈々疲弊せしむるやうになつた原因は多々あらう。生活難、競爭の激甚、貴族富豪の行動、上位者の僞善勞資の反目、亂俗の雜誌と書物西洋かぶれの思想等擧ぐれば限がない。然も此等原因の背後には必ずその時代を貫通してゐるところの深い深い根本的の原因が潛んでゐるに相違ない。吾人は現實社會のみを眺めて周章狼狽するよりも、より一步深入つて、依つて以て來る根本の原因を尋ねて、適當の措置をとり、且つ尙進んで改良せねばならぬ。

明治維新以來の我が文化の發達、思想の變遷を眺め來るに、我が二千年來の神道は漸く忘れられんとし、敬神崇佛の精神はうすらぎ、義理人情を本としたる武士道さへもその影を失つたのである。而して西洋の物質文明の影響を受けて、人智は日毎に、智識技術の方面に傾き所謂科學萬能の世となつた。一方徒に自由を唱へ、權利の平等を主張して、義務を怠り、道德とか、いふことは人の口にさへ言はれなくなつた。凡そ國內に、勞働運動の起るは一面より見ればその國の文明の向上を示すものである。然しこの文明を平和の中に持ち來さんことは決して不可能事ではない。何人も期待してゐることである。

吾人は動物の一員である以上何人も利己的のものである。然し亦他愛性をも持つてゐる。故に智愚强弱に拘らず、生產力の如何によらず、財產を共有にするとか、平等にするとか、絕對的の權力を認めないとかいふことは實に空想である、宜く人間性に立脚した個人の財產を認めて、それに共產的の意味を加味したものでなければならぬ。農村はといふに、一部大地主なるものは豪奢を極め權力を振ふて中流以下の多數の農民を壓迫してゐるのである。遂には無理なる平等を叫ばせ、恐るべき爭議にまで至らせるのである。一部純勞働者的の小作人にとりてはその影響大ならざれども、黑子大の田畑を持ち、祖先代々の家を受け繼ぎ、營々として農事に勵み、而して村の爲に中堅となりて働くものに取りては忍び難い苦痛である。さりとて故園を去るには忍びない。踏み止つて

益々苦痛を重ねなければならない。

元來農民は一面より見れば質朴である。他面より見れば頑迷で保守的である。爲に彼等は彼等自身の生活と時勢とを餘に隔てゝしまつたのである。暫くして目覺むれば今や遲し、如何ともすることが出來ない徒に大利を棄てて、目前の小利にのみつき、所謂その日暮の生活をなすやうになつたのである。是に於て農村は益々疲弊せざるを得なくなつた。次に斯くも農村を疲弊せしめたのは、彼等自身の頑なるにも依るが、又彼等を導いて來た敎育の誤つてゐたことも輕々に看過する理には行かない、先にも言つた通り、從來の敎育は科學萬能であつた。抑々敎育とは人をして人たらしむることをいふ。凡そ人は心身二元より成立し、人間活動は精神方面と肉體方面とに分る。古人の「健全なる精神は健全なる身體に宿る」と言へるを見ても身體の完全なる發達の必要なることは論を俟たない。精神方面はその活動複雜にして、智、情、意の三方面に分る。而してこの三方面の完全なる發達は人間の精神活動を完全ならしむる所以である。故に敎育の目的が完全なる人を作るにあればこの二大方面の圓滿なる發達を期せねばならぬ。然るに從來の敎育は主として、智的方面にのみ偏して學歷あれば立派な人、學問すれば出世するといふ風潮に傾いたのである。而して、情、意の方面を力說すべき敎育家、宗敎家さへもこの風に染み、世はおしなべて小智奸智がもてはやされて、道德の影は失せてしまつた。諺に「旅は道伴、世は情」とある如く、如何に博學秀才とはいへ、情に於て缺けるところがあつては世は渡れない。實に世は義と情とで持ちつ持たれつして行くものである。今後の敎育は從來の智的重視は自然と伸ばし、かたはら情、意の方面を重視して可成三方面の並行を希ひ、所謂知德の並進を期せねばならぬ。然らば人々は各自の立場を自覺して來て、我が國民本來の素質に立ち歸り、質朴剛健となり、勤勉となり勞働問題の如きは、道德的に解決せられ、自ら諸問題は終決を見るであらう。

（四）

吾人は以上述べ來つたところの農村の疲弊卽經濟問題、敎育の缺陷卽道德問題の二方面に立脚して方案を考察

して見たい。而して教育の時期によつて幼少年時代の教育と、青年時代の教育とに分つことを得。

a. 幼少年時代の教育。凡そ、吾々は生れると同時に教育の潮流に出づるものである。故に家庭は教育の初場所である。然し、從來世人は教育は學校がするもの、或は教育家に托すべきものだと思つてゐる。此は甚だ違つた考へてあると思ふ。教育は職業ではない。從つて專門的に或種の人のみが是を行ひ、一般の人は關せぬといふ風には行かぬ。吾人は歩いたり、食べたりするやうに各自が自分の子弟を教育するのが本當の教育である。殊に幼時の教育は大切である。我々が幼兒の時代に持つた環境とか、受けた教育とかによつて天性だと思はれる性質が作られてゐることがある、だから學校へ行つてから受ける教育は既に家庭に於てその根本が作られて了つた後に付け加へる事て學校以前の教育の結果を學校は殆んど如何ともすることが出來ないのである。然し家庭にあつては學校の如く時間を整理し、教案を立てゝ、何時より何時までと規則正しくは出來ない。折にふれ時に當つてやるのである。學校は家庭に於て足らないところを補ひ眞の教育を助くるものである。既に學校に行くやうになつたならば家庭と學校との連絡を圖り、共に力を協せて、家庭教育を永續せしめなければならぬ。

現今學校として最も普及されてゐるのは小學校である。此を最も有効に利用するにある。卽ち學校を單なる教場とせずして、生きた、實社會の手本とせねばならぬ。家庭に於て基礎づけられたる智識を確實ならしむると同時に生徒たるの自覺を得しめ延いて國家公民として役立たせるやうにせねばならぬ。故に普通教育に於ては一科目として重要ならざるものはなけれども中心課目となるものは修身と理科てなければならぬ。凡そ修身は人の進むべき道を教へ、理科は自然界の理法を示して人の進むべき方法を教ふるものてある。

修身科の目的は小學校令施行規則第一條に

「修身科は勅語の趣旨に基きて兒童の德性を涵養し、道德の實踐を指導するを以て要旨とす」

とあるが如く、我々の道德的理想とするところは主として教育に關する勅語にあるといへども尙この旨を充分に貫徹せんとするには吾人日常實踐すべき卑近なる諸德を擧げて是を兒童に涵養せしめ、且實踐指導するにある。

國定小學修身書はこの趣旨によりて編纂せられたものであるが、實地教授の際には我が國民道德の根本たる忠君愛國の精神の如き、家族制の如き、祖先尊崇の如き、又武士道の本領たる忠節、禮儀、武勇、信義、廉恥の諸德の如き殊に意を用ひて國體の尊嚴を知らしめ、愛國の念を強め、一致協力皇運を扶翼すべきことを授けねばならぬ。其の他我が國民性の缺陷、時代の趨勢にかんがみて、正直を尙び、信用を重じ、獨立自營、堅忍不拔の精神を養ふとか、或は勤勞を重じ、職務に忠實公德を尙び公務を重じ、進んで團體の爲には犧牲的精神を惜まないといふ事等が我が國現下の教育の急務にして留意すべきことを授けねばならぬ。其の他我が國民性の缺陷、時代の趨勢にかんがみて、正直を尙び、信用を重じ、獨立自營、堅忍不拔の精神の涵養に努め、日本女子の美點を益々發揮せしむるやう努むべきてある。

凡そ修身教材は次の數種に分類することを得。

1. 國家道德に關するものにして、更に
   - イ、主として我が國體を明かにするもの
   - ロ、國民の本務を說きしもの
   - ハ、立憲國民としての心得を說きしもの

に細別し、我が國はその源を皇室に發し、今日の隆盛を致したもので皇室と國家とは離るべからざる世界無比の國體なることを明かにせり。

2. 家庭道德に關するものは
   - イ、孝行
   - ロ、孝以外の家庭道德卽ち祖先、家族等につきての心得

の二に分ち、尋六「忠孝」に至つて忠孝一致なることを示して愈々皇室と國家との關係を明にせり、

3. 個人道德に關するものは
   - イ、身體に關するもの

ガラス使用

ロ、知能啓發に關するもの
ハ、情操陶冶に關するもの
ニ、活動に關する心得
ホ、意志陶冶に關するもの
ヘ、經濟生活につきての心得
ト、修德に關する心得

の七に分けて、個人の人格の向上の爲に物心兩方面より明かにせり

4. 社會道德に關するものは
イ、特殊の關係あるものにつきての心得
ロ、一般社會に關するもの

の二大別にし、諸德目を列擧して處世上の道を開いてゐる。

以上分類したる教材の位置の考へ、實際問題に連絡して教授したならば、唯々机上の空論に終らずして、兒童將來の爲聊かにてもその効があらう。尙、讀方科歷史科地理科體操科の助力を俟つて折々に生きた教材を得たらば一層見るべきものがあらう。殊に體操科は訓練に於て實地指導して効多きものである。

理科の目的は小學校令施行規則第七條に

「理科は通常の天然物及自然の現象に關する智識の一斑を得しめ、其相互及人生に對する關係の大要を理解せしめ、兼て、觀察を精密にし、自然を愛するの心を養ふを以て要旨とす」

と、この條を見るに、理科は通常の天然物、自然の現象に關する智識の一斑を得しむと。實に自然物、自然現象は形狀、性質、等千差萬別である。然しその中に一定の法則が存在する。又個々互に影響し合ふてその生存發達を全くし、相互緊密な有機的關係を有するものである。是等の事實法則を明にし、自然界の統一的理會を與ふ

るは亦教育上缺くことの出來ぬことである。而も吾人人類も亦自然界の一員て、日常の衣服食物より思想感情に至るまで自然の影響を蒙つてゐるものである。特に今日の開化事業は人類が自然を征服し、その理法を應用して人生々活に便利を進めたる結果に外ならぬ。故に理科教授に於てはこの自然的理法を明かにすると同時に開化的事業を理會せしめて、人生の福祉を進め、文明の進歩を助けんとする永久的興味を養はしめ、尙觀察を練り、思考を正確にして、自然の美妙を知らしむべきである。此の意味に於て教材は主として鄕土的な、實用的な兒童の生活に最も近き而も興味あり、生活上必要なるものより初め、漸次深に入り、兒童をして、何物に對してもその不可思議を覺え、その理を極めずんばやまざるの態度にまて導くべきものでなければならぬ。理科書の內容を大別するに、博物教材理化學教材、家事教材とす。

博物教材は動物、植物、鑛物を包有し、その範圍甚だ廣く、吾人人類も亦是に屬す。されば兒童の日常目擊し愉快を感じ不思議を悟り、最も興味をそゝるものは此の中に存する。教授者はよろしく、模式的教材、實用的教材、鄕土的教材等を授け、更に動植物の生活團體に注意し、或は吾々人體の構造、生理の理を授くると同時に自然界の統一的理會を助け、併せて生命保全に益する衞生の心得をも教ふべきである。

理化學教材は餘りに高尙に走り易くして、學理にのみ傾き易ければ眞に重要なる基礎的理法を授くるに止まり主として、農事、水產、工業、交通等日常生活に關係あるものを選擇し、教材の實用化せなければならぬ。されば實驗器具等に至りては興味あるものを用ひ、簡易なるものは兒童をして製作せしめて可てある。

家事教材は家政方面の智識技能を授くると同時に住居、什器、飮食衣服、看病、家事經濟、育兒等其土地と民狀に適したものを選擇して、日々の生活に結び付けねばならぬ。

新の如くして得たる智識は農業科、手工科、裁縫科と相俟つて學理と實際との一致發達を期し、且勤勞の習慣を涵養し、勞働を趣味化せしめ、徒に都を憧れ放浪の生活の風を根絕せしめねばならぬ。埼玉縣の理科筆記帳は此の意味に於て最良のものと思ふ。然れどもこの幼少年時代の教育は基礎的なものであるから自然學理

ガラス使用

に走るを免れぬのである。

b. 青年時代の教育。世界の一等國と言はれ、先進國といはれる彼の英國、米國、又戰前の獨逸といひ、皆智識道德の衆に秀でてゐたことは勿論であつたが、財の豐であつたことも否むことの出來ぬ事實である。今や英米二國によつて世界の經濟界は左右せられてゐる有樣である。一國の經濟界の消長はその國の盛衰に關するを思へば財の力も偉大なるものである。而して是等諸國に於てはあの莫大なる財を作るに如何に苦したかそして、その目的を達せんが爲に職業教育を重んじ、實業補習學校が如何に完備してゐるかを思ふときは實に驚く程である。

抑々實業補習學校は英國の日曜學校に始まり、十九世紀半獨逸に於て長足の發展をなし、漸次諸國に擴つたのである。我が國の補習學校は明治十八年濱尾子に依りて獨逸より移入せしに始まつたものである。次いで、明治廿六年井上文相に至り補習學校規定を發布し、普通教育の補習を主目的としこれに實業教材を加味することとなつた。後明治廿七八年の役後長足の發達をするや明治卅五年亦改正せられて、實業教育を主目的として、普通教育の補習を副目的とせり、更に日露の役に勝ち、今次の世界大戰の影響を受けて、補習教育熱盛となるや、大正九年十二月從來の規定に堪へず大改正を加へ、職業教育及公民教育を以て大眼目とせり。然に我が國の補習教育の現狀は實に校舍なく、設備なく、專任教師は稀に又生徒の境遇、年齡等は省みられずお役目的で、恰も小學校の寄生蟲の如くてある。最近義務教育の延長を唱ふるものがあるが、彼等は都會中心で農村の事情をよく解せないものである。準義務教育たる實業補習學校でさへ滿足なるもの見當らない今日、此の方面の徹底を期すべきである。

抑々我が農村が年と共に衰へ、遂に今日の極貧に至つたものは何に依るか。上述の如く、從來の教育が時代の要求からとはいへ、智識技術に偏し、實生活に餘に迂遠のものであつたからである。吾々は心的安定も必要であるが亦物的安定卽ち生活の安定も缺くべからざるものである。生活が安定し得て、初めて、健全なる自己、健全なる國家が成立するものである。生活を安定ならしむるには何としても、實生活に適する智識技能を授け、合せ

て、勤勞の精神を養はしむる實業教育に俟たねばならぬ。殊に世界大戰と共に武力偏重の時代は過ぎて、平和思想が起つて、平和の中に劇烈なる產業戰が行はれてゐる今日此の產業戰に打ち勝つにはその根本たる實業教育、就中一般民衆を對象とする實業補習學校の振興を必要とする。尙社會の進步に伴つて、自由平等の思想は漲り、人心漸く惡化し來つた今日是が防止策として、又國民の政治的智識の發達して今や普通選擧の實施を見んとするの際自治精神の涵養策として實業補習學校の完備を期せねばならぬ。現代行はれてゐる町村の實業補習學校を見るに大部分は夜間に授業してゐる。然もその時季はといへば嚴冬である。如何に夜學に好適の候とはいへ、餘りに無謀なことではなからうか。吹雪をつき、風雨を侵して、孜々として、每夜出席するものに對しては是等の設備なくして尙獨學して充分勉强せしむることが出來ると思ふ。せめて午後なりとも晝間に授業して、彼等の苦痛を減じて、可成大勢のものをして出席せしめ、學校の目的に副はしめられたい。然らば女子部の設置がなかつたのが不思議でならなかつた。思ふに田舍の奢侈の風は主として女子より起つたからである。尙夜學生の惡戲等に至つては根本的に改められると思ふ。

飜つて學科の方面を見るに實業補習學校の二大眼目たる職業教育、公民教育を充分に果せるやうにも見えない。彼等をして、完全なる公民として、活動せしむべく基礎づけるには、修身科殊に實踐倫理の方面に重きを置きて、道德的方面を高唱し、尙法制經濟を授けて、自治の觀念を涵養し兩々相俟つて社會我の圓滿なる發達を心掛けねばならぬ。更に理科農業科を重視して鄕土に於ける產物を研究し、大いに副業方面の改善を圖り、農村を して今後進むべき道を誤らしめぬやうにせねばならぬ。尙進んでは自ら鎌を持ち鋤を採つて、活動するところの勤勞の精神を涵養し、且つ勞働の神聖なる所以をも知らしむべきである。此の外科外講演として、村の有識者、郡の技術者等に依頼して、講習、講話を開き、又諸團體と連絡を圖り相共に進んだならばより效あるものと思ふ。

要するに吾人は從來の智識技術の方面にのみ走つた教育を救ひて、之に情意の方面を加へ、以て智德の並進を希ひ、同時に人間生活に卽したる實利方面をも重視して以てこの慘たる農村に處して行かうとするものである。

アンデルゼンの童話創作上の態度

京大教授　田中梅吉

北歐デンマルクより出てたるアンデルゼンは藝術童話家として世界の子供の爲めに追慕せらたてゐる、昨年は五十年記念大會を東京に開き自分達も參加し此の童話詩人を追憶したのである幸に田中教授の一文を得たので茲に掲げる次第である。（依山）

一

去年の八月四日は北歐文壇の巨星にしてことに童話詩人として日本にも親しみの深いハンス・クリスチアン・アンデルゼンが、この世界――それは可憐な子供の住むところなるが故に輝かしい處と彼のいつたこの世界――から逝いててうど滿五十年になつてゐた。詩人を追憶すべく當時東京では記念祭が行はれたやうでした。詩人の生國たる丁抹でも無論盛大な思出の催が行はれたとてあらう。何となれば彼は卑賤のどん底の世界に生立つた宇流浪兒から身を起したのではあるが、次第に國民の寵兒となり、終に晩年には實にお伽噺そのものゝやうな幸福な身分となつて、丁抹王室からは國賓的の人物として特に優遇されるに至つたからである。更近到着の獨逸からの二三の雜誌にも、かの國で行はれた記念祭や記念の展覽會のことなどを報じてゐる。丁抹國人に先んじて詩人の眞價を賞揚しだした獨逸國民としては、これも亦當然の企てであると謂はねばならない。

彼を中心としてその前後の童話文藝界を見渡してみると、彼以前の斯界は何といふ生命のない寂しい、世界であつたらう。そこには兒童の輝く瞳にも、紅の頰にも、小鳥のやうに晴々しい聲音にも殆ど沒交涉な純情も生氣もない、色褪せた「お話」に充された世界が

吾人の想像の圈内に浮び上つてくる。中世紀頃までの洋畫に現はれた兒童の姿を見ると、それは大人を縮小して童衣に包んだに過ぎないといふ印象を與へさせられる。アンデルゼン以前の兒童本の姿は正しくそれに近い。勿論これは童話文學上に於ける宇面卽ち藝術童話（クンストメールヘン）について言つたのである。他の半面卽ち民族童話（フォルクスメールヘン）には既に彼の童話に先んじて、グリム兄弟の曲範的集成が、殆ど今日世に行はれるグリム童話の定本の形に近いところまで完成されてゐた。がグリムの如く民間傳承の童話を蒐集するのでなく、それを藝術的に新たに創作する藝術童話の方面に於けるアンデルゼンの業績は、當に當時に於ける驚異であつたばかりでない。彼の歿後爾來半世紀の月日は流れ、兒童文藝界は文藝の普遍と兒童研究の進步とに伴れて異常の發達を遂げ、隨つて斯界に優秀な作家の輩出したことも頗る目ざましいものがあるが、然し未だ嘗て彼のやうに童話文學に全的に心魂を傾倒し且つ劃時代的な貢獻をなした人はないと思はれる。

私はいつも彼の生涯と童話との關係を眺めるごとに、彼には不思議な運命が絕えず彼の生涯と童話とを絡み合せて、兩者を離さしめなかつたかの觀あるの覺える。

從つて彼の童話を見るにはまた同時に彼の傳記に絕えず矚目するの要がある。本稿の叙說も亦この途を步んで研究のある點まで到達してみたい。

二

アンデルゼンのやうに童話創作にその全生涯をさゝげた人は稀である如く、亦彼のやうに自己の生涯と作つた童話の關係の密接な例をのこしたものは殆どなからう。

彼の童話を讀むことはまだ、彼の生涯の縮圖を魔の國の鏡に寫して眺めるやうなものである。そこに浮上る王女にもそこに躍出る小人にも、老婆にも野夫にも彼の影像の片鱗がちらつく。彼の生格の曲りなさは「鉛の兵隊」の如く率直に、彼の天才の深さは「支那營帝の鶯」の如く神奧である。彼の優しさは日陰の枯草を抱きしめて昇天する「天使」の如く、彼の孤獨さは「街燈」の如くである。天才の果てしない憧憬の滿されざる淋しみを「雪の女王」に象徵し、盲目な俗衆と誇慢な批評家を嗤ふ心を「批評家」に寓してゐる。アン

デルゼンはその作つた童話と童話的小説百五十六篇を通して心ゆくばかり自己の表現を果たしつくした。彼が自叙傳の標題を「わが生涯の童話」と名づけたのは童話と手を携へて歩み通した彼の奇しき運命に捧げた名として、これに優つてふさはしい名はあるまい。この生涯と童話の交渉を述べるに先ち、次にそれに關係ある、彼の生涯の斷片を彼の生涯の中から摘みとつて語つてみたい。

× × ×

彼の故郷は丁抹では獨逸に寄つたフューネン島の上の、海に面したオーデンゼといふ町であつた。今では人口四萬位はある工業市であるが、アンデルゼンの居つたころは、まだ何とやく封建の異風が町の建物にも生活にも、殊に思想にもこびり、着いてゐるところであつた。そこの住民は、重苦しいゴシック造りの十二世紀の名殘を留めた、お寺の厚壁や、荒狂ふ北歐の潮風に壓されたり苛まれたりし末は、散々にいぢけきつて了つた根性の持主となつてゐた。そこへ狹い島を世界として暮している田舍人の常として兎角氣が狹くて階級の念は强い。かういふ人達の間に、アンデルゼンは一八〇五年四月二日に貧困な靴直し職人の伜として生れたのである。

この詩人の生立ちを洗立てするのは實に忍びない氣がする。それは餘りに情ないみぢめさであつたからばかりでなく、詩人自らも母のこと姉のことなどについては、人に語り筆に書くことを努めて避けたからである。さはいへそれは今日に至つては識者の間に周知の事として傳へられたのみならず、このどん底から藻がき上つた彼を眺めてこそ、そこに猶ほ一倍の敬慕の念の生ずるを思へば、寧ろこの點を避けて叙述するのは當を得てゐないと考へられる。

アンデルゼンが生れた時は兩親が結婚の式を擧げてから二ヶ月目で、その時、父は二十二歳母は三十七歳であつたといふ。これだけでも既に事が準繩でない。その上母はもと血筋も分らない放浪の女で、一時は乞丐の境涯まで落ちたこともある程の無敎育者、嫁いだ時は一人の女の兒を伴れてきた。この義姉に當る伴れ兒はアンデルゼンより五つ六つ年上のカレン・マリーて、姉のことは努めて表向き言及ぶことを避けてゐるが、詩人はこの終に行衞も知れなくなつた哀れむべき

姉のことを童話小説アンネ・リースベットやその他一二の話中にそれとなく語つてゐる。母に至つては猶ほ更に甚だしい性行の持主て、結局これもアンデルゼンを捨てゝ何處かの空へ落果てゝ了つた。母の面影は童話の「金豚」や「マッチ賣の少女の話」にそれとなく消息を洩してゐるといふ。父も大した働きのある男でなかつた。親讓りの靴直しの商賣にも身が入らず、出來ない相談の計畫を吹かす煙草とゝもに空に描いては貧乏してゐるといふ人てあつた。せう事なしに終に傭兵となつての從軍からは、傷兵となつて歸還する、といふ悲慘な生き方て、かうした家庭の苦境にあつて人一倍に敏感な詩人がどれほど惱されたかは想像するに難くない。

しかし唯一つこの父に捨てられない特質は色々な空想的な物語を朗讀するのが好きて、殊に父が讀んてきかせたアラビヤ夜話の極端に架空の物語は、詩人の童話作家たる素地にいつしか清い根を植付けたといはれてゐる。

かゝる家庭に日陰の草草が石壁を匐ひあがるやうに天から惠まれた伸びる力一つをたよりにアンデルゼンは大きくなつていつた。讀み書きの手ほどきをば彼は猶太人の兒に取り圍まれた不完全な小學校で受け、次て貧民窟の學校に收容されて、やつと人の子のやうに習ふべきを習ふ機會を授けられるといふ始末であつた。そのうちに父は死んて第二の父が出來た。元來神經質て物事に他の男の兒のやうにはきはきしたところが無かつたので、彼は新しい繼父からは少しも愛の言葉をかけられることなく、まして周圍の人からも餘り好かれることがなかつた。殊に彼の性格の一つの特徴として自ら頼むところが强く、別して人から賤視されるのを小兒ながら快しとしない、この自負——他人には片意地か傲慢に見たこの性質——は猶ほ更に彼をして人から嫉視される原因を作らしめたが、この孤獨の姿は殆ど彼の半生以上を通じた詩人の側面圖(プロフィール)をなしたもので、彼の童話を心讀する者は詩人の淋しい然し不屈な姿を隨所に發見するのであらう。

かうし自負自尊の心とゝもに彼の生涯を通じて見られる邪氣のないおぼこな素質、多分童話作家に缺くことの出來ないこの素質のゆゑて、アンデルゼンは自分の傳記に色々のユピソードを殘してゐる。後の童話に

ガラス使用

直接關係をする例を擧げてみる。彼が十四歳のとき堅信式を受けるときであつた。まづその届をするのに彼の身分としては當然行くべき筈の牧師のところへ彼は行かなかつた。彼の自尊心はさうするに堪へられなかつた。そこで彼は貴族の兒達を相手とする牧師のところへ届けた。さて愈々寺の式に臨む段になつて、彼は平素木の靴をはいて馬鹿にされてゐる腹癒せに、贈物として貰つた赤靴をはいたが、それを人に見せつけてやりたいといふ小兒らしいプライドから、わざわざズボンの先を靴下の中へ推し込んで靴を人目につくやうにした。殊に靴が鳴るての益々悦しくなり、得意になつてお寺に乘込み、折から祈禱中のところを靴音高くはいつて行つた。彼はこの時の痛快さを終生忘れられないもの〳〵一つに數へてゐる。然しまだ彼の優しい心はこの時會衆の祈禱を妨げたことを深く〳〵悔いた。童話「赤靴」にはさうした得意の感とその後の後悔の心持を出してゐる。

今一つのエピソードは彼の自負的な性向を語る。童話作家として彼が稍々名をなしてからのことであるが獨逸滯在中にある時グリム兄弟を訪ねた。取次の者が

彼にどちらのグリムかと尋ねたのに對する彼の答は、「一番學者の方に」といふのであつた。兄のヤコブが面會に出たが遇々ヤコブは彼のことを知つてゐなかつたので、應待も通り一遍の程度を出なかつた。彼はこれで痛く持前の自尊心を傷つけられて、後年彼が得意の地位に達してから、彼は談がグリム兄弟に及ぶごとに、いつも「……がグリムは私を知らなかつたよ」と不滿の意を漏すのが常であつた。

三

この自尊心は自己の境涯がそれを容れるに極端な反對をなしてゐる狀況にあつたので、そこに彼の心と實世界との慘烈な相剋を生じる。然し自らの天分を自覺してゐる彼は、空しく實世界の壓迫に屈從し、若しくはそれとの妥協に依つて生きてゆくことは出來なかつた。さりながら彼はその剋をそのまゝ世の生活裡に實現する鬪士として生れつくのには最も懸けはなれた人であつた。この點では極度に齒痒いまでの平和主義者に生れついてゐた。戰はずして然も屈しないといふ彼の態度、そこに果てしない悶がある。そして深く〳〵內に喰入る彼の內心の痛ましさ、それを何處に發散した

か。彼の童話は實に彼の靈の底から湧上る苦悶の火焰を上げる噴火口であつたのである。この火口から躍りでる童話といふ踊り子は、可憐の子供達にいつも笑顔を向けてゐるが、然もそれは心で泣いてゐるリヤ王の道化者であつた。この故に彼の童話の一面は對社會抗爭の象徴とみられうる。抗爭に動機を持つた童話といふ方面から觀察して、まづこれを二つに分けてみると內面的な思想の方面と外面的な形式の方面とに區別されうる。次には便宜上まづその內の後者の形式の方面から說くことゝする。

こゝに所謂形式といつたのは、主として彼の童話の書き振りてあるところの修辭上の方面を指したのであるが、そこにも亦アンデルゼンの時流に尚當することのできない性格の徑直さと識見の卓拔さが閃めく。童話文學の歷史の上から、彼の時代の周圍の狀態を顧みるとき、私は彼が當時の童話文學界の時流からよくもあれほど飛躍と、因襲からの脫離した奔放自在の書ぶりを縱にしたかに驚嘆するものである。あの頃のアンデルゼンを凝視するごとに、私には自らアルマン・カレルのことが胸に浮んでくる。

アルマン・カレルがまだ年若な記者としてある新聞社に入社した頃のことである。主筆はカレルの書いた文章を一見した後、文章のあるところを指示しながら「君、そんな風に世間では書かんよ。」と注意をした。その時カレルは屹然として「私は人が書くやうには書きません、自分が書くやうに書きます。」と應へたと。アンデルゼンの同國人で十九世紀文藝論壇の雄ブランデスは恐らく彼を知る第一人者であらうか、そのブランデスがアンデルゼン論の劈頭に喝破してゐる、「天才の保持には勇氣を要する」と。この詞は移して以てアンデルゼンの文藝家として第二の特徴を摘說した恰當な詞となるであらう。實に彼は己れの童話作家としての天分を深く悟覺して、その天分を發揮すべく進む前路に横はる文藝上の因襲や、定型や、基準やの前に抵徊逡巡し或は叩頭するに堪へなかつたのであつた。

われ〳〵がアンデルゼン以前の童話を讀んだ後で彼の作に接するとき、そこに何ともいへぬリズムに觸れさせられる。古い歐洲の音樂を聽いた耳でドユブッシーやシュトラウスなどの現代樂の巨匠の奏曲を聽く感じとてもいふべき、一種異樣の複雜な音色と落着のな

いやうな、それでゐて然も生きて躍つてゐる滑かな旋律の流れとの絡み合つた華かな動的美を感じさせられる。これが卽ちアンデルゼン童話の一基調であつて、それ以前の童話文學に缺けてゐた重要の缺點であつた。否、バランスを外して氣まぐれのやうに躍りゆく言葉の行き方に、兒童の琴線に眞に觸れた文章の生命がある。

「お聽きなさい。始めますよ！　私達がお話のお終ひまでくれば、もつと今よりは分りますさ……といひますのは、むかしむかし一人の惡い山の神があつたんです。至つて惡い神樣達の仲間なんです。惡魔なんでした。……」

「こゝらの國中で一番大きな青い葉は何なんといつてもオランタゲンゲの葉です。一枚の葉を自分の小さな體（蟲の體）の前に翳してみると前垂のやうです。頭の上へ戴せると、雨のふる日には雨傘の役に立ちさうです。何しろ大した大きな葉です。オランダゲンゲは獨りでは生へてゐません。一つが生てる外のもどや、どや生へだします。ほんとうに美事なものですよ。ところがこんな美事なのが皆んな蝸牛さんの御馳走になるんです。昔から身分の高いお方が蝸牛ハヤシの御料理にでもさせて、召上つたときは「ウム旨い、味の好い蝸牛だ」なんて賞められるやうな白い大きな蝸牛……この蝸牛さん達がオランダゲンゲの葉で生きてゐるんです。だからオランダゲンゲの種は澤山蒔かれました……。」

といつた調子である。文の脈絡なり構造なり語の配列なり順序なり全く當時の傳統への反逆であつた。當時の作家の「文章典範」へ投げつけた一大爆彈であつた。

四

童話創作上の此反抗的態度はその形式とともに、內容に於ても亦同樣に舊來の因襲的な考への絕緣であつた。實に彼の童話の內なる思想の發展の具合は成人の一般的な理路からは到底想到の出來ない方への跳躍を敢てする。意外な事物と事物と連結をやる。彼の童話の推理は理智の推理でなく（少しく詭辯ではあるが）感情の類推である。感情から感情へと飛ぶ、そこに突飛が生れる。然し兒童の必の世界の動き方はさうである。アルデルゼン研究者の一權威グイドー・ホルラーは彼の「アンデルゼン童話研究」中にかう言つてゐる。

「悧巧な蟲が纖細な糸を色々な方面からかい繰つて終に一つの網を造り巢をなすやうに、詩人の想像は風のまゝにひら〳〵する胡蝶のやうに何の類似もなささうな點から點へと飛び移つて、事物との聯絡する。」

なるほど成人の因襲的な推理慣性からはかうした連結は異樣であらう、然し小兒にはそれが自然である。アンデルゼンはこの自然に從つただけである。この異樣さ突飛さは二物間の結合推移から進んでは異樣な話の結果に達する。因果關係に於ても所謂「定規」を外れる。彼の話に應々にして通常の道德律にすら背く結末を以て結ぶのが所以である。されば童話の中で、期節の「月」は郵便物ともに駈けだし、匆々として都市の門をくぐつたり、人影は主人と別れて王女の婿君となつたり、宮殿の戸は會議を開いたりする。薔薇は當時の固定した觀念たる花中の王でなくて、美に奉仕する犧牲者の象徵であり、醜い家鴨は不遇な天才の姿であり、白鳥は偉大な思想家の孤獨の形である。恩を忘れて、幸福を授けてくれた魔女の首を切り落した一兵卒が、何の技能なしに唯魔の援けで王女を我がものにして、幸福な餘生を送ることができたり、狡猾な小クラウスは善良な大クラウスを散々に利用し散々に酷い目にあはせじまひにする。故に餘りに悲慘にも果敢ないルーデとバベットとの永別を「氷の乙女」に讀んだビョルンソンは、アンデルゼンに少し酷過ぎるではないかと忠告したほどである。

かうした詩人の傍若無人さが何うして彼の鄕土のあの時代の偏狹で因襲に固くなつた人々に容れられよう。果然彼は無理解な衆俗や時の文藝批評家達の怒りに觸れた。攻擊の矢は彼の身を周つて四方から放たれた。然もこの國民の一部の怨は可なり執拗に永らく續いたので、彼は此ために幾度か筆を投じて嘆息し、或時は童話創作から暫く手を切つて小說創作に專心しようとしたことすらあつた程である。次に世俗竝に批評家對詩人の抗爭を語つて此稿を終りたい。この抗爭を語ることにやがてアンデルゼンの童話の成因が如何に根柢の深い且つ複雜な事情から生れたかを示すことゝなり、彼の童話が決して輕々者流の兒童相手の机上のすさびでないことを說くことにもなり、又詩人の人となりをも語ることにもなるであらう。

五

一八三五年詩人が丁度三十歳のとき、彼は初めて童話の第一集を出した。「子供達のために物語られた童話」といふ標題の六十一頁ばかりの小冊子であつた。「火打道具」以下唯四つの童話を收めたものであるが、兒童向の作品として優秀なもののみであつた。素より作風が從來の兒童本作法の憲法を眼中に置かぬものであつたから、批評家達をば、少なからず憤慨させた。或者は正面から攻め立て、或者は搦手から今後同じ樣な不都合なものを書かぬやうにと忠告し、更に悧巧に立ち廻つた連中は默殺しつゝ形勢を窺つた。といふのは正直な無心な第三者には此童話は何んといつても面白いのだから、本の賣行は飛ぶが如くであつたから、さすがの批評家の中には自然默殺連ができた譯であつた。深い自信を糧として生きながらも、一方には樂園の胡蝶のやうに少しの荒い風にも戰くほどの氣立ての優しいアンデルゼンは、この攻擊の第一矢に痛く靈の底まで傷つけられた。然も世の冷酷さは、それだけで止まらず、彼の旅先の巴里の宿まで、彼の惡評を載せた新聞を大きな包みにして郵稅先拂ひにして送つた者すらあつた。

世の愛する子供のため彼の全精神をこめた贈物としての童話に對して、幾分のよい批評を豫期してゐた詩人は、却つてパンの代りに石を與へられたのであつた。彼は一時失望のどん底に落ちたが、この時唯獨り彼にとつて沙漠の沃土となつたものはやはり子供の世界であつた。彼はこの憂鬱の雲を拂ふべく子供の仲間に入つて、彼等に自作の童話を語り又は朗讀してきかせたり、時には切紙細工を造つてやつたりした。最近到着の雜誌「週報」をみると、伯林で催されたアンデルゼン祭の折の陳列品の中の切紙細工が寫眞にのつてゐる、いかにも素朴で初な格恰をした人物が切り出されて、そこに、何んともいへぬ表現の創意に滿ちたところ、アンデルゼンその人の風骨に接するの趣がある。

然らばアンデルゼンはかゝる理解も情味もない人達に對してどういふ態度に出たか。

アンデルゼンはそれ等の攻擊に對して一々に議論を以て應酬せず、やはり童話に於て間接に戰つたのである。彼の童話はかゝる消息を背景として觀察されるとき、可なりに痛烈な皮肉揶揄に充ちた一種の寓話となる。彼がかく正面から一矢を酬ゆるの態度に出なかつたことについては、ブランデスなどは男らしくないと非常に齒痒がつてゐるが、アンデルゼンのやうな平和熱愛者には到底出來ない業なので、彼を以て一種の卑劣漢とするは當を得てゐない。

六

そこで愈々童話に寓した彼の批評家への皮肉ぶりをみる段になつた。

「人が發見しえられるもの」といふ童話を見る。

「一人の若い男が一心に勉强してゐる。男は復活祭が來ぬうちに詩人になり、詩で若い妻を養つて行かうとした。が惜しいことには少し生れ方が遲かつたので、この男に作れ相な詩の題目のものは悉く詠みつくされて了つた。仕方がないので悧巧な妻の智慧をかりにゆく。妻は夫にはとても新しい詩の題目を發見する能力がないと見てとつて、彼に言ひ渡した。『夫には復活祭までは愚か五十日後の聖靈降臨祭にも詩人になれまいが、然し夫が自分の無能に愛憎をつかさずに平氣でゐる上に、眞の詩人を容赦なく罵倒することさへ恥と思はなければ、敢て復活祭まで待つことを要しない、それよりずつと以前の懺悔節に檢閱者にはなれる』と。そこでこの男は詩人にはなれない代物だから檢閱者になつた。」

この檢閱者はアンデルゼンには何者を意味してゐるか、喝說の要はあるまい。

「何にか」といふ童話の筋はかうである。

「五人の兄弟があつた。名々「何にか」ならうとした。そこで長男は煉瓦つみの職人に、次男は左官に、三男は建築師に、四男は新樣式の工夫者にならうと話し合つた。すると五男は昂然として四人の兄達を蔑む眼で見まはした後言ふ、『自分はそんなつまらない者になるのは眞つ平だ、自分は批評家になる』と。五人はそれ〳〵志すところのものになつて世間から何れも認められた。やがて五人の者は皆此世からお暇乞ひをする。五男が一番長生きをして、最後に天國へ旅立つ。天國の門の前に着いて、彼は入らうとすると許されない。何故かといふ、と彼は何一つ入門の資格を得べき仕事をしてゐないといふのである。餘りに憫れに思つて彼のために一人の女

が入門の嘆願をしてゐる。この女といふのは人を助けるため放火をした者だが、この女の方が批評家よりは天國へ入る資格が具はつてゐるといふ譯なのだ。天國ではこの嘆願によつて情を酌み、兄の煉瓦つみ職人の功績の一部を算入してくれて、やつと彼は門の入口の一室まで進み入るだけの許しを批評家に與へ、今後の善行を待つて本通行を認めるといふことになる。」

批評家と同樣に世の倨傲頑迷な衆俗からアンデルゼンは幾度か冷罵をあびせられた。從つてかゝる衆俗を痛烈に諷した童話も數多い。一例をとつてみるならば「天からの一葉」はかう語つてゐる。

「ある時天使が天國の靈木の芽を森の中に落した。芽はやがて立派な樹になつて、不思議な花を咲かせた。ところが一人の植物學者がこの花を見た。彼は花の靈花たる所以を見拔く力を持つてゐなかつた。彼の知識ではこの植物を何の分類に收むべきかを知らず、寧ろ一つの片輪の樹であるとして顧みない。俗人は素よりこの樹に對して敬意を拂ふ筈もない。その中に終に蟲に喰はれて樹は枯れて了つた。ところが枯れた後で樹の眞價が分つて、大騷ぎとなつたが、もう取り返へしがつかない。そこで樹の遺跡には金の柵が廻されるやら、番兵がつくやら周章て騷ぎとなる。そして最後に學者はこの花について大部な論文を書き益々金箔がつく。」

この話は世の知識階級とか民衆とか稱する手合の無鑑識さが、天才をその生前には容れず、寄つてたかつて殺して了ひながら、後になつて如何にも天才に敬意を表した積りで、甲斐ない仕業をやつて騷ぐことを諷したものとされてゐる。アンデルゼンは本國よりも寧ろ先づ外國でその眞價を認められ、後になつて丁抹の本國でも今更のやうに彼に敬意を拂ひ出した。いかにも「天からの一葉」に對する騷ぎである。「醜い家鴨の子」の童話には特に自身の運命を暗示したやうな話が語られる。白鳥の血を受けた雛鳥が家鴨の中に育てられたばかりに、醜い家鴨として散々に虐待をうける。白鳥は居堪らずに家鴨の社會を脫けだして　いろ〳〵な困難を切りぬけ、終りに廣々とした。公園に出て、絕望の餘り白鳥の群に飛びこむ。すると、意外にも白鳥から歡迎されるので、不審に思つて自分の姿をみると、自分もまた白鳥であつたのだ　そこで「醜い家鴨の子」は遊びにきた可憐な子供達から若い白鳥よ若い白鳥よと殊に可愛がられる身となつたといふ筋である。詩人が本國人の無理解のため散々に苛めぬかれた末、外國や子供から先づその眞價を發見された事實を語つたものとされてゐる作である。その他幾多の例はあるが略して結語へと急ぎたい。

七

これまで述べてきた彼の童話、卽ち對世間竝に對批評家といふことに關係したものだけを眺めても、そこに深刻な動機の根ざしを認められる。若しそれ彼の生涯を生活問題、愛の問題、自然觀の問題といつた方面から眺めて、そこに彼の童話胚胎の由來を視つめるとき、如何にアンデルゼンの童話といふものが、彼にとつて全的の問題であるかゞ窺はれるのである。近世以來無數の兒童文藝家が輩出したが、それらの人々の中の多數が「製造」する文藝と等しなみにして、彼の童話が取扱はれたら、アンデルゼンは「また自分を家鴨にするか」と地下で泣くであらう。

言ふまでもなく自己の人生生活上の體驗に根ざした深刻な兒童文學は非常に多く、獨りアンデルゼンの作物に限らない。假りに若干の名高い詩人達の上を一瞥しただけでも、彼等の生の一頁が（廣義の）童話の綾に織り込まれた例がそこ〳〵に目につく。獨逸のヴィーランド、ゲーテ、ヘッベルはいふまでもない。浪漫派の詩人達の哲學が童話の森を見えつ隱れつ潺湲として流れてゐることや、戰塵の巷に生れたフォルク・レアンデルの童話の心持なども見遁しがたい。カイバーの現代的童話には時代思潮の血の洗禮に生れた悲痛さが目につく。

更に女流作家エッシエンバッハやペーターゼンの作を見てもそこには人間の記錄（ドキュメント）（ヒューマン）たることを頷かせられる。佛のアナトール・フランス、露のクルイロフ（寓話）トルストイの作といひ、白のメーテルリンクの作といひ何れも詩人の生涯のたゞならぬ一頁から糸を引いてゐる。純粹の童話でないにしてもデューフォーのギャリバー旅行記のごとき、如何に作者の政府上世俗上の著しい經驗の餘の爆發であるかゞ窺はれる。さうだ文藝上の作品はそれが童話であると否とを問はない。等しく偉大な作者の詩人的人格と深奧な體驗を前程とす

ガラス使用

るのが當然なのである。

たゞ然しながらアンデルゼンの場合に於ては、この生涯と童話との關係が他の詩人に見られぬ徹底さを持つてゐるといふ點で、特に意義の存する所以がある。「私の魔術の袋もたうとう空になつた」と彼が死ぬ年（一八七五年）の正月に一友に書き送るまで、七十年の

生涯は正に童話に捧げられたものである。アッシヂの聖者は日や月をわが兄よ妹よと呼びかけたほど萬有の上にその宏博無限の愛を吐露しそれと隔てなく生きようとした。アンデルゼンはさうした心の愛を一つにして世々限りなく彼の童話に集る子供等に向つて、童話を通じて永久にわが眞の友よと呼んでゐよう。（終）

研究

直觀幾何教授の提唱（一）

松山中學校　柳　直一郎

私は數年間、初等教育から離れてゐます。從つて小學校に於ける、數學教育の現狀が、どの樣に進歩してゐるか、よくは存じません。でこの提唱をなしますのは、或は釋迦に說法の譬にもれないかも知れません。が若しまだこの方面に、力を致されない方がございましたら、さういふ方々に、聊か御參考にならうかと存じ、且はこの方面の御研究深き諸賢の、御批正を賜はらうと、菲才をも顧みず、敢て貴紙上を、お借りした次第であります。

原稿が長いため、幾度かに分載されるかと存じますから、便宜上、自分が之から述べ樣とする事柄の、項目を、豫め揭げて置きませう。

第一　直觀幾何の意義

第二　直觀幾何教授提唱の理由
一、幾何知識發達の歷史と兒童心理の要求
二、數學教育の眞意義と直觀幾何教授
三、諸外國の事情

第三　教授の實際
一、教材及びその排列
二、實際取扱ひの例
三、教授の時期
四、教授上特に意を用ふべき點
五、結論

以上。

× × ×

第一、直觀幾何の意義

私のこゝにいふ直觀幾何とは如何なるものであるか

先づその内容（概要）から、申上げて置きます。

從來中等學校で學習してゐる幾何學は、ユークリッド幾何學ともいふべきもので、今から二千餘年前、アレキサンドリヤ大學の教授ユークリッドが、講義の必要上、當時發見されてゐた諸定理を、一つの體系に組立てて作つた教科書（幾何學原本といふ）に因つてゐます。

（注）大征服者歷山大王は、學問にも熱心で、その壯麗なる首都には、圖書館を設け、大學を建てました。ユークリッドは、大王の沒後、招かれて同大學の、數學部教授をしてゐました。

その後多少の發達變化は、ございましたが、大體は右に準じて、出來てゐます。その始めに、數個の公理（假定）と若干の定義とを與へて、之等から演繹的に、多數の定理を導いたもので、その研究の方法は、全く證明を中心として、徹頭徹尾論理的に進んで、行つてゐます。

幾何といへば、直ちにこの固苦しい形式的な、ユークリッド幾何學を思ひ浮べるでせう。然し私のここにいふ直觀幾何は、その行き方に於て、之と全く違つてゐます。一つの圖形、一つの形體を與へて、その間に存する諸法則、諸性質を直觀的に、或は實測的に、發見させます。この法則性質を、又他の方面に應用させます。時には或條件に適する圖形を描かせたり、形體を作らせたりします。或は形體の截斷、或は推理法による論證もします。けれ共どこ迄も直觀實測を教授の中心に置いて、ユークリッド幾何學の様な、抽象論理は、成べく取らない様にします。從つて未だ抽象的推理の、發達の幼稚な、小學校四、五年の子供から、中等學校一、二年位迄の教授に、最も適するものです。

第二、直觀幾何教授提唱の理由

次に私はこの提唱の理由を、明にせねばなりませぬ

一、幾何學發達の歷史と兒童心理の要求に、立脚して、

既に前にも述べた様に、幾何學は早く二千年の昔に發達した學問です。その起源は、遠く埃及の頃（三、四千年前）かのナイル河の周期的氾濫のため、自然土地の測量や建築に關する知識が、必要であつたのに因るといはれてゐます。之がギリシャローマの、文化絢爛たる時代に入つて、又非常なる發達をなしたものです。その歷史は、實に代數よりも算術よりも早いものであります。いはゞ、幾何學は數學の最も原始的なものです。

「固體はその種屬の歷史を繰返す」とは生物學上の原則ださうですが、若しこの法則にして誤りないならば人間はその發達の初期（卽ち兒童の生活）に於て、先づ幾何知識の要求を來さねばならぬわけです。かの小學校や幼稚園の兒童が、折紙細工や粘土細工に、狂喜するのは、又之が例證として見ることが出來るではありませんか。

實に兒童は抽象した數よりも、自ら描いた圖形を喜び、繪にかゝれたるボールを觀察するよりも、自ら手を動かして作れるボール箱に、より大なる興味を持つものであります。

私はこの兒童心理に表はれたる要求から見ても、はた又人類發達と幾何知識の關係から考へても、幾何學が、早く兒童の生活から、始められねばならぬものだといふことが出來ると思ひます。

二、數學教育の眞意義と直觀幾何教授

少し古い話ではありますが、かの新主義數學の中心活動者たる、獨逸ゲッチンゲン大學教授、フェリックス、クライン氏は、一九〇五年メランに開かれたる、數學者自然科學者會議に於て、從來の數學教育の弊を指摘し、今後の數學教育について

餘り專門的に偏した教材は之を捨て、之に反し吾等を圍繞せる現象世界の科學的考察能力を、出來る丈け發達せしむることが必要である。この意味に於て、二つの特に重大なる問題が起る。その一つは定間直覺能力の增大、他は函數思想の養成である。

「直觀幾何教授ノ理論ト應用」より

と述べて數學教育の革新を叫びました。之と前後して英國のペリー、米國のムーア、佛國のボレル等、新進數學教育家は、猛然起つて數學教育の改革を唱へました。

之等革新運動者の主張について、私はこゝに多くを語る必要はないと思ひます。今その要點だけを摘記すれば（人によりその力說する所夫々特色はありますが）

(1)從來の數學（殊に幾何學）は餘りに抽象的形式的に過ぎ主として演繹法にのみよつてゐた。ために學生は、難解に苦しみ興味を感ずることが少

かつた。之と反對に、直觀に訴へ或は實測により、歸納的に法則を發見せしむる樣に、導いたならば、學生は多大の興味を以て、易々と理解して行くことが出來、かくてこそ、數學教育本來の目的を、達することが出來るのである。

(2)從來は學問のための數學で、之を實用にすることを、寧ろ卑しんだのである。之に反し、實用價値を重視する樣になり、數學知識は、日常生活に必要なる知識であつて、恰も他の自然科學（物理や化學等）と同樣なるべきものである。

(3)從來の數學は、全然孤立主義て、幾何は幾何、三角は三角と劃然たる區別のあることを以て本領とした。之ては餘りに固苦しい。もつとその間の融合を計らねばならぬ。「學問に境界なし」といふ思想に基づき、一方にて證明したる定理は、他方にても之を用ひ、一つの問題を解決するに、代數の知識によるも、はた又幾何の定理によるも、或は物理の法則を用ふるも差支ない。

(4)數學教育の目的は何てあるか。小學校中學校から、高等の學校に至る迄、あの樣に多くの時間を、數學教育のために、費してゐるのは何故てあらうか——これこそ重大問題てこゝに寸言を以て、之を述べんとするは却つて、語弊を招く恐れがあるが——

從來中等學校に於ける數學教育の目的は、主として形式陶冶說卽ち數學を學習する間に正確なる思考力が練磨發達されるものとの理由の下に課されてゐた。然るに近時實驗心理學の發達は形式陶冶否定說を唱へ、實際教育學の立場からは、形式陶冶有害說さへ見るに至り、數學はその唯一至上の價値的根據を危うするに至つた。然らば數學教育の本義は何か。數學教育の眞意義は、實に科學的精神の陶冶に、あらねばならぬ。

と主張するのてあります。兎に角從來の固苦しい形式にとらはれた抽象論理の枠を破つて、生氣潑剌たる人間的知識てあらせたいとの要求が主になつてゐます。

我國に於ても、先覺小倉博士は、數年前東京高等工業學校に開かれたる日本中等教育數學會議に於て「數學教育の眞意義」なる題下に熱辯をふるひ、次いて快著「數學教育の根本問題」を著して數學教育者の反省を促しました。博士は同書中に次の樣に言つてゐます。

さて人間生活に於て科學から學ばねばならぬものが色々ある。生物學上の事實、理化學の現象、天文學地震學の事柄、是等に附帶せる觀察の方法、其他にも尙重要なものが多いことてあらう。けれ共その最も根本的な事は、科學的見方、科學的考へ方、科學的精神を學ぶ所にあると信ずる。曩に述べた如く玆に二つの現象ある時、經驗的事實を基礎として、その原因を穿鑿し、それ等の現象の間に因果の關係ありや否やを求め、若し關係ありとせば如何樣に關係ありや、その間の法則を發見せんとする努力、精神、之が卽ち科學的精神てある。（中略）

而して數學教育の眞意義は、この科學的精神の開發にある。

と結論してゐます。既に數學教育の本義が推理力練磨に非ずして科學的精神の陶冶にあるものとせば、我々はその教材に於て、又教授の方法に於て大いに考慮せねばならぬと思ひます。私の玆に提唱する直觀幾何教授は、その教材から見てもその教授の方法から考へてもよく數學教育の本義に沿ふものであると思ひます。何となれば科學的精神の核心とも云ふべき創造發見の力は、先づ鋭敏なる直觀の力に俟たねばならぬからであります。かの佛國の大科學者ポアンカレーは、この直觀の大道について

證明は論理法によるけれ共發見は直觀に俟つべきものてある。論理は我等に何れの道に超ゆべからざる障碍のあることを教へるけれ共、吾等を目的物に導くのが何れの道てあるかを教へては呉れぬその道を知るには、遠くから目的物を眺めることが必要てある。遠方から眺めることを我等に教へる完能、之が卽ち直觀てある。

と言つてゐます。まことにユークリッド幾何學中にある何千といふあの美しい諸定理の多くは、天才の鋭敏なる直觀の力によつて發見せられたものてせう。今後の教育に於ては、鋭敏な直觀力を養ひ以て科學的精神の開發をなすことが最も重要視されねばなりません。然るに今の數學教育者中には、數學を以て唯推理力練磨にのみ價値あるものと解し、一向に證明にのみ沒頭するものが尙多い樣てす。——出過ぎた言ひ方か知れ

ませんーーお互ひに反省せねばならぬことです。

女子學習院の若い數學教師國元東九郎君も、直觀的幾何教授の方法を讃美して

何ぞ知らん幾何知識の獲得には、必ずしも至難なる演繹論理か、唯一絶對の險道ではなくて、そこには平々坦々たる直觀の大道が開かれてゐることを。然もこの大路の沿道には創造といふ美花が、次から次へと咲き亂れてゐるてはありませんか。

と稱へてゐます。

以上私は數學教育の本義と、晩近の教育思潮とから考へて、我が直觀幾何教授の一日も早く實施普及せられんことを、切望して已みません。

三、諸外國の狀況

然らば歐米諸國に於ける之が狀況は如何であらうか。私は之が說明は、次の國枝博士の歐米教育視察談の一節で充分であると思ひます。

英國の小學校の如きは既に四年から幾何を始めてゐる。日本でいへば尋常四年であります。猶ほ丁抹でも墺太利でも、佛蘭西、獨逸、匈牙利、伊太利等何所でも皆四年位から始めてゐる。その幾何學はどんな程度のものかといふと、ゴッドフレー、シッドンスのショーターヂオメトリー（A Shorter Geometry）位であります。それから五年目あたりからそろ〳〵代數を始める所もある。で多くは先づ六年十二三歳から代數を始めます。日本ではどうなつてゐるてせう。幾何學などは、中學の三年生にならなければ始めぬといふ文部省の規定になつてゐます。實に日本程幾何學を遲く始める國は、何所にもないのであります。（下略）「直觀幾何教授ノ理論ト實際」よりとあるので分ります様に、諸外國は多くは、小學校四五年の頃から、之が教授を實施してゐる様です。殊に獨逸の如きは、彼のクライン教授を中心として、この種の研究が早くから行はれ、一九〇五年には、所謂メランの學制案が公表されました。ステツケル、トロイドライン、リーケ等幾多實際教育家の經驗案が、續々として教育界を賑はしてゐるさうです。思へば我國幾何教授は、誠に心細いてはありませんか。

然し乍ら徒らに、諸外國の眞似ばかりしたがりますのは、心ある方々の御叱りを招くに違ひありませんが數學だけは、全く他の學科と違つて、萬國普遍的な學問です、國の氣候風土が違つても、國民の感情が異なつてゐても、數學の知識だけは變りありません。彼の國の兒童が喜ぶ知識ならば、又我國兒童も喜ぶに違ありません、諸外國は既に實際經驗を以て、我等に好い範を示してゐるてはありませんか。

諸外國の實際に鑑みて、我等は一層痛切に之が教授の必要を感ずるのであります。

× × ×

以上私は三個の立場即ち

一、幾何學の歷史と兒童心理の要求に立脚して

二、數學教育の本義と晩近教育思潮とから考へて

三、諸外國の實例に鑑みて

より直觀幾何教授の必要を說述致しました。（一及二）はその根本的な要求であつて、（三）は事實によつてその必要を證明したものであります。或はまだ他に重要なる理由があるかも知れませんが、少くも右の三條件だけを以てしても、私の主張の充分に肯定せらるゝことと思ひます。

算術科成績考査に關する研究

青柳尋常高等小學校訓導　丸山知得

一、成績調査の必要

教育は兒童を本位として其の身體、人格竝に智識技能等の各方面に就て專ら其の充實增大を計ることを以て主眼としなければならぬ又要言すれば兒童心身の實力を修養することを以て教育の本領としなければならない。卽ちどこまでも兒童本位と云ふことを忘れる譯には行かないのである。夫故に教育をして間違なく周到適切に施行しようとするには一面に於て諸種の施設經營をなし、あらゆる手段方法を講じて奬勵努力すると同時に、他面に於ては其本質たる兒童を研究しなけ

ガラス使用

ればならない、そして兒童をよく知るためには先づ兒童の一身に關して種々詳細なる調査を遂げなければならぬ。斯樣な調査をせずして只敎師の推定や想像に基づく豫定で敎育をなすときは、全然方角違ひの方向に誘導する樣な誤りに陷る恐れがないとも限らない故に學校では手の盡せる限り諸種の事項に就いて兒童に關する調査をなし確實なる基礎正當なる豫定の上に適當なる敎育を施す樣にしなければならない。而してそれ等努力の結果が如何に現はれつゝあるかを調査する所の兒童の成績考査も亦重要なる任務を有するものであることは論ずる迄もないことである

二、成績考査の意義

成績考査の意義を考察するに先づ注意すべきは之に關する法令竝訓令である卽ち小學校施行規則第二十三條に規定せる「小學校に於て各學年の課程の修了若は全敎科の卒業を認むるには別に試驗を用ふることなく兒童平素の成績を考査して之を定むべし」とあり。竝に之が理由の說明として、明治三十三年八月廿二日文部省訓令の中には「小學校に於て各學年の課程の修了若は全敎科の卒業を認むるには平素の成績を考査して之を定め試驗の方法に依らざることとせり是れ心身の發育未だ十分ならざる兒童をして競爭心に驅られ試驗前一時に過度の勉强をなし是が爲に往々心身の發育を害するのみならず試驗の爲に勉强するの陋習を馴致するを避けんが爲なり」との趣旨である。此の法令の規定せる成績考査は單に各學年に於ける課程の修了竝に全敎科卒業の認定に資する所の單なる目的の爲にする事項であつて余の研究せんとする考査の一部分のものである故に多少其の目的とする所は異つて居るけれ共兒童の成績を考査する點に於ては變りはない。夫故に之を實施するに當つては右の訓令の趣旨を忘れないで其の弊害に陷らない樣に努めなければならないのである。然るに事實は動もすると試驗其の儘に流れて訓令中に避けんとする陋習は毫も其の跡を絕たないと云ふ樣なことのあるのは成績考査の意義が確立せず其の方法に就いても充分に攻究されない結果ではなからうかと思ふのである。然らば成績考査の眞意義は奈邊にあるかと云ふに入學試驗とか選拔試驗とか比較試驗とかいふものでない限り通常の成績考査の意味は次の如くであらうと思ふのである。

A　敎師側

1　兒童先天的素質及び其の時に於ける能力を調査することによりて發展進化しつゝある個性の狀態を察知すること

2　兒童の學習力を檢査し敎授の效果を知り敎授計劃に反省を與へ適切なる變更改善修補等の必要手段に出でしむること

3　兒童學力の認定資料に供すること

B　兒童側

1　兒童は自己の個性と能力を自覺して價値ある進化の道を工夫すること

2　自己の學習力を自覺して學習に對する興味と自奮心とを惹起すること

以上は主として個人と學級とを本位として成績考査の意味を考へたのであるが更に學校として或る特別目的の爲に敎科目本位に或は學級比較の意味に於て行ふ試驗等も或る種の成績考査であるので重要なる意味を持つものであらうが是等に關しての詳細は茲には略すことにした。

三、算術科成績考査の意義

一般に調査の必要成績考査の意義が果して前述の如くてありとするならば算術科成績考査の必要竝に其の意義も亦自ら明瞭であつて、前揭の意義の下に本科の考査も施行せらるべきものであると信ずされど、算術科につきては特に左の諸點に留意せられなければならないと思ふのである。卽ち此の算術科程成績優劣の差の著しきものはなく、否更に進んで兒童の先天的素質に關係する所の甚だしいものは他の敎科には少ない、然かも大切な基本學科で概して困難な學科である。そこでこの學科に於て兒童の成績の惡いのは一體どう云ふ點が主になつて居るのかと吟味して見ると諸種の原因があるであらうが、大抵は根本の理解が能く出來て居ないと云ふ點にあるやうである。卽ち基礎の觀念が確かに出來てゐないのに先へ〳〵と進んで行く爲に何時迄經つても本統の理解が出來ないで良好な成績が得られないのであらうと考へる而して之を救濟する方法の一つとしては適切に施行せらるる成績考査が與つて力あることを確信するのである。卽ち兒童の個別的調査によつて先天的素質を知り之に應ずる策を工夫し算法別の考査によりては基礎觀念の確否を察して爾後の

ガラス使用

教授を考案するが如き根本的方法をたどることがそれてある。

四、算術科成績考査の方法竝に時期

算術科成績考査の方法竝に時期はその意義が既に決定せらるれば隨つて解決される譯で、其の時期等も決して學期末又は學年末に一二回試験的に行ふのみては不都合であることは云はずして明瞭な道理てある。此の意味によりて算術科の成績考査は學年學期の間に屢屢行ふべきものであるからして、其の時期竝方法は次の如くなるべきものと思ふのである。

1　新學年の當初に於て本學年の基礎となるべき既授教材を精調して全級に向つて考査し其の成績に應じて復習時間數を豫定し尚兒童各自の能力を察知する資料となす事てある。由來算術科は石垣的のもので基礎竝に中間に缺陷があれば後て積上げられるものは如何堅固なりとも到底萬全を期する事は出來ないからである。而して此の方法は學年の高下によりて多少異なるべけれども、尋三以上の學年にては數回を要するであらう。

2　日常成績の考査としては教授時間中に於ける復習的發問の成績平常取扱ふ所の算術帳の檢閲の場合の考査も簡單にして有效なものである。

3　試驗的問題につき算法の解釋運算の練習に關する成績を考査することは尋三以上位には少なくも一ケ月一回位は不意に行ふべきものである。假りに成績考査を兒童成績優劣を認定する資料とのみ見ても、回數の多き程精密の度を增すことは論を俟たない。況して其の他に重用な目的を有するものであるに至つては尚更のことである。而して之を行ふの時期は普通は一團の教材を終了した後に行ふべきものであると考へる。

4　特別調査の目的で或る一部の兒童を限つて行ふ考査も見逃すことの出來ない方法である。例へば劣等兒の缺陷が何處にあるかを極めんとして一部の劣等兒にのみ課する方法の如き或は計算能力が如何程迄伸びつつあるかを試みんとして中等兒以上に課するが如き是である。

5　學校長が各學級の統一指導竝に受持教師を刺戟し兒童の自奮心を旺盛ならしむる手段として行ふ各學級の比較考査も亦價値ある方法てあると思ふ。然し乍ら之が實施に當りては周到なる計畫と綿密なる研究とを以て極めて愼重に行ひ試驗に伴ふ弊害に陷らない様に注意すべきは勿論である我が校に於ては大正三年以來繼續事業として一學年間少くも四回以上の比較試驗を行つて來たが其の結果は極めて良好で漸次教師の研究心を高め兒童の自發的學習力を盛ならしめ逐年成績が向上される様に思はれ之に伴ふ弊害らしいものは未だ認めないのてある（之に關する施設竝に大正三年以降の成績は廣汎に亙るが故に省略す）

以上諸種の方法を述べたが是等各種の場合の成績點數は其の都度兒童の學力を決定する考査簿には記入せられなければならない、何となれば近來の教育思潮から考へても教育は兒童の生活の指導てあるから其の能力に關係せず、同一問題にて時間に何等の關係なく其の成績を決定すると云ふ様な事は誤つて居るのであつて出來るだけ多方面から見て其の兒童としての能力と努力との關係を考察して定めなければならないと思つて居る。卽ち一二時間の申譯的の考査て學力を推定するなどは最も愼しむべきことて、少なくとも其の兒童の眞の成績は學期の初めより終りまての全體てあらねばならぬのであるから以上各種の場合の點數を記入し平均することは比較的眞に近いと信ずるからてある。

五、考査成績の處理と利用

前述の如き各種の目的と方法とを以て時間と勞力とを費して實施した考査も其の成績の處理と利用如何によつて其の效果を沒却し目的を達し得ないと云ふやうなことになると思ふのてある、故に其の利用方法につきても充分考察して置く必要を認めるのてある。

1　新學年の當初に行ふ基礎教材の考査竝に一團の教材終了後に行ふ考査の成績は之を個人別に精査して其成績物に能不能を明瞭に朱書し置き、最後に總括的の一覽表を作製して各兒童の教材別能不能を一目瞭然にするのてある。斯くすることによりて各兒童個人別の缺陷を知り、之を該兒童にも知らしめて學校に於てなり、或は家庭に於てなりに缺陷矯正に努めさせるのてある。次に之の表を横に統計して孰れの教材が多く誤られて居るかを發見することによりて教授の反省と改善に資するのてある。余が最近高等科一學年になしたる實例は次の通りてある。

ガラス使用

高等科第一學年教科書第二篇比例につき其の基礎教材たる比及比例式の一圍を六時限にて一通り教授し終り其の徹底の程度を檢せんとして第一回の考査をなし其の成績に鑑みて更に一時限の復習的教授をなし第二回の考査をなしたる狀況は次の通りである。

一、考査時間三十分

二、考査問題

第一回

(1) 次の比の値を求めよ

(イ) 18：90　(ロ) 2：$1\frac{1}{5}$

(2) 次の比を出來るだけ簡單にせよ

(イ) 60：80　(ロ) $\frac{5}{12}:\frac{21}{30}$

(3) 次の比の反比を書きその値を求めよ

(イ) 8：9　(ロ) 4：8.4

(4) 次の比例式を解け

(イ) 6：8＝15：x　(ロ) $11^{日}:6^{日}=x^{年}:7^{年}$

(5) 次の比例式は正しいか正しくないか

(第一回)

問題	不能者數	備考
〔1〕比の値を求めること	一一人	方法を會得せざるもの 一 計算の誤り 一

三、兒童別一覽表の例

問題 / 兒童名	比の値	比の簡約	反比	比例式 第一回	同
何某	△	△			
何某		△	△		△
同	△				
不能數	二	一	一	一	〇
備考	意義不明	分數の計算	美	意義、計算の誤り	

四、成績總括表

(第二回)

不能者數	備考
三	方法全部會得 分數計算の誤り 九
八	
九	

(二)比の簡約　一四
(三)反比の意義と價　一五
(四)比例式を解くこと　六
(五)比例式の正否を檢すること　八

(備考) 第一、二回を通じて分數の計算法に缺陷ありしことを認むたり。

三	七	方法全部會得 約分の誤り	七
六	五	意義を誤るもの 計算を誤りたるもの	三
九	五	方法不明 計算の誤り	二
二	五	方法不明 名數の取扱を誤りたるもの	二
四	五	方法不明 計算を誤りたるもの	二
四	五	方法不明 計算の誤り	三

2　學校の施設事項として行ふ各學級の比較考査は學年度始めに各學年成績表竝累計表を調製して調査の都度之を記入し見易き場所に揭示し置き兒童及教授者の反省に資し兒童には發奮勉勵益々自學の念を盛ならしめ教授者には教授法改善等の工夫を刺戟することになる又年度末累計表によりては兒童の實力の該要を察知する材料となし新學年度計畫の參考物とするのである。

又同一兒童各學年別比較圖表、年度別各學年、學年別各年度等の圖表によつては現今の國定教科書の難易兒童理解力發達の狀態等を歸納する材料の一端となし更に進んでは受持教員との關係迄も研究する資料が得られるであらうと考へて繼續實施中である。

附言竝に成績の實際

本研究は覺束ない、余の主觀的な現在に於ける理想論とも云ふべきものであつて、客觀的の根據の薄いものであり、且又方法の全部を余が體驗し得たと云ふのでもなく、誠に價値の少ないものとなつたけれども幸に本校では大正三年以來算術科成績上進に關する施設につきて繼續的に實施せられたので余も亦其事以來如何にもして受持兒童の該科の成績を向上させたいとの希望は繼續的に持つて居たつもりである。乍然何等見るべき施設もなく研究もなく、慢然今日に至つたのであるが、大正三年以來每年度の本校を通じての算術科平均點と竝に余が受持ちたる兒童成績點數は左表に示す通りである。然しながら考査の問題實施方法竝に時機

等の研究が充分でないから此の表を以て一概に成績を論斷することの早計であることは云ふ迄もないことである。

兒童をして眞に學科に興味を起さしめて自發的研究心を盛ならしめるのには、其の學科をよく知らしむる事にある。其の學科をよく知ることによつて學科に對する愛着心が生ずる、愛着心が起れば自發的の研究心も自然向上される譯である。そして學科をよく知るものは成績の進歩したものである。故に要は成績を上進させることが根本であると信ずるのである。而して成績上進の有效なる一策として上述の考査法は確かに力強い一部を占めて居ることだけは余の狹い經驗界から生れ出た確信であることを附言して研究の一段落とするものである。

年度別	學年別人員	一ヶ年平均點	前年度前學年ヨリ比較	各學年平均點
大正三年度	(高一 二七 (高二 二〇	五、八八 六、九〇		五、一八
大正四年度	(高一 三二 (高二 二五	五、三九 五、九五	四、五四 五、八八	五、〇〇
大正五年度	高二 二七	五、九〇	五、三九	五、〇三
大正六年度	尋五 五六	四、八六	四、一四	四、八五
大正七年度	尋六 五六	四、五六	四、八六	四、四九
大正八年度	(高一 二七 (高二 一七	五、八四 五、八三	四、五六 四、一七	四、六九
大正九年度	尋四	病氣退職完成せず		
大正十年度	尋五	校長缺員受持中途變更完成せず		
大正十一年度	尋三 七一	六、二三	四、九七	五、六八
大正十二年度	(高一 三二 (高二 二三	現在	四、一〇 五、六〇	

農村的公民學校の内容充實

埼玉縣大幡公民學校　鈴木禮藏

はしがき

晩近諸種の教育學說頻々として起り我等實際家をして其歸する所を誤らしむる狀態である。併し熟々考ふるに其多くは對象物たる兒童生徒を抽象的に考へて立論したものであつて、現在の我日本の兒童生徒を對象として考へたのではない。私は夙に我國の現狀に立脚し農村の兒童生徒を本位としたる農村的教育を主張し、屢々所懷を述べて識者の批正を仰いだ。偶々昨夏全國補習教育大會の開かるゝや、席上所信上を述べて松浦文部次官、川上參與官以下全國多數教育家の賛同を乞ふた。爾來之に共鳴せらるゝもの日に多きを加へ、本縣當局亦之を賛し多額の研究資金を給與せらるゝに到つたのは分外の光榮である。然るに幸なる哉、近日文部省實業補習教育主事松本喜一先生本校を視察せらるるの報に接す、余の喜や恰も大旱に雲霓を望んだやうである。けれども先生の旅程忙しく到底長時間に亙りて教を乞ふの不可能なるを察し、蒼皇筆を走らして所信の一端を述べ、伏して先生の高教を仰ぎ、併せて世の識者の批正を乞ふ次第である。固より研究杜撰語句又洗錬を缺くの譏は甘んじて受くる所であるが、幸に其意のある所を諒とせられむことを望む。

大正十五年　彌生中院　編者誌

農村的公民學校の内容充實
一、緒言
二、公民學校の目的
三、公民學校の輪廓整備
四、公民學校の内容充實
(一)職業的知識技能の授與練磨
(二)職業精神の陶冶
(三)公民的品性の陶冶
(四)普通學の實力增進
(五)農業以外の職業希望者の指導
(六)植民思想の養成
(七)體力增進
五、公民學校の地方産業及教化への貢献
六、公民學校經營に對する苦心
七、結論

緒言

余は曩に農村的公民學校の新建設及農村的小學校の新建設なる二小冊子を公にし農村公民學校竝に小學校の響ふ處を明かにし、其基礎的方面の事業に就て卑見

ガラス使用

を披瀝し、識者の批正を仰いだのであるが、凡そ事は創業のみて良いのでなくて、須らく守成整理の三階段を經なければならない。公民學校も既に豫算も決まり專任敎師も置かれ男女の兩部を設けた。今日更に要求する所は如何に其施設をなすべきか、如何に運用すべきか、換言すれば如何なる卒業生を出すべきか、如何に地方産業及敎化に貢献すべきかの問題に逢着したのである。所謂お大皷時代宣傳時代を經過して內容充實時代實質時代に入つたのである。公民學校が眞に其の天與の使命を全うすべき時は、抑是からであると思ふ余は昨年滋賀愛知を初として關西中國四國等十餘縣の補習敎育狀況を視察したが、何れも內容の充實に苦心して居るのを見た。或人は公民學校の前途は行き詰つて居るなどと云ふが、それは單に今日に於ける效果如何をのみ標準としたので、余をして云はしめれば未だ序幕であると思ふ。眞に多難、多艱の現在を斬り拔けて其成績を顯著にし小にしては生徒をして各其處を得しめ、大にしては國家の前途を安泰ならしめる事は我等の天職ではなからうか。此の意味に於て余は內容充實上の卑見を述べて再び敎を識者に乞ふ次第である。

二、公民學校の目的

公民學校の目的は實業補習學校規程の示す所の「實業補習學校は小學校の敎科を卒へ職業に從事する者に對し職業に關する知識技能の授くると共に國民生活に須要なる敎育を爲すを以て本旨とす」とある所で明白であるが、これが我國の敎育系統上如何なる地位にあるかを考へる爲此處に他の學校の要旨を引用すれば

1. 小校學ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德敎育及國民敎育ノ基礎ニ竝其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス
2. 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通敎育ヲ爲スヲ目的トシ特ニ國民道德ノ養成ニ力ムヘキモノトス
3. 高等學校ハ男子ノ高等普通敎育ヲ完成スルヲ目的トシ特ニ國民道德ノ充實に力ムヘキモノトス
4. 大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ理論及應用ヲ敎授シ竝ニ其ノ蘊奧ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス
5. 實業學校ハ實業ニ從事スル者ニ須要ナル知識技能ヲ授クルヲ以テ目的トシ兼テ德性ノ涵養ニ力ムヘキモノトス

6. 高等ノ學術技藝ヲ敎授スル學校ハ專門學校トス

之を以て之を見れば、小學校は基礎敎育であり普通敎育である。中學校高等學校は高等普通敎育て大學は學理の蘊奧を究むる所、そして實業學校は實業的知能の敎育で更に實業補習學校は小學卒業生に對する實業的知能竝に國民的陶冶の場所である事は明かてある。

故に公民學校は勿論專門的の學術技能を授ける所ではなくて、日常從事する職業に對する簡易なる理論と實際とを授ける所であるから、其意味に於て職業敎育であると同時に、國民として生活に必須なる事項を授ける所であるから、此の點に於ては國民的精神の陶冶の所であり、完全なる自治市民の養成所であるから、公民敎育であると云ふ事が出來る。世には公民學校の中等敎育を受ける事の出來ない者を收容する所から恰も貧民學校の如くに思ふものがあるが、是は大なる誤解てあつて、我國の經濟狀態は國民の悉くをして中等以上の敎育を受けしめる丈の餘裕はない。國民の八割二分は小學校を卒へた儘職業に從事せしめねばならぬ。是等小學卒業生卽ち國民の大部分を占むる者に對し基礎敎育の上に更に職業敎育と公民敎育とを施して完全なる社會人たらしめ、國家の産業上の活動者たらしめることは、國家として最も必要な事てあつて、而も最も適切なる事てあると思ふ。又かゝる程度で普通敎育を切り上げて職業的陶冶をする方が國家の進展上から云つても宜しい事てあらう。現在中等敎育を卒へて眞面目に實業に從事し孜々として勞働を厭はないものが果してどの位あるてあらうか。徒らに高等遊民を養成するよりも堅實なる實務者を養成する事がどれ程國家の急務であるか知れないのである。

三、公民學校の輪廓整備

凡そ一の學校を經營するには必ず先づ校舍校具等の外形を整へ生徒を募集し優良なる敎員を得て始めて授業が開始される。公民學校は現在多くの場合に於て小學校の校舍を共用して居るので獨立の校舍を有して居る學校は未だ少い、勿論獨立の校舍があればそれ程の事はないが、授業に差支ない限りは小學校の校舍を利用する事はあながち惡い事ではなからう。但し晝間通年制の學校や、女子部の敎室がなくて小學校の裁縫科を不自由せしめるやうな場合特別室の必要なことは勿論てある。

既に教室が設けられたら生徒としては學令内のもの悉くが入學する事が必要である。勿論女子部に就ては所謂裁縫師匠との關係上種々なる難問題に遭遇するであらうが、是等は相當に穩便なる手段さへ講ずればやがては片附く問題である。かくて校舍あり生徒あれば次は適當なる專任教師を得る事である。專任教師の如何は學校の信用に甚大なる關係あるものであつて、殊に女子部の如きは專任の適否によつて直ちに就學出席に大影響を及ぼすものであるから、充分愼重な詮衡をなすべきである。次に起るは實習地の問題であるが、是も適當なる土地を見出す事は敢て難事ではない。次は農具裁縫家事用の大圖書機械等の問題であるが、是は一朝一夕には行かない。一校の生徒が悉く使用する丈の器械器具を備へる事は到底二年や三年で出來るものではない。宜しく一村の經濟事情を考へ數年後の完成を期さねばならぬ、かくて公民學校としての大體の輪廓が出來れば先以て學校として體を備へたのであるが、肝要の問題は愈々これから始まるのである。即ち如何に教授すべきか如何に訓練すべきか如何に體力を增進すべきか等の本論に入らねばならぬのである。

四、公民學校の內容充實

凡そ世の學校を經營するものを見るに、朝に夕に村內の有力者を訪問し、やれ村長、やれ學務委員、やれ商議員、やれ村會議員と東奔西走徒らに外界の交涉を圓滑にせんと苦心して居る所謂外交校長なるものがある。又何の帳簿何の書類と帳簿類の整頓に日も足らない所謂事務校長もある。又何々會何々の施設と滅多矢鱈に新施設をなして、一覽表に書き切れぬ程デパートメント的の施設を講ずる施設校長もある。又それ教授の參觀批評やれ學力調査、やれ訓練の檢閱實習地の監査と只管成績の實現に力めて居る所謂教授校長もある又中には部下の統御や融和親善にのみ頭を勞して居るもの、其日暮しに何の理想もなく安全を第一とするものもある。終りの二者の如きは別として、此等は離れ離れに力を入れべきものではなくて、大體併進的に行くべきものであるが、更に一步を讓つて別々に力を入れるとすれば先づ第一が部下の統一、第二が校下各團體の連絡協調、第三が教授訓練の施設の制定、第四がそれが運用と同時に教授訓練の實績を擧ぐべき努力、第五には夫が成績の上に表れ村內悉くが其德を慕ひ所

謂德化校の內外に及ぶ境地に達することが理想ではあるまいか。即ち如何に施設が宜しきに適つても、之が運用を誤る時は、到底之を成績の上に表はす事は不可能の事なのである。然らば公民學校に於ては如何なる施設をなすべきかは、以下職業的知識技能の授與練磨を始として、七項に分けて愚見を述べて見たいのである。

(一)職業的知識技能の授與練磨

公民學校の教育が職業教育である以上其の主力點を職業科に置くことは當然の事である。即ち農村の公民學校にありては男子の公民科女子の裁縫家事科が其根本となる譯である。然らば農業科の教材を如何に採るべきか、其取扱方法を如何にすべきか。

1. 農村公民學校に於ける農業科

前にも述べた通り、公民學校に於ける職業科は勿論專門的の學理を授けるのではなくて、日常從事して居る職業を理論と結び付けて、漸次之が改良進步を圖るにあるのだから、其町村の實際に立脚せなければならない事は勿論である。例へば米麥を主とする所では米麥の栽培法、養蠶を主とする所では養蠶法を主として授けねばならぬ。併し鄕土に立脚するからとて現在其村で實施されて居るものゝみを以て滿足する譯には行かない。更に其村の將來を考へ、蔬菜栽培を副業として大に奬勵する必要ある地方にては蔬菜を、養鷄奬勵の必要ある所にては養鷄と其の村の將來を慮つて其知識を授け、技能を磨く事をしなければならぬ。又其方法としても勿論現在の方法を授けは、夫を理論付ける許でなく、必ずや一步進んで如何に改良すべきかを授けて、常に其村に於ける產業改良の先驅をなすの覺悟がなければならない。若し徒らに從來の傳統を追ふのみであるならば、特に公民學校に於て學ぶ必要はない筈である。此意味に於て何時も地方の一般當業者よりも一步先にあるの覺悟がなければならぬのである。

次に一般に公民學校の農業科が學問的の排列によるのは宜しくないと思ふ。よろしく實際問題の解決でなければならぬ。余は或時、白菜の栽培法を教授するのを見た事があるか、白菜の品種適地播種期播種法肥料手入管理等と、恰も農業原論其儘の羅列的の教授をするのを見た。斯る方法では公民學校の生徒として決して滿足すべきでないと考へた。余を以て云はしむれば

先づ昨年の栽培成績を基本として、何故に發芽が惡かつたか、何故に結球しなかつたか等の實際問題よりかかる際には、如何にせばよろしいか、更に本村の栽培法はどの點に於てかゝる缺陷があると云ふ樣に、其村特有の教授でなければならない。全國の何處へ持つて行つても其儘通用するやうな教授は生命のないものだと考へる。

次に一般に教授が抽象的である、具體化直觀化されない事である、徒手空拳教場に臨んで、滔々數萬言を陳べた所で、何等實物に就て教授されないでは、殆んど效果は半減されて了ふのである。

左に我校に於て取扱ひたる一例を擧げて識者の教を仰ぐ。

大正十四年五月九日　農業科教授案

教授者　志村德太郎
檢閲者　鈴木　禮藏

題目　水稻ノ挿秧ニ就イテ

主眼　田植ニ當リ本田ノ整地施肥其ノ他挿秧ニ關スル必要ナル事項ヲ知ラシメ合理的經濟的方法ニ於テ其ノ多收ノ實ヲ擧ケタイ

教材及教法

1. 豫備問答
2. 整地　深耕ト生產力ノ試驗成績參照
3. 移植　期日、方法、淺植ト深植ノ收量ニ及ホス關係
4. 肥料

標準1.	堆肥	200貫
	配合	20貫
	青刈大豆	100貫
	石灰	20貫
2.	大豆粕	15貫
	過石	8貫
	草木灰	15貫
	堆肥	200貫
	青刈大豆	100貫
	硫安	3貫（人糞尿60貫）
	石灰	20貫

5. 畦幅及株間
6. 本村ニ於ケル米作狀況
7. 自由　質問

8. 整理

——∧·∨——

參考印刷物　水稻ノ挿秧ニ就イテ

1. 整地
深耕ト生產力試驗　品種　關取十五號
（玉井種藝部）

	草丈	莖數	收量
	尺	本	
一、普通耕　三寸	三、五四	一二、八	二、四四四
二、心土一寸五分深耕	三、六二	一三、四	二、三八六
三、心土一寸五分深耕堆肥三〇〇貫加用	三、二三	一四、五	二、五四三

2. 移植
稗秧深淺ト收量トノ關係

（附）　改良栽培ニヨル增收計算

作付反別	收穫量	同上價格	反當一家平均收穫量	作付反別	增收とすれば	同上價格	備考
粳	一反八	三、一七五石	一二、七〇〇円	二、六反	三〇一、六石	三、〇六四円	米相場　一石四十圓とし農家戶數三〇〇戶として
糯	一、二〇	三、三八	一三、一二〇	二、五	三一、〇	一、二六〇	計算せるものなり
計	一、六八	三、四五三	一四、一二〇	二、五五	三三、六	一三、三四	一反歩當り四十四圓一家當平均二圓二圓の增收

次は農業の實習方面であるが、實習なければ農業なしとも云ひ得るので特に實習の必要を痛感するのである。實習には學校實習と家庭實習と集團實習とがある其目的とする處、長所とする處各異つて居て、學校實

ガラス使用

習には試驗的の長所があり、集團實習には自治的共同訓練の長所があり、家庭實習には經營上の長所があるから何れも必要であると云はなければならない。只學校實習地の面積を餘りに多くする事は公民學校の性質上餘程經營上の困難を來す事と思ふ。何となれば生徒の大部分は家庭に於て相當の家庭農業の勞働を要求せられて居るので家事繁忙を極むる時、家庭の農業を拋つて學校へ來て、長時間實習する事は事情許さないものが多いからである。夫故學校の實習は試驗的のものが特に新しい物のみにして、時によりては教師一人にてもやり切れるといふ自信ある範圍に留め他は家庭の實習と自治的集團實習とに讓る方が得策かと考へられる。

2. 農村公民學校に於ける裁縫科

裁縫科の教材に就ては特に地方的實際的の物を選び質素儉約の美風を作興する様心掛けねばならぬ。農村に於ては特に繕ひ方に重きを置き徒らに新規の物のみを縫はしめるのでなく、補綴の仕方を授けて出來得る限り通俗的に、田舍的に取扱ふべきてあると考へる。袴着の裁縫教師は案外役に立たないとの悪評を受けるのは多くは實際的でない點から來ることが多いのである。

次に裁縫科の理論は實地練習と到底同一時に課することは要求出來ないので、自然理論は理論として進み實習は實習として進むことゝなる。勿論實習をなすに當つて、理論にて授けし所を用ふるのであるし、又裁縫の如きはハトロン紙等に依て理論を授けた際に實地練習をなすべきてある。唯裁縫科を教授するに當り創作的發見的方法を採らないで、決定的獨斷的にかくかくなすべしと授けるのは考へ物であると思ふ。實物標本等によつて其積り方裁ち方をゝ案出せしめるやう心掛たきものである。

3. 農村公民學校に於ける家事科

家事科に就ては將來公民學校女子部の根幹となるべきものは必ず家事科たらざるべからざるものであると思ふ。故に將來の家事科教師は家庭の巡回指導が出來るだけの技倆と自信とを持たなければならない。一般に家事科の教材が都會的であつて、更に農村的でない勿論郷土的でない、之は女子の補習學校教員養成所が全國に僅に二三しかない。今日要求するのが無理かも知れないが、もつと實際的農村的にやらなければいつ迄も不振の境を脱する事が出來ない。そして其一は家事科の設備をなす事である。何等の設備もなくて家事科の成績を擧げやうと云ふのは、到底求むべからざる事である。今左に職業科の設備標準と裁縫設計書及成績帳の一例を擧げん。

裁縫用具設備標準

種類	數量	價格
裁縫机	一二	六〇、〇〇
黒板 大	一	一八、〇〇
小	一	一五、〇〇
教卓	一	七〇、〇〇
戸棚	一	五〇、〇〇
標本戸棚	一	六、〇〇
火鉢	二	五、〇〇
コテ 大	一〇	一五〇、〇〇
小	一一	二五、〇〇
ミシン	三	三、〇〇
火熨斗プトン		三、五〇
鋏 大	一〇五	二、五〇
小	一〇五	一、五〇
尺度 長	一〇	二、五〇
短		
掛圖		

標本用用布	五	三〇、〇〇
衣桁	三	一、五〇
裁庖丁	三	五、〇〇
細工用道具	三	三、〇〇
ヘラ	一〇	一、〇〇
針入箱	一	、三〇
屑糸入箱	二	、三〇
尺度箱	一	一、〇〇

裁縫設計書竝に成績帳

木裁女物袷地實木綿

名稱	寸法(米)	寸法(尺)
袖丈		一尺六寸　分
袖口		尺六寸　分
袖付		尺六寸五分
袖幅		尺八寸五分
身丈		三尺八寸五分
袷肩明		尺二寸五分
身八ツ口		尺三寸　分
後幅		尺七寸五分
袵下り		尺五寸　分
前幅		尺六寸　分
袷下幅		一尺八寸　分
袵幅		尺四寸　分

合褄幅　尺三寸五分
衿幅　尺一寸四分
桁　一尺六寸五分

木裁女物牛天地質木綿

名稱	寸法(米)	寸法(尺)
袖丈		一尺六寸 分
袖口		尺六寸 分
袖付		尺六寸五分
袖幅		尺八寸五分
身丈		二尺六寸 分
衿肩明		尺二寸五分
身八ツ口		尺二寸五分
後幅		尺七寸五分
袵下り		尺 寸 分
前幅		尺 寸 分
衿下		尺 寸 分
袵幅		尺 寸 分
今褄幅		尺一寸三分
衿幅		尺 寸 分
桁		一尺六寸五分

品目　木裁女物袷
裁初　三月十二日
縫上　三月十四日

袖口○　褄下○　袖付◎　裾○　衿◎　身幅○
品目　木裁女物牛天
裁初　三月十四日
縫上　三月十五日
袖口○　褄下／　袖付○　裾／　衿、　身幅◎

家事科設備標準

種類名稱	數量	單價	價格
洗濯用盥	一〇	三、〇〇	三〇、〇〇
同、板	一五	四〇	六、〇〇
擂鉢	八	三〇	二、四〇
同棒	八	〇五	四〇
鍋大小	二四		三〇、〇〇
フライパン	八		五、〇〇
火箸	八	一五	一、二〇
十能	八	三〇	二、四〇
水杓子	八	一〇	八〇
杓子	八	一〇	八〇
飯杓子	八	一〇	八〇
匙	八		
秤	一	一、五〇	一、五〇
桝一升五合二合	一		二、〇〇
薄双庖丁	一五	五〇	七、五〇
出刃庖丁	一五	五〇	七、五〇

カメ　一五　三〇　四、五〇
片口　八　三〇　二、四〇
鰹節削　八　一、〇〇　八、〇〇
井　八　一〇　一、六〇
飯櫃　四　二、〇〇　八、〇〇
裏漉　八　三〇　二、四〇
土瓶　八　一〇　八〇
茶呑茶碗　三〇　三〇　一、〇〇
盆　八　三〇　二、四〇
鑢切　二　五〇　一、〇〇
オーブンフォーク　四〇　一〇　四、〇〇
ナイフ　四〇　一〇　四、〇〇
醤油サシ　八　一〇　八〇
釜大小　二　三、〇〇　六、〇〇
膳　四〇　五〇　二〇、〇〇
皿　四〇　一〇　四、〇〇
茶碗　四〇　一〇　四、〇〇
箸　四〇八　一五　六〇
椀　四〇　一五　六、〇〇
竿　一五　三〇　四、二〇
張板　一五　六、〇〇　九〇、〇〇
目皿　八　一〇　八〇
焼網　八　一〇　八〇
洗桶　一五　一、〇〇　八、〇〇

手桶　八　二、〇〇　一六、〇〇
コンロ　八　一、〇〇　八、〇〇
薬鑵　八　一〇、〇〇
笊　八　五〇　四、〇〇
パケツ　八　三〇　二、四〇
真名板　八　七〇　五、六〇
計

農舍農具設備標準

種類名稱	數量	單價	價格
備中鍬	一〇	一、五〇 円	一五、〇〇 円
レーキ	一四	六〇	二、四〇
シヨベル	一	二、〇〇	二、〇〇
鎌	一〇	三〇	三、〇〇
肥桶	四	七、五〇	三〇、〇〇
天秤棒	二	二五	五〇
肥柄杓	五	大七五 小三三	二、五〇
如露	一	七〇	七〇
カケヤ	一	一、〇〇	一、〇〇
莚	二〇	五〇	一〇、〇〇
簡	四	五〇	二、〇〇
箕	三	一、〇〇	三、〇〇
笊	二	五〇	一、〇〇

ガラス使用

撓架	二	五〇	一、〇〇
連糊	六	五〇	三、〇〇
唐箕	一	二五、〇〇	二五、〇〇
篩	二	一〇、〇〇	二〇、〇〇
噴霧器	一	一〇、〇〇	一〇、〇〇
肥溜	二	三、〇〇	六、〇〇
切出シ	一〇	三〇	三、〇〇
殺蟲殺菌劑調製用具	三	三、三〇	一〇、〇〇
篩	四	三〇	一、二〇
空油空鑵	二	一五	三〇
パケツ	二	五〇	一、〇〇
寒暖計 苗床用	一	三、〇〇	三、〇〇
押切	一	三、〇〇	三、〇〇
鉈	一	一、五〇	一、五〇
鋸	二	五〇	一、〇〇
金槌	一	五〇	五〇
剪定鋏	二	二、五〇	五、〇〇
砥石	一組	一、〇〇	一、〇〇
解剖用器	一	五、〇〇	五、〇〇
比重計	一	一、〇〇	一、〇〇
寒暖計	一	一、〇〇	一、〇〇
針金切	一	一、〇〇	一、〇〇
俵編及俵裝具	一	二、〇〇	二、〇〇
各種肥料標本			一一、〇〇
農具舍		六坪	七〇、〇〇
肥料舍		一棟 一坪半	三〇、〇〇
計			二七四、六〇

(二)職業精神の陶冶

如何に職業的知識を授けても又職業的技能を練磨しても其處に職業的精神を陶冶しなければ所謂「佛作つて魂入れず」の譬の通りで、所詮其職を天職と心得て終生樂しく從事することが出來ない許りでなく、やがて其業を厭ひ、之を廢止し、流々轉々終に定業なきものとなつて了ふであらう。現今我國の農村が嫌農者を以て滿たされて居るのは、要するに其職業的陶冶なき爲であらう。試みに小學校の生徒に向つて其希望する職業を云はしめたならば、特別の町村を除く外、空らく農業希望者の極めて少いのに驚くであらう。これ固より家庭に於ける父兄の聲が餘程迄影響しても居るが既に小學校に於ける敎育方法よりして過つて居る點が多々あるのである。

第一、人生觀の確立を期する事

人が此世に生を稟け、六十年の一生を終るに、如何なる事を目的として進むべきか、從來は功名富貴を求めることが人生の目的なるかの如く考へ、農業者として田舍に一生を終るが如きは愚の骨頂なものか、又は家事上已むを得ざる輩のなすべき事のやうに考へた。功名富貴を望む事は一に慾望の滿足を望むのであつてこれは各人誰もが期する事は出來ないのである。例へば此處に四十人の級がある、其誰もが級長を望んだとて、級長は一人あれば足りるのである。又此處に一萬圓の物資がある、それを四十人が望むとすれば、一人二百五十圓より以上は得られない。若しこゝに五百圓宛を望んだからにが夫は到底達せられない事柄なのである。故に功名富貴は更に上位なる他の目的を達する方便として必要なるだけ望むべきであつて、夫自身が決して目的となるべきものでない事は明かである。然らば何を目的とすべきか。曰く人生は何としても個人の完成と社會の完成とを目的として、國家社會に貢獻する人とならねばならぬ。個人の天賦の才能を助長し修養を加へて完全なる個人となると同時に、社會人として完全なる者となり、己の屬する社會の完成を圖つて行くことは卽ち我等人生の目的であつて、功名富貴の如きは或程度までこれが爲に必要なのであるのみである。故に生徒をして徒らに外形の美にのみ向はしめ特殊な英雄豪傑若くは成功者にでもならなければ恥づるかのやうに敎育するのは以ての外の間違であると思ふ。

國を思ふ道に二つはなかりけり
　銃を執る身も鍬を持つ身も

第二、職業の社會的意義を知らしむる事

職業が單に自己生活の爲なるかの如く考へるのは今日の通弊である。固より職業は一面に於ては生活の資源を得ることは明かであるが、又一面に於ては社會の爲に物資の供給其他必要なる努力をなしつゝあるものである。然るに單に自己の利害如何のみを以て之を營むものとすれば利益の少い場合には直ちに之を停止すると云ふ事になる。職業は世の爲人の爲であると云ふ考へを充分に吹き込んで、單に利己的に之を解するが如きは、大いに打破しなければならない。由來現今の敎育は、個人を餘りに重視するの結果、自己滿足といふ事にのみ重きを置き、國家の爲に社會の爲に世の爲人の爲にと云ふ考へが非常に薄らいで來た。換言すれ

ば享樂主義の教育であり利己主義の教育である。もつと鍛錬的でなければならない、利他的教育でなければならぬ。況んや我が國の如き天然の資源に乏しき國に於ては、餘程の程度まで慾望を抑制して、本務的に働く習慣をつけなければならない。所謂社會奉仕的の思想を充分に涵養して行くことが當面の大急務であると考へる。

左に我村の青年の近作一二を掲げて彼等が如何に職業に對して確固たる信念を有するかを紹介する。

夏の木蔭（田園趣味）

「腰のいたさよ　この田の長さ　四月五月の日の長さ」

隣田で誰かゞ歌ふ聲が聞える、酷暑三伏の候、ほゝを傳はる汗はまるで蟲の這ふやうだ。腰はいたくなるが自分の歌ふ唄にまぎれて、家の爲め國の爲め、一粒も多く米を取りたい許りに一生懸命耘え田に草を取る農民の辛苦。

「まあ休め」いつか木蔭に行つた隣田の人が呼つた。木蔭で赤兒に乳を與へて居る隣のおかみさん。彼女の愛のこもつた瞳は滿足さうに抱いて居る子供を見つめて居る。

その側で煙草をくゆらす彼の夫が目に焼けた顔は健康と幸福そのものゝ様に輝いて居る。

三伏の暑さもこの一本の木蔭に憩ふ彼等の談笑は自ら春風の訪れる長閑けさである。

×

趣味の蔬菜園（田園趣味）

短い冬の日も秩父の空を黄色くぼかして姿を消した。身を切るやうな淺間颪は夕方になつて幾分靜かになつた、けれども寒さは一層身にしみる。「最う仕舞はう」と弟に振馬鍬を渡して三町許り隔つた趣味の蔬菜園まで細い畦道をよぢけ〳〵走つた。

ほうかぶりを取れば寒い風も快くほてつた顔をなでゝ吳れる。

風は時々思ひ出したやうに白菜を覆ふたシビを吹立てた。

私はそのシビを除けて一株の白菜を取り指で頭を押して見て思はず微笑を禁じ得なかつた。京菜は丈夫さうに深綠を見せて時々吹く風にきら〳〵光つた。えぞ菊は霜除けの下でふるへて居る！

暖い晩餐の湯氣を圍んだ一家五人の團欒、味噌汁の中に一片の白菜を味ふ時……裏の梢を渡る木枯も共に和するやうだ。

×

勞働の幸（田園趣味）

秩父颪は間斷なく吹荒ぶ。四五日以來急に寒くなつた暖かさうな毛皮の襟のついた二重廻しを着た紳士が自轉車を北に走らした。が彼は今の紳士は呼吸をはづませて自轉車をふむけれども、却つて思ふやうに走りはしない。彼はチエツと舌打ちをして降りてしまつたつけ。

町の人達が皆暖かさうなコートを着たり襟巻をしたりして南に行つた。然し彼等も一人として暖かさうな顏をして居なかつた。

その時俺はつく〳〵勞働し得る幸福を味はつた。

シヤツ一枚で寒い風も酷暑凉風のこゝろよさだ！

そして腕の筋肉が隆起する度に一鍬づゝ桑畑は耕される。

何時か短い冬の日も西に傾いた。

×

（三）公民的品性の陶冶

職業教育と共に公民教育が公民學校に於ける二大眼目の一である事は、前之を述べた。然らば如何にして公民的知識を授け其品性を陶冶するか、これは公民學校の凡てを通じて行ふべき事柄ではある。けれども殊に公民科の教授と公民訓練に俟たねばならない。

1. 公民科の教授

後期に於て授ける公民科は單に法經的の知識を授けるものではない。徒らに條文の暗記を強ゆるが如きは固より間違つて居る。と云つて讀本的の取扱は尚更云ふに及ばない。公民學校に於ける公民科は社會生活に必須な事項であつて、換言すれば社會人として生活する心得を知らしむべきである。卽ち法令の生れたる理由立案の由來趣旨若くは風俗習慣の依つて來れる根本思想を明かにして今後の社會人は如何に生活すべきであるかを明かにし、尚現在我等の屬する各種社會の現狀を明かにして、之が爲に貢献すべき思想を養成すべきである。一言にして云へば、人と社會との關係を明かにすべきである。殊に此科は其鄉土に立脚して府縣國家世界にまで及ぶべきであるから、鄉土調査を完全

にし材料を此處に求めなければ生きた公民敎授は出來ないのである。左に熊本縣にて行ひたる鄕土調査の樣式を揭げて參考に供する。

第一、天然的要素の調査

一、面積。

二、地勢。1四圍の境界(地圖)、2地形、3乾濕地の配置、4河川……水量、水質、水勢、位置、洪水、旱魃の害、5湖沼……位置、面積、狀態、6丘陵、7堤防、8浸潮、9地震、10海山湖等に至る海、水、陸路。

三、氣象。1年月日別及平均最長、最低溫度、2雨量同上、3濕度同上、4風位風力、5晴雨曇日數及季節別、6雪霜、初霜、晩霜、結氷、霜柱、霙、霰の降下日數及測候所豫報の當否、特に初霜晩霜の極端なる例、7氣象の變遷及原因海岸山嶽地形河川等の及ぼす變化例へば朝霧夕立の如し、8季節の長さ及特質四季節溫度の變化狀態。

四、土壤。1地質系統明細圖、2一般的性質、3各部落に於ける化學的分析特に酸性土壤。

五、森林。1位置、2種類、3植物の種類、4部分林

部落有林、公有林、官有林、社寺林、私有林別。

六、動物。1種類、作物家畜人類に對する害益蟲鳥獸等、2配置部落別。

七、鑛物。1鑛脈或は鑛層の位置、亞酸化鐵の害有無鑛毒の有無、2鑛石の性質。

第二、人的要素の調査

一、沿革。1村治の變遷、2名勝遺跡等、3村民思想の變遷。

二、戶口狀態。1本籍戶口數、(イ)戶數各大字、各部落別其の增減、(ロ)人口數—男女、年齡及同上、(ハ)家族—數最大最小平均、2現住戶口、(イ)戶數、(ロ)增減、(ハ)人口數現住人口と非現住人口との差、年齡男女別、各大字各部落別人口數增減、(ニ)離婚同上、(ホ)獨身者の數、男女別年齡其原因、(ヘ)寡婦鰥夫、數、年齡、(ト)孤兒同上、(チ)雇人、數、各字部落男女年齡出身地別、(リ)出寄留、男女、年齡職業出身地別及累年比較、(ヌ)出產及死產、3職業(イ)現住者及本籍者職業別其の數、(ロ)農業者、數自作、自作竝小作及小作の專業兼業別其の大字別、(ハ)商業者、數、專業或は兼業別及其の大字別、(ニ)工業者同上、(ホ)雜業の細則、(ヘ)各職業業務者別男女。

第三、經濟狀態の調査

一、地目。1田畑—筆數、面積、2郡村宅地筆數、面積、所有者の數、3森林—同上、4原野同上、5牧草地—同上、6道路、種類、面積、里程、7以上の利用狀態。

二、面積及地價。1官有地段別、2民有地段別及地價(田畑郡村宅地)及時價、3田畑宅地—一筆當の廣狹(最廣最狹及平均)、4田宅畑地—一段步當り地價の高低、5土地所有者の區別(耕地及宅地所有の廣狹に依る)、6村民の他町村に於ける所有地と他町村民の自町村內に於ける所有地との比較。

三、農耕。1耕地面積—a土地所有の廣狹に依る區別b耕作地區の廣狹に依る區別、c耕作者の性質(イ)自作戶數段別耕地一戶當り平均及家族の多少、(ロ)自作兼小作、自作、小作反別戶數及同上、(ハ)小作同上、(ニ)土地所有者にて耕作せざるもの戶數耕作反別一戶當り生業、d田畑の一戶及一人當り平均、e村內土地の自村及他村民の耕作地比較、f一毛作二毛作田の區別反別。2小作、a種類—歷史的關係現在の狀況、b數全面積小作反別、廣狹(最高下平均)一戶口當り面積、c契約—方法及時間、d小作間の協同—耕作災害等に於けるもの、e附帶權利義務、小作料、大字、部落別、最高下平均。

四、資本。1固定資本、a各地同の地價、b村內に於ける村民所有地の時價、c村外に於ける村民所有地の時價、d建築物—住宅、作小屋、倉庫別、建坪數價格、公私有別。2流動資本、a株式及債券—所有者數、職業種類、金額、b貸金—貸主の數、金額、c預金、種類、預主の數、金額、信用組合、銀行、郵便貯金、d農業運轉資本、(イ)動物—種類、數、飼育目的、價格、(ロ)肥料(以下供給の狀況)、(ハ)器具同、(ニ)飼料同、(ホ)種子同、(ヘ)食料同、漁業運轉資本同、e商業運轉資本同、f工業運轉資本g雜種業運轉資本同、h生產的と不生產的資本との比較。3財產、a各地目別土地所有の廣狹に依る區別、b所有財產高に依る區別、c住宅家屋の坪數に依る區別、d居住宅地坪數に依る區別、e居住宅地坪數に依る區別。4負債、(イ)公共用、個人用(農

商工別)負債高、利子及年限、(ロ)負債の原因、(ハ)生質。5支出對照、a一般財産支出對照、b戸口當り財産支出對照。

五、生産。1生産、組織の概觀(農工商漁業別)。2農業、a農業、(イ)米—作反別、生産額、價格、增減、播種、種苗、收穫期、一反歩當り生産額、戸口當り生産額、收入金額、(ロ)麥同上、(ハ)穀類同上、(ニ)莖類同上、(ホ)果實同上、(ヘ)蔬菜同上、(ト)雜作物同上。b蠶業、(イ)戸數、(ロ)桑作付反別、(ハ)掃立期上簇期、(ニ)一戸當り生産額、(ホ)生産總額、(ヘ)生産費、(ト)純益、總額及戸口當り。c林業、(イ)材木、森野反別生産額單價、收入額販路、輸送方法、(ロ)薪料同上、(ハ)竹材同上、(ニ)筍同上。d漁業、(イ)戸數、人口數、專兼業、(ロ)船舶數、價格、(ハ)漁具、種類、數、價格、(ニ)販路及輸送方法、(ホ)收益、總額及戸口當。3工業、(イ)戸口數、專業兼業戸數、(ロ)資本—總額、戸口當、(ハ)種別、(ニ)勞働者、使用數、男女別、支拂賃金、總額戸に當り、一人當り賃金、(ホ)生産額種別、一戸當り、(ヘ)生産費、(ト)動力—種類、馬力數、其の經費、(チ)販路及輸送の方法、(リ)收益總額、戸口當り。4商業、(イ)戸口數、專業兼業戸數、(ロ)種別、(ハ)經營—大小或は方法に依る區別、(ニ)資本—總額—一戸當り平均、(ホ)一ヶ年賣り上り高總額最高低平均、(ヘ)純益、總額及一戸當り。

六、公費。一、土地の負擔、1各稱稅別及累年比較、2田畑郡村宅地一反當り及同上地價當り累年比較。二、住居の負擔、1負擔金額、2負擔額—一戸當り高低及平均。三、營業者の負擔、1各種稅別、負擔金額、2累年比較。四、稅金滯納、1種別、2戸數3金額、4其の原因。五、村費の使途、1種別、2金額、3百分比。

七、取引。一、各種生産品に對する小賣人及仲買人—數、村民力、村民外力。二、各消費品販賣購賣の狀三、協同に依る取引、(イ)産業組合、1性質、2組合員數、大字、部落別、3出資額及出資口數、4損益計算、5借入金其の償還、6事業概觀、7貸借對照、8貸付金及其の償還、9貯金、10貸付金及利子11受入又は販賣したる物、數量、價格、12購買又は賣切したる物、數量及價格、13倉庫及土地の使用、14財産目錄。(ロ)同業組合、1生産品の種類、2組合の範圍及組合員數、3組合の經費及各員の負擔額、生産品販賣金額、一戸當り平均、高低、4輸送の方法。

八、生計。一、收益、1農業より來る收益額、各種農産物別、2蠶業より來る收益額、3林業より來る收益額、4工業より來る收益額、5個人的收益、(イ)給料、(ロ)各種職人及勞働者の勞賃、6利子預金、貸金、公債、株式、7村外土地より來るもの、(イ)耕作收益、(ロ)地代、(ハ)公費、(ニ)損益計算、8合計。二、支出、1生計費、(イ)被服(一人或一家)單位一ヶ年消費額、單位、金額、(ロ)飲食費同上、(ハ)住居費同上、(ニ)醫藥療養費、2耕作費、(イ)肥料、消費額、單位、金額、(ロ)農具、製俵費同上(ハ)雇人給料、人員、金額、(ニ)牛馬飼養費數口、單位、金額、(ホ)害蟲驅除費金額、3其他の費用、4負擔、(イ)土地、負擔額、(ロ)營業同上、(ハ)所得同上、(ニ)特別同上、(ホ)水利組合員、(ヘ)協議費、(ト)村外に於ける土地所有者の負擔、(チ)合計5負債利子。三、收支對照、一般收支對照、(イ)收支一戸當、(ロ)收支一戸當對照、2特殊收支對照、(1)耕作上の收支、(イ)耕作上の損益、(ロ)耕作上の純益戸口當り、(2)蠶業上の收支、(イ)損益、(ロ)純益戸口當り、(3)林業上の收支、(イ)損益、(ロ)純益戸口當り、(4)漁業上の收入、(イ)損益、(ロ)純益戸口當り、(5)商業上の收支、(イ)損益、(ロ)純益戸口當り、(6)工業上の收支、(イ)損益、(ロ)純益戸口當り、(7)副業上の利益、(イ)損益、(ロ)純益戸口當り、(ハ)生活費一人當り、(ニ)收入に對する生活費の百分費。

第四、敎化狀態調査項目

一、學校敎育。(一)義務敎育、1學校數、2學齡兒童の就學不就學、(1)義務終了人員(2)就學同上及百分比累年比較(3)不就學同上、3兒童不就學の原因、(1)身體的缺陷に依るもの、數、百分比(2)心理的缺陷に依るもの、數、百分比(3)社會的缺陷に依るもの同(4)經濟的缺陷によるもの同、4學級數男女別、5敎師の資格、數、年齡、男女、俸給別、高下平均、6出席(1)學級全體、男女、月日別(2)部落別(3)天候と出席(4)缺席の原因調査(5)道路の距離と缺席、7兒童成績、

ガラス使用

(イ)優良兒(1)數(2)身體、經濟、社會及家庭の調査(3)百分比、(ロ)通常兒同上、(ハ)不良兒(1)數(2)身體、經濟、社會及家庭の調査(3)百分比、8身體の健康狀態(一)身長、學年、年齡、男女別、(二)體重同上、(三)視覺同上、(四)聽覺、(五)疾病、種別及同上、9學校費、(一)累年比較增減、(二)經費細別及百分比、(三)生徒一人當、(四)村民負擔戶口當、(五)教育基金、現在高、蓄貸の方法、10設備、(一)敷地坪數、(二)建物坪數、(三)運動場の坪數、生徒一人當坪數、運動設備、器具價格、(四)校舍の位置、配置、光線及溫度、(五)衞生設備、(六)机、黑板、地圖の數、(七)特殊教育研究設備(1)特殊教育の種類(2)農工商蠶水產業教育等に對する設備(3)實驗器具機械參考書(4)裁縫家事家政育兒衞生教育に關する設備、(八)參考書籍(1)部門分＝部數(2)經費(累年)(3)使用度數(4)研究發表の度數、(九)美裝に對する設備、(十)遊戲に對する設備、(十一)公民教育に對する設備、(十二)各種統計設備、(十三)學課配置及時間數、(十四)教師の修養(1)出身に依る區別(2)視察度數(3)研究機關(4)研究發表の度數。

二、義務教育以外の教育。1學校教育費—尋常科高等科の經費對照、2尋常科卒業にて高等科に入るもの數及割合、3尋常及高等科修業或は卒業者にして中等學校に入學するもの學校別及數、4中等及高等の學校區別、5卒業後の狀況。

三、農林蠶水產商工業及家事家政裁縫に對する教育。(一)種類—補習學校、講習、個人的及數、(二)修了者の數、(三)受教者の數、(四)其等に對する設備經費、(五)村民の負擔額戶口當り。

四、壯年男女及び兒童に對する會合。(一)性質及數、(二)會員數男女及年齡及部落別、(三)義務、會費及年限、(四)經費、(五)事業、(六)他の團體との關係

五、文庫。(一)性質—公開延日數、(二)圖書の部類及數、價格、(三)經費—購入費及維持費、(四)閱覽者の方法及數。

六、新聞及雜誌。(一)種類、(二)部數。

第五、宗教狀態の調査項目

一、教派—數、教派別檀信徒の數及其經濟及教育より見たる數。

二、寺院及教會—數、教派別、檀信徒數、同一人にして二つ以上の教派に屬するものの教派及數。

三、寺院及教會の維持。1不動產及其れより來る收入2動產及其れより來る收入及種別、3施入物數及價格、4其他の收入、5負擔、(イ)公費、(ロ)宗費、6維持費、(イ)一年間の費用、(ロ)其の出途、7檀信徒義務。

四、住職及教師—數、教育の度合、思想。

五、住職及教師の家族及生計。(一)收入、1職務上より來るもの、2個人的のもの、(二)支出、(三)收支對照、(四)家族の數最多最少平均、(五)子弟教育の狀況。

六、住職及教師の相承の狀況。

七、寺院及教會の事業。1種類、2經費、(イ)維持の機關より來るもの、(ロ)寺地及教會の收入より來るもの、(ハ)公共或は個人の寄附及補助によるもの、3事業の概況及數野的効果、4設備。

八、寺院に附屬する團體。1其の性質及數、團體員數其團體員にして村內のものと然らざるもの、數及割合、2村內の人々にして村外の寺院及教會に附屬せる團體員となれるもの、數、3團體員の義務、4團體の事業。

九、迷信。1種類、2是を信ずるもの、數。

一〇、宗教に對する傳說。

一一、宗教的風俗。

以下第六社會的狀態の調査項目、第七運輸及交通狀態調査項目、第八保健狀態調査項目、第九病的狀態調査項目及調査上の注意省略。

2.公民的品性の陶冶

單に知識として公民的心得を授けた丈で之が實行指導をしなければ矢張り精神はあつても形に表れないものとなつて了ふ。一體人の一生を見ると大體之を四期に分ける事が出來やうか、第一が無邪氣なヤンチヤ時代、第二が生意氣な時代、第三が豪放な時代、第四が垢拔のした時代、紳士時代、之を學校にすると、第一は小學時代、第二は中學時代、第三は高等學生時代、第四は大學時代に相當する。どうも人は此の四期を通るやうに考へられる、青年時代は卽ち生意氣な時代か豪放時代なのであるから、餘程其指導法を考へないと垢拔のした紳士に仕上げるには骨が折れる。或は教師を呼び捨にする、教師の惡口を黑板に書く、停電した

ガラス使用

からとて騒ぐ、或は奇異な頭髪をする、之をして社會生活に適應するやうに陶冶しなければならぬ。殊に雷同性共同性感激性が強い時代であるから餘程の注意を要する、故に公民教授に附隨して實習訓練をなすの外或は個性の調査をし、家庭の調査をし其行爲の依て來る處を明かにして徐ろに温顔を以て之が善用利導を圖らねばならない。頭から碎してからでは却つて反抗の態度を取るやうになる。殊に有力なのは校長の個人對談である。家庭の事情に通曉し個性の長短悉くを知る教師が其將來を思ふ熱烈な情より迸り出でたる對談には多くは涙を以て感謝するに到るものである。士は己を知る者の爲に死し、女は己を愛する者の爲に貌くる青年由來意氣に感ず、教師は此急所を押へる事が最も必要な呼吸であると考へる。今左に我校に於ける公民的訓練の實際案を掲げて識者の教を乞ふ。

公民科ニ於ケル實習訓練細目

後期第一學年

題目　實習訓練

1人と社會　共同作業、合作

2我が家　家憲創定

3親子　出生届、養子、緣組届、敬老會

4親族　婚姻届、婚禮作法

5戸籍相續　寄留届、死亡届、入籍離籍の手續、戸籍謄見學、葬儀の慣習

6財産　地所賣買手續、金子借用證、一定金額有効用法

7職業　農園、工場、商店、銀行、官衙、郵便局、停車場、寫店の見學

8生産　改良農具使用見學

9一家の生計　各家歳入歳出豫算作成、各生徒貯金調査奬勵

10保健と衞生　身體檢査、遠足、早起奬勵と夜遊禁止

11警察　警察署、刑務所見學、村内風紀巡察

12神社宗教　神域酒掃、參拜旅行、祭典參列

13教育　優良補習學校見學

14農村と青年　優良青年團見學、宿泊學

15我が鄉土　村境踏査

後期第二學年

題目　實習訓練

1我が町村　本村地圖描寫

2町村の自治　學級自治會

3公民　選擧人名簿見學、普通選擧法討議

4議員の選擧　模擬選擧

5町村會　村會傍聽、擬村會

6町村役場　役場事務の補助見習

7町村の財政　會計帳簿見學

8町村の財産　村基本財産、蓄積最良方案

9租税　小學校授業料徴收練習、收入役の補習見習

10産業組合　信用組合の見學及事務見習

11金融　銀行見習利子計算、手形割引の練習

12農會　農會事業の見習、優良農會の視察

13農村の開發　模範村視察

14府縣の行政　郡役所見學

15我が府縣　縣廳見學

後期第三學年

題目　實習訓練

1我が國家　式典參列、國旗揭揚奬勵

2天皇　宮城及明治神宮參拜參觀

3臣民領土　世界地圖、領土割色分

4立憲政治　帝國議會見學

5帝國議會　擬國會

6國務大臣樞密顧問　各省見學

7行政官廳　會計檢査院、行放裁判所見學

8國法　生徒心得作成

9裁判所　裁判所見學

10國防　軍隊見學

11國文　公使館見學

12交通　交通整理の助成

13我が國の産業　博物館、商品陳列所、橫濱貿易狀況見學

14社會改善　社會問題批判會

15世界と日本　卒業論文提出

公民訓練ノ特別施設

1. 國家的精神ノ涵養

イ、神社參拜

ロ、奉迎

ハ、招魂祭

ニ、戰病死者國家功勞者の展墓

ホ、重要なる儀式參列

ヘ、入退營者送迎慰問

ト、新聞雜誌による對外記事の精讀

チ、外人に對する大國民的態度の養成

リ、國粹的武道の奬勵

2. 立憲自治思想ノ養成

イ、學級自治會

ロ、通學團の自治

ハ、選擧による役員制度

ニ、旅行運動會等の自治

ホ、展覽會品評會學藝會講話會の開催自治

ヘ、生徒不良行爲の忠告

ト、擬村會

チ、圖書館による自由研究

ガラス使用

リ、教室整理教授用具の準備出席簿の記入
ヌ、實行問題の自治的立案
ル、町村事務の見習補助
チ、町村會縣會公判の見學

3. 職業的道德ノ養成
イ、職業指導
ロ、實習地經營
ハ、生產米品評會
ニ、繭品評會
ホ、蔬菜品評會
ヘ、鹽水選麥奴豫防實行
ト、農事講演會

4. 經濟的觀念能力養成
イ、物品の經濟的使用
ロ、種苗の共同購入
ハ、農事組合の事務參加
ニ、信用組合の肥料配合に參加
ホ、一定金額の有效使用法研究
ヘ、金錢出納簿の記入
ト、貯金奬勵
チ、記念植樹

5. 社會的精神ノ養成
イ、家族の團欒奬勵
ロ、夜業朝食前作業の奬勵
ハ、實習地の共同作業
ニ、社會生活上及善事項の調査
ホ、時間勵行
ヘ、夜警消防行通整理の幇助
ト、年賀郵便の無料配達
チ、神社佛閣墓地の美化作業
リ、道路用水路の修繕
ヌ、村内道路の指導標樹立
ル、揭示敎育
ヲ、善行者及精勤者表彰
ワ、通學道路の除雪
カ、模範家庭の見學

(四)普通學の實力增進

公民學校が如何に職業學校であり、公民訓練所であるからといつても、國民生活に必須なる事項を授ける所といふ點から見て、普通學を餘りに輕視することは又大に考ふべきものである。由來物は一方に偏したがるもので、余に曩に實業科公民科に重きを置き孜々として之が徹底に力めた所、其結果として普通學の力の乏しい生徒が出來たり、又普通學よりも職業學科を好む風を生じた事がある。それは或一人の模範的生徒が或る事情の許に退學せんとして退學願を追學願と書いて出した事があつた。眞面目で農業に對し頗る趣味を有し、何一つ不足を云ふべき點はないと譽めて居た所退學願さへ間違ふかと思つた時、暗涙を催さずには居られなかつた。又女子部の生徒の中には其家庭に於て公民學校の女子部は學科の時間が多くて裁縫の時間が割合に少いからと云ふので中途退學をしてお針の師匠の許に上つたものがあつた。是等はやがて悔悟する時期は來ると思ふのである。職業學科のみを重視すると從つて此の弊害を生ずる虞がある、唯現今普通に公民學校にて授ける普通學は未だ實際と緣遠い事柄をやつて居る弊がある。例へば算術にしても小學校でやるやうな科學的分類法による補習的の算術に偏するか、若くは肥料とか麥作とかと云ふ一局部に偏した算術を課して居る、どうか日常の生活と云ふ事を基礎として其鄉土の生活とシックリ合つた敎材を取扱ひたいものである。今左に信濃敎育會更級部會で編纂した算術敎本の目次をかゝげて參考に供する。

前編

一、家計の問題
二、家計簿記其の一
三、地積に關する問題
四、土木に關する問題
五、步合の問題
六、租稅の問題
七、口錢の問題
八、保險
九、割引の問題
一〇、損益の問題
一一、公債及株式に關する問題
一二、利息の問題
一三、無盡の問題
一四、產業組合
一五、麥作に關する問題
一六、蔬菜に關する問題
一七、家畜に關する問題

後編

一、氣象に關する問題
二、家計簿記其の二
三、桑園に關する問題
四、養蠶に關する問題
五、米及稻作に關する問題
六、肥料評價
七、果樹に關する問題
八、山林に關する問題

要するに公民學校の後期は高等三年ではない、之を中學の初年級的に取扱つたり高等科的に取扱ふのは決して公民學校の目的ではない、宜しく日常の生活に基いて其地方に適切なる敎材選擇の方法を講じなければ

效力が少いものである。今や實業學校卒業程度の檢定制度が設けられたのであるから公民學校に於ける生徒の實力を十分に附與して半數位は其檢定に合格するやう指導したいものである。

(五)農業以外の職業希望者の指導

農村に於ける公民學校の生徒は其盡くが農業志望者であるとは云へない、或は工業を志望するもの、商業に志すもの、又官公吏とか、軍人とかの志望者が或程度まであるに相違ない。だからと云つて此等の者を農村の叛逆者の如く取扱つて農業科を無理強ひすると云ふ事は無益の業ではあるまいか。と云つて農村の公民學校に凡ての學科を教へ得る教師を得るといふ事は不可能の事であるから、此等農業以外の志望者に對しては教師は斡旋の勞をとり、商業には商業の參考書を工業には工業のをといふやうに、夫々調査して生徒に自學自習せしめ、教師は其伴侶となつて彼等を指導するより外に道はないと思ふ。併し前期の農業は一般的普通學的であるから、如何なる職業に從事する者でも學ぶべき必要がある。要するに職業學科として其職業に對する精神の陶冶は農工商敢て異るべきではない。此の意味に於て前期は悉く農業を課し後期研究科は夫々其の向ふ所に依て指導を加へるのが適切な方法であると考へる。

(六)植民思想の養成

我國農村の青年子女が嫌農離村の風に驅られて居る事は事實であるけれども、其悉くを農村に留めて置いて、次男三男まで鄉里の農業に從事せしめる事は果して得策であるだらうか、將來農村が漸次電化され、機械化された曉には餘程の程度にまで人力を減しても差支なくなるであらう。況んや我國は寧ろ人口過剩に困つて居るのであるから、長男以外の者て相當修養あるものは宜しく他に移住して、人口の調節を圖ることが却つて國家としても農村としても、有利てあるのである。然らば如何なる地に移住せしめるか、農村に生長したものは農業上の訓練陶冶を經て居るのであるから私の考では宜しく我領土又は海外に移住して天然資源の豐富な處へ行つて大自然を友として暮すことが良からうと思ふ。そこで公民學校に於てもこれが行先に就ては適當な所を考へ、其氣候風俗人情土質經濟狀態言語等の多方面に亙つて研究指導して盛に海外雄飛の途

を講ずべきてある。

(七)體力の增進

彼岸過の麥肥と二十過の子の意見は效目がないとは昔の譬へてあるが、體力の增進も要するに青年時代に圖つてこそ最も有效てある。由來青年時代は人生の最も元氣旺盛なる時期てある。此時代こそ鍛鍊的に身體をも鍛へ他日一家一國の爲に大活躍をなすべき素地を作るべき重大なる時期なのてある。殊に運動を奬勵して體力の增進を圖らないと、却て性慾等の他の方面に心を向けて恐るべき結果を生ずるのてある。故に武術よし競技よし何かの方面によりて體育をなすことが最も必要てある。殊に武術は體育運動の爲許りてなく士氣を皷舞し忍耐力を養成し質實剛健の美風を作興する上に貢献する所多大なのてあるから、大に之を奬勵する必要を認める。軍事訓練も又同樣の意味に於て極めて有效なものてあるから、在鄉將校等に依頼して規律的訓練の徹底を圖りたいと思ふ。

五、公民學校地方產業教化への貢献

公民學校が職業教育てある以上其效果が單に生徒に及ぶ丈ては未だ以て十分の目的を達したものと云ふ事は出來ない。その影響が其地方の產業に及んでこれあるが爲に、此の副業が盛になつたとか、此栽培法が改良せられたとか、更に進んて一村教化の中心となつて疲勞せる農村の振興を圖りたること彼の丁抹の國民高等學校に比するやうでなくてはならぬ。既に已に世の識者が絶叫せられて居るやうに、農村の振興を圖ることは我國の急務中の急務である。之が振興の方法一にして足らないけれども、根本的に振興を期するにはどうしても實業補習教育の完成に俟たなければならないと確信する。東京府下松澤の補習學校が同村の蔬菜栽培を盛にし、山口縣大歲の補習學校が鮮牛の飼養を盛にしたり、滋賀縣北里の補習學校が宅地利用に貢献したのなどは其好適例てあると思ふ。願はくば世の公民學校が各村各樣の方法を以て、其地方產業教化の上に多大な貢献をせられんことを望む。

六、公民學校經營に對する苦心

凡そ如何なる業を經營するにも夫々難關のあるもので、必ずや惡戰苦鬪を重ねるのてなければ、到底目的の彼岸に達することの出來るものでない事は明かてある。殊に公民學校の經營は世の常の學校より一層困難

ガラス使用

の度の甚だしいものであると確信する。尤も事は現狀維持を以て滿足すれば、さまで苦心をしないでも濟むが所謂現狀維持は退歩なりて日進月歩の今日、どうしても昨日よりは今日、今日よりは明日と改善進歩を圖り内容を充實し成績を擧げて行つて更に德化村外までも及ぶと云ふやうにしようと思ふには、並大抵の事ではないのである。此點に於て公民學校の經營に當るものは十分惡戰苦闘に十分堪へ得るものでなければならない。余の狹き經驗を以てしても隨分涙のこぼれるやうな事もあつた。或時は懇談會に出掛けて行く途中、無論暗夜の事であつたが、橋から轉び落ちて全身濡れ鼠となり、辛うじて岸に這ひ上つて目的の懇談を了した事もあつた。或時はお針師匠に反對されて散々に攻撃を受け諒解に諒解を乞ふたが中々承知がしきれないで、夜半專任教師の宅まで押し込まれた事もあつた。或は公民學校に專任教師を賴むなどは此の貧弱な村には贅澤だなどと攻撃されて、暗に廢止を勸告された事などもあつた。或は生徒の歸宅狀況を見る爲に寒風肌を劈く山林中にかくれて彼等生徒の動靜を窺つたこともあつた。或は公民學校が盛になれば小學教育が衰へる、校長は公民學校長であつて小學校長でないなどと無責任な惡口を云はれた事もある。或は公民學校の女子部は學科が多くて裁縫時間がお針屋より少いと云つて攻撃されたり、或は家事科は奢侈の風を增長させる虞があるから農村には不適當であるといふ評を受けたり、それは〳〵並大抵でない惡罵妄評を受けたものである。加之生徒は時に缺席勝となりいくら督促しても休むといふ風で或は所期の目的を達することがどうかと憂慮に堪へない事もあつた、けれども是等は要するに時の問題であつて時過るに從つて雲散霧消して、今日では村内盡くが公民學校の眞價を認め、之を信用して經費も惜まないやうになつた。併し之を大成して内容の充實を期し、成績の向上を圖り、更に一村教化産業の中心となす迄には、まだ〳〵前途尙遼遠であることは常に確信して居る次第である。思ふに何れの學校も優良な成績を擧て居るものは夫に比例する丈の過去に於ける苦心慘澹の歷史がある事と考へる。

七、結　論

要するに公民學校の教育は其設備に於て又職員の組織に於て生徒の成績に於て未だ以て他の中等學校と比較する事は出來ない小學校に比してさへも大に遜色があることは爭ふべからざる事實である。之が内容を改善し成績を向上し眞に國民大多數の仕上げ教育たるの眞價を發揮し國民文化の水平線を高め、産業の發展に貢獻し地方教化の中心とする迄には餘程の努力を要すると思ふ。殊に半面に於ては晝間孜々として勞働に努め疲勞したる身體を提げて更に此重大なる教育を受けるのであるから其勞や又容易ならざるものがある。學ぶもの然り、而して教ゆるものも同じく晝間小學校の教育に疲れたる身心を以て望むものが多いのであるから、是亦容易な業ではない事は云ふ迄もない。故に此教育の眞價を發揮し十分の成績を擧るは一に熱の如何に存する。熱なる哉、熱なる哉、グルントウヰッヒ氏が丁抹に國民高等學校を興して國勢を輓回したことや、愛知縣千郷の校長が月夜に數町歩の荒地を開墾して實習地となしたる事などは、我等の以て範とすべきであらう。職に公民學校の教育に當るものの努力奮闘を切望して止まぬ次第である。

辿るべき讀方教育の道

熊谷女子校訓導　村田茂市

（一）

讀方に於ける吾等の教育的態度が、形式主義に依るべきか、將又内容主義を妥當とすべきかてふ見解は既に過去の迷へる夢として葬られねばならない程、理論的に、實際的に研鑽が遂げられつゝあるのにも拘はらず、未ださうした方面の論議が交はされ、意見が發表されてゐるのは斯道の爲め甚だ惜しむべきの一事ではあるまいか。

單なる形式主義の讀方教育が可能であり、それが讀方教育者の眞に辿るべき道であるか、また單なる内容主義が可能であり而もそが眞の讀方教育であるか。吾等は深くこれを内省し、茲に眞の意味に於ける讀方教

育は如何にあるべきかを歸結せねばならない。

（一）

文章とは、作者が自己の思想感情を構想表現したものである。詳しくは作者の生命を内容とし、その表現を形式とする一如境である。作者の生命が環境から刺戟せられて高鳴り、躍動して感激の波高く打上げられた時、現實の言ひ知れぬ混沌の惱みに悶えるであらうが、そはやがて理想によつて統一され、調和せられて美の境地は構成せられこゝに始めて一つの形象は生れるのである。この形象はシルレルの所謂遊戯衝動の發動によつてより純化せられ、美的價値はより高次なる止揚を見るのである。かくして生れたる形象は作者の表現せずは止まない欲求に依つて定着性ある語句、文章を得てより完全に表現せらるゝのである。

故に形象を表現するに當り、一の内容を表現し得る形式は嚴密なる意味に於ては唯一つであらねばならない。語句　妥當は文章の妥當であり、文章の妥當は形象の完全な姿の示現となるであらう。

語句、文章は生ける屍である。一度吾等がこれに接し、その普遍的意味とそれのもつ生命との統合的飜譯を試みたならば忽ち形象は認識せられ、直觀は遂げられて生命は躍進するのである。かくの如き語句、文章を、かくの如き生命を、何とて形式或は内容と論理のメスで剖かんとするか。吾等は形式尊重主義、内容尊重主義の讀方教育觀をして、現今謂ふ所の思潮卽ち、「讀方教育は人間の教育である。魂の教育である」とまで叫ばれるに到つた過程たらしむることに於てのみ是認するのでなくてはならない。單なる形式は空虚なる骸である、單なる内容は力なき力である。内容が適切なる形式を得、形式が最もよく内容を探し當てた時始めて落着と力強さとを持つた文章が生れるのではないだらうか。然るを形式主義といひ、内容主義といふ。誤れるも甚だしきものと言はざるを得ないのである。鑵を造りつゝある職工が何うして鑵詰を造つてゐると思ふものがあらうか。肉を煮るコックが何で鑵詰を造つてゐると思ふものがあらうか。

これによつてこれを見るに吾等が形式主義、内容主義に陷れる讀方教育をなしつゝあるとは本質を沒却せるものゝ言辭であつて、文章に於て單なる形式、單な内容の有り得ない以上そは餘りに方向を誤れるものであつて讀方教育なりとは言ひ得ないであらう。

（二）

文の本質に一瞥を試みた吾等は、然らば眞の讀方教育は如何にあらねばならぬかを規定する時に際會したのである。文章に於て、形式は内容のための形式であり、内容はその形式ならでは表現し得ない一元的關係をもつものであるが故に、内容の學習が徹底せることは形式の徹底せることであり、形式の徹底は内容の徹底を意味するものとなるであらう。新字、語句の讀み書取のみに汲々とする讀方教育は形式主義ではないのである。

吾等は讀方教育をして、（一）形式を通して内容へ、（二）内容を通して形式へと進むべきである。内容より形式へは復歸ではない、進まんがための道程である。より高い價値創造の營みとしての過程である。こゝに理解も鑑賞も、批評も、創作も行はれるのである。完全なる理解は完全なる鑑賞批評を産み更により高い鑑賞批評へと還元的に連續的に無限的に進展するのである。眞の創造もこゝに至つて生れるであらう。詳しくは、理解は鑑賞の母であり、鑑賞は創造の母である。吾等の生命は文章に接することによつて、歌ひ、喜び、怒り、悲しみ、憤り、踊りつゝ伸び行くのである。

（その過程を示すならば）

(1) 形式より内容へ ⟵ (一) 文意の直觀（形象の第一次直觀）……文字語句の讀み方、解釋

(2) 内容より形式へ ⟵ (二) 文の解剖、批判（形象の擴充、深化、伸展、形象の第一次直觀）……構想の理解、語句の深究、作者の想定、内容の理解

(3) 創作（形象の再構成） ⟵ 表現の妙味を味ふ（文について、挿絵について）……話して見る。歌つて見る。踊つて見る。描いて見る。括つて見る。……

理解―鑑賞―批評―創作

の如くなるであらう。鑑賞も批評も(3)の段階に至つて殊に深められるべきのである。

（四）

吾等はこゝまで論歩を進めて、もはや終りに達したのである。所詮、形式主義の讀方教育も、内容主義の讀方教育も眞の教育的態度でないことは裏づけられたであらう。

文を單位とし、綜合的に取扱ふべきことを信條として、飽くまでも内容の爲めの形式尊重、形式の爲めの内容尊重てふ見解に眞の讀方教育の歸趨を求め不斷の進展を企圖せねばならない。

かくして(一)文字語句の教授も、(二)思想感情の陶冶も、(三)文學鑑賞力の養成も、(四)讀書趣味の涵養も望まゝしのである。

（一九二六、九、六稿）

内省の修身教育

秩父大椚小學校訓導　大野武男

（一）内省の意味

道徳意識をもつて修身教育をしようとすることは寂しいことであると思ふ。

一個の生活者が、ゆるされて子供の世界に共生することだけが教育の本道であるやうに思ふ。

本當の生活者は内省人であると思ふ、然も個性的な内省をもつ人であると思ふ。

純な内省は愛にまで、信仰にまで生きうると思ふ。

眞の内省は無碍自由の世界にまでいたりうると思ふ。

然し内省人はさうした境地に到るに多くの不精進と缺陷とを抱いて泣かねばならぬ。

自己に内省した人は、必然的に絶望的な自己の人生不完全な自己の生活道を發見すると思ふ、然し絶望や不完全を抱く個性人の生活は寂しいけれ共、生命がけの眞劍さに生きてゐると思ふ、私はさうした個性人の生活を眞の生活態度であると思ふ。

内省を推理的内省と直觀的内省の二つに分けて、子供の生活を觀るなら、子供の生活態度は直觀的内省の世界により多く住むものであると云ふことが出來ると思ふ、殊に低學年の子供にこの境地の生活態度が色濃いと思ふ。

子供と共生しようとする人は、この子供の生活態度を知つてゐなければならないと思ふ。

（二）内省による修身學習

私は小著高學年用修身學習書「見えざる光」の中に次のやうなことを書いた。

「ツルゲニエフが汚い乞食の手をしつかり握りしめて、君許してくれ、僕は君、何も持つてゐないのだから……と申譯ないやうに言つたといふことです、そして彼はその時初めて乞食の人間らしさを知つて喜んだと云ひます。

内なる心が、かうした喜び、かうした美しさ、かうした神々しさを持ちうる時、私たちの心はしみ〴〵有難さに充されます、私はかうした態度を修身の内省學習と考へたいのです。

けれ共、私たちは時に喧嘩もしますし、嘘も云つて終ひます、がさういふ時に自分の心を責めるものはいやな氣持のみです、そこに逃れやうとする苦しみと努力とがあります、その逃れやうとする態度はやはり私のいふ内省の學習です、内省の學習とは要するに自分の心をより深く、より廣く、より正しくすることであると思ひます。

カントといふ哲學者が云はれたやうに

空に輝く星と、人の胸に宿る良心とは二つの不思議なものです、私たちはその不思議なもの——良心を大事に育てゝ行きたいのです。

（勿論子供に讀ませる目的で書いたものである）

（三）内省の修身學習實際

次のものは高學年の子供の書いたものであるが、餘程推理的に生活を内省してゐるやうである。

◇

昨日學校の歸りに、僕と僕の友達とが、かういふ約束をした。

「今日は大變いゝお天氣だなア、これでは小川の水も冷くはないだらうから魚取りに行かうぢやないか」と友だちが言つたので、僕も「うん……よし行かう」とうつかり賛成した。

家へ歸つて鞄の中を見ると、氣がついた、そして驚いた、讀方も調べなければならないし、水曜日の研究發表も整理しておかなくちやならない、あゝどうしよう、行けば讀方の下調べも出來ないし、研究發表も出來ない、行かなければ前に約束した友達にすまない、僕はあの時何故返事をして終つたのだつたらう。

（迷ひや疑ひを眞劍に解結づけやうとする所に內省の生活があると思ふ。）

◇

或日のことであつた。

授業が終つたので僕たちは掃除に取りかゝつた、そしてどうやら仕上つた時に、机の下を見廻すと、まだ幾つかの紙屑が散つてゐたので、僕はそれを拾つて何氣なく窓を開けて投捨てた、それがおわかりになつたのか、ならないのか先生は一生懸命に走らせて居られたペンを止めてぢつとお笑ひになつた。あゝ紙屑を投げたのが先生におわかりになつたのかと思ふと、何となく腸でもちぎれるやうな氣がしたが、つと窓をあけると庭に掃除をしてゐる者があつたので、その人たちにたのんで、その紙屑を拾つてもらつたのでやつと僕の心は晴々としたが、こゝに又二つ心配になつたことがある、それは云ふまでもなく將來又こんなことをしはしないかといふこと、僕が紙屑を投げた時先生のお心持はどうであつたらうかといふことである。

（敎師を恐れることでなくて、同行者の內的生活を傷付けぬやうに心配して行くことも生活內省である。）

◇

僕が赤ん坊をおぶつて近所の家へ遊びに行つた、その途中の池に金魚が泳いでゐたので「今日こそは……」と道端にあつた棒を拾つてその池をのぞいた、丁度その時そこの家の人が芋洗ひに來た、はつと思つた時はもうおそい、その樣子をすつかり見られて終つた、がその人は知らないふうをして、こしやり〳〵芋を流し始めた、「あゝかういふ惡いことをしては……」と思ひながら自分の心を叱つた、だが一面考へると金魚をいぢめた時その家の人に見られたのが、かへつて自分の爲になるのかも知れない、もしあの時見られなかつたら、恥しい思ひをしなかつたら又さうした惡いことをしたことだらう。

（一つの機緣にふれて生活を內省するのも一つの方法であると思ふ。）

——（大正一五、一〇、二四）——

寡說

滿鮮支の旅

大里郡深谷小學校長　小林倭子

◇東京驛の見送り

宮澤圖長令夫人令息、吉川氏令妹石川氏令弟、關根氏親友、小林氏令息、親友佐藤原口氏夫妻等にして一行の爲に縣敎育會副會長出井縣議、大里郡敎育會長高塚校長、宮田氏昵近角田漆原校長等見送らる一行は出井氏長沼氏等の厚意に一入の士氣昂進せり、精養軒に小宴を張る長沼依山氏一句を吟ず。

カクテール香る夏夜や旅の宴　長沼

酌めどもつきぬ君が情は　小林

むすぶ手にくごる心をすゝきなむうき世の夢や醒が井の水

（十六夜日記）

その昔阿佛尼が東下りの事も不圖思出さる。

汽笛一聲忽ち擧る「埼玉敎育家一行萬歲」車內面目上る我等の一行。會計係より三等急行券を買求めて更に二等と買直したる手違報告噺等談合する間に橫濱國府津と過ぎ箱根に差かかる頃より何時の間にか夢路に入る。

名古屋から解けかゝつた夢も醒が井にてめさむ。

八月廿八日縣會議事堂において知事閣下、縣敎育會幹部の臨席を仰いで記念撮影をなし、縣官其他の見送を得て視察の途にのぼれる一行十名は九月一日より釜山、京城、平壤を經て南滿洲に入り、奉天において全國小學校長會議に參列し長春ハルピンに至りて再び奉天に戻り、撫順の炭坑鞍山製鐵所を見學して旅順の戰跡を訪れ渤海を越えて天津北京を巡遊し大連よりハルピン丸にて一部は九月廿七日門司に一部は廿九日神戸に着港せる其間知己昵近に通信せるもの船の中、車の上、狹き眼にうつれる其さまをつかれたる頭にて纏めかねつゝも折にふれて書きつらねたるものなればそのせつなさを諒とせられんことを望む。

（小林生）

むすぶ手にくごる心をすゝきなむうき世の夢や醒が井の水

（十六夜日記）

その昔阿佛尼が東下りの事も不圖思出さる。

琵琶の靈湖を眺むる誰やらん山には富士の靈山あり、天には酒星、地には養老の酒泉あり、此の天景に接し天與の惠澤を考ふる時は垂涎禁せざるものありとて遂にウィスキー封緘はとかれ杯の廻る間もなく實に「蒲團着てねたる姿や東山」の三十六峯を窓外に迎へて京都に着く。

◇想夫戀

京都驛を發す、嵐山一帶の風光も窓近く眺めらる。嵯峨の秋の露もさぞや深く、千草にすだく蟲の聲一入秋寂を感ずらん、萩の戸深く爪彈し想夫の曲、峯の嵐が松風か尋ねる人の琴の音に笛を合せて想を交はす、都人の小督の局の昔を偲び出しつゝしばしにして大阪を過ぎ神戸につく。

◇神戸着午前十時二十五分

大阪人口百四十萬本邦第二の都府その昔仁德天皇高津の宮も仰ぎ出さる淀川、木津川末流市內を縫ふこと蜘蛛の網の如く呼んで水の都といふ、架橋凡そ八百八叉稱へて橋の都といふ、煙の都といふは海上のマスト林立するが爲なり、商業は秀吉城を築きて天下に號令せる頃より已に歷賑を極めて今日に及ぶ、工業の發達亦全國に冠たり。

神戸は人口八十萬橫濱と相竝んで二大通商港なり、嗚呼忠臣楠氏を祀る湊川神社は程近く神威赫々、墓前香煙絕えず神在すが如し。

◇明石チョイト出りや

舞子の濱よ

明石ちよいと出りやね、明石ちよいと出りや舞子の濱よ向ふに見ゆるが淡路島、通ふ千鳥に文言づけて、若しも會はねきや須磨の浦實に須磨、舞子、此邊一帶の海傳へ、青松白砂天籟の雅趣名狀に筆なし詞なし。

名にし負ふまことあかしの神ならば我にも見せよ人丸の塚

明石人丸神社の神前の碑に刻せり昔灘波の盲人此に詣でたるに神願叶つて終に兩眼開くをえたりといふ、詣づる時地に突き立てたる杖には葉を生じ立派な櫻花を咲かせりとて今は櫻漬を名物として參詣者にひさぎつゝあり。相生、高砂、會根の松など名所舊蹟遊覽電車は姬路に至りて止む。

◇團員辯護士となる

副團長宮田氏車中にて旅行前新調の帽子を晝過ぎの麥藁帽と取替へられ、物思ひに沈淪すること姬路より岡山に至る、新調品の價を尋

ぬれば驚くなかれ六十錢以て置去りの夏帽も價を想像するに定る、その帽子に名刺あり曰はく辯護士金某と依て尊稱して宮田辯護士といふ。

◇吉備團子と貧乏德利

岡山團子は桃太郎の三國一の吉備團子一入の風味犬や雉子の御伴するも道理なり、幼にして鬼が島に渡れる武勇を想ひ起す時は虎疫の豫防注射旅行中救急藥品等を携帶して、様々の警戒を加へて出て行くことの餘りに腑甲斐なきやうに感ぜさる。

備前燒に氣付けるものは德利に未練を起し棚より角瓶を取り下し心氣一轉、糸崎附近より送迎する港灣の風致を玩ふ暇もなく宮島につく。飯野氏口ずさむ

安藝の宮島まはりは七里浦は七浦七蛭子

夜の戸張り下ろされて窓外の眺めりは電燈の灯海面に映して金波銀波その帽子に名刺あり曰はく辯護士を愛つると、今宵玄海灘の濤如何金某と依て尊稱して宮田辯護士と氣遣ふ物語りの内に下の關につくく時に廿九日午後十時十分。

◇下關下車所感

着車午後十時十分に一秒の狂もなきに驚く、前夜九時十五分東京驛を發してより停車驛二十五、哩數七百二哩八分、時間廿四時五十五分、各驛タブレットの受授機關手車掌の協同によらざれば、正確斯の如きは得られざるを思ふ時總ての職に有るもの皆其責任を重ずして其分擔を完徹し連帶の共同の實を擧げたき希望を懷きて連絡船德壽丸に歩を急ぐ。

◇一睡も出來ぬ玄海灘

玄海灘、其名を聞けば身の毛もよだつ怒濤の灘、この渡航は出發前より氣遣ひ、家族も共に行先を案じたる程なるに終に一睡も出來ぬ破目となる、併し五風十雨風吹くも枝を鳴らさず、雨降るも堤を潰さぬ太平の御代なれば風神の怒にあらず、逆巻く濤の業にもあらず乘客滿員のため膝を屈する事をも叶はぬ爲め、夜を徹して起き通したるなり、奉天會議出席者が皆二等室に同乘せるがため殊に混雜を極めたるなり、書は以て名を示すに足り、家は以て膝を曲ぐるに足るとの比喩あるも實に膝を展べて眠れる家庭の安樂さは旅の辛き經驗より味ひ得らる、けれど若夫婦と肩を比べて何れが主人か別ちつかぬ氣取をなして語りゐるさまは船中一の妙味なり。前夜十一時出帆翌八時釜山に上陸。

◇釜山地方院長の歡迎

埠頭に釜山地方法院長橋本實氏中原監督書記を從ひ吾等埼玉縣人一行を出迎へらる、岡浦和裁判長、古川縣視學の紹介に依り一行の動靜を知られて出迎へられたるものにして法院長の厚意を感謝すると共に岡、古川兩氏の親切を謝するところなり、一旦宿舍備前屋旅館に着く暫時にして法院長より自動車を以て迎へられ官舍に於て山海の珍味もて饗應され朝鮮事情委曲紹介さる、それより自動車にて案内をうけ市内名所舊蹟を觀覽す。

◇天長節

市街旭旗翻飜たり、異鄉にありて國旗を眺めたる時、その嚴嚴と、愛國の情と著しく燃え上る感あり一行龍頭の神社に詣でて佳晨を祝し、國家の隆運を祈る、午前八時各府縣の旅行團一行總督府のランチに搭乘して釜山港内を巡遊す。

◇慶尙北道知事の招宴

慶尙北道知事齋藤順氏は一行のために釜山停車場樓上に於て盛宴を張り、警察部長、學務課長等出席知事より産業、貿易、教育、行政一班につき詳細の案内を受く、午前十時五十分京城に向ふ、吾等一行十名は齋藤法院長の見送りを受け面目大に上り車中得々たり。

◇車中火災に遭ふ

釜山より大邱に向ふ時車中火を失し、火事々々の叫びに眼を醒し棚のトランクに手をかけ隣室に避難の準備に周章狼狽名狀すべからざるものあり、然るに何ぞ圖らん煙草の火落ちてワイシャツ二個所燃上りたりとは罹災者は團員石川氏ワイシャツは先月一度燒け今回にて三ヶ所燒跡を存す。

◇朝鮮風俗

い、服裝　白の筒袖の上着に白の袴を着、上着の胸の合せ目を巾廣の紐にて結び長く裾まで垂らして外出す、洗濯行屆いて一點の汚れ目もなく實に心持ちよく感ぜらる一の美風といふべし、洗濯は曹達にて煮て川端に行き砧打をなして晒す、川端には洗濯するもの列をなして竝ぶ程なり、朝鮮婦人は食事毎に炊いて冷飯を食べず、三度の食事準備と此の洗濯と、子供の養育のために忙殺され之れが毎日の日課なり。

ろ、食事　米食を常食とし飯は眞鍮製の丼に盛り一杯にて足る、二杯を食せず、副食物は漬物なり、漬物は内地の水甕に漬け主要材料を白菜、大根とし之れに蕃菽、魚

ガラス使用

類、胡淑等數種を混じ毎年十一月一ヶ年分を漬込む、其香氣は風味に富み到底内地の漬物の比にあらず、又漬物の甕の數により貧富の度を量るといふ程に重要視す。

は、住宅　藁葺の平家、飛上れる位の低き家にして殆んど近隣と軒を竝べて建てらる、市街地の長家生活の如く櫛比す、傳染病豫防などには極めて不利と察せらる「オンドル」とて冬の寒さを凌ぐため炊事場の煙を床下に導き室内を暖めるために自然低き建築にして室も從つて狹く作り壁は外は土にて小石を混じて塗込み、内側は壁のみ床下の煙が漏出てぬため床は二三重に油紙にて貼りつむ。

に、趣好物　煙草にして來客は煙草を馳走として、酒は特別の場合の外は出さず。街路を往復するにも手に三尺餘の煙管を携へるもの又長煙管にて喫煙しつゝ往來するもの少なからず、女子も男子に劣らず喫煙す。

ほ、禮儀作法　孝心深く克く父母の命を守り、親に常に安心を與ふることに努む、長幼の序を立て長者に對しては言語動作を努む、夫婦の間は言葉遣は對當にして、夫も妻に對しては相當禮を守つて言葉を遣ふ、男女別を立て言葉交ゆる場合は相互に古來の習慣を恪守す。

◇産　業

今後十二ヶ年經續事として三億三百萬圓を投じ三百五十萬町歩八百萬石の米の增收計畫を立て、又現在年産二十萬石の養蠶を百萬石に增收の七年計畫を立つ、植林は年年四月三日神武天皇祭日を植林デーとして鋭意努力しつゝあり。

◇交　通

鐵道は朝に釜山高萊の溫泉に浴し夕に京城の月を眺め夢に大同江を渡れば一駅して鴨綠江に達す、之を幹線として、幹枝千八百哩、汽船は關釜連絡船德壽、景福昌慶丸を始めとし朝鮮沿岸、内鮮間、朝鮮支那、露領間航行二百餘艘、噸數七萬を超ゆ。市街地には馬車人力車ありて一寸の外出にも極めて便利なり。

◇教　育

日本人小學校は小學、中學、高等女學校とし經費は學校組合の負擔なり、鮮人を收容し日本語を以て教育するものは小學校を公立普通學校とし、中等學校は公立高等普通學校とす、其經營は各道の經費による。

◇警　備　の　歌

九月一日京城教育會の主催にて明月樓に於て慰勞の宴を張らる、總督府學務局長以下、京城教育會、京畿道教育會幹部列席盛會を極む總督府警察部の作に係る北境警備の士氣鼓吹の歌を妓生をして歌はしめ、一行にも警備官に同情のため練習して趣旨の普及を訴へらる一同妓生（キーサン）の練習を受け一行中にも及第せるもの數人あり最優等飯野氏、甲飯能氏、他は辛うじて及第に止まる。

◇北境警備の歌

此處は朝鮮北端の
　二百里あまりの鴨綠江
わたれば廣漠南滿洲
極寒零下三十餘度
　卯月の半に雪きえぬ
夏は水わく百と餘度
つとむる吾々同胞の
　安き夢だに結びえぬ
警備の辛苦誰か知ろ
　川をわたりて襲ひ來ろ
馬賊の輩の不意討に
　妻も銃取り應戰す
虎は死して皮止む
　人は死してぞ名を殘す

◇

朝鮮平和のその爲めに
　流ろゝ水に影うつる

◇

南はひろき草野原
　降りては上る飛行機の
空に飛びかふその樣は
　蜻蛉の群かわたり鳥

◇

波平に岸ひろく
　風おもむろに吹き來ろ
實に赤壁もさながらに
　旅のつかれも忘らるろ

◇

月雪花を宮人の
　眺めし臺浮碧樓
此處より船に身をよせて
　流れを下る大同江

◇

乙密臺の玄武門
　花の香薫る牡丹臺
武勇の名殘りかたりつゝ
　一行元氣旺盛にて二日は仁川の戰跡を見舞ひ、三日は平壤牡丹臺の苦戰、玄武門の勳跡を訪れ大同江を下り今夜鴨綠江を渡りて朝鮮を辭す。

◇九月三日大同江を下る

朝鮮勝地應百餘　百不能當此一區
中國金陵如許否　千秋尚友謫仙遊

乙密臺の高地を瑞氣山といふ牡丹臺に眠れる勇士忠魂碑、聯隊、箕子の陵あり。

三日安東に着く埼玉縣人會と染め出せる旗はプラットホーム一行を迎へる、川越出身阿部會長、武川

村出身笠原熊一氏外十餘名に握手を受く一行皆感泣す、二頭立の馬車にて元寶館に案内され、少憩の後支那館に招宴を張らる、紹介されたる安東名所

朝鮮と支那と境の鴨綠江
架けし鐵橋は東洋一
十字に開けば眞帆片帆
行き交ふ戎克の賑はしさ

◇

安東て何か名所と問はれし時は
夏は鴨綠江のいかだぶね
東洋一の大鐵橋よ
乘出すほぶれの眞帆片帆

◇縣人會員

新島百助　笠原熊一　吉田勝治
小林喜三郎　鈴木半三郎(大里)
細谷儀八　山田藤作　岸精一　矢島遠次郎(南埼)
豐岡賢一郎　戸井田國太郎(北足立)
吉田留吉　中田市之助　成川丑之助(北葛)
中村常太郎　小暮源八　齋藤輪之助(兒玉)
仲田高吉(比企)
古田光三郎　古田豐三郎(北埼)
阿部卓爾(川越)
長谷部正平(滿洲銀行安東支店支配人)

◇鴨綠江の船遊

四十臺の馬車に搭乘して安東の名跡を遊覽し、それより鴨綠江に船を浮べ戎克にみちびかせて橋の下に至る偶々東洋一の鐵橋は開かる時を移さず大小の橋船の上下する様は又言ふべからざる雅趣あり。

◇赤い夕日

四日午前十時安東を發したる列車は午後四時本溪湖に着く、此處より第一軍の戰跡打續き同五時頃は見渡す限り廣漠たる高粱の野と化す、山の終る所丘陵あり丘陵あるところ石柱の立てるあり皆奉天戰記念の碑又は塔とす、赤い夕日は塔を照し感慨無量のものあり、窓外に戰跡を弔ひつゝ進むほどに八時餘奉天につく。

◇鶴に逃られて靑くなる

一行中安東にて手に入れた鶴に逃られ顏色憔然として奉天驛長に懇請し各方面に問合せたるも遂に見當らず直に次の揭示を出せるものあり。

告白

昨日養熟の鳥飛出門外如有拾去者送還謝金貳圓送信者謝金壹圓
決不食言特此通告

人事なれば直に筆に書く深谷の君が安東知己より記念に送られた鶴の脚で製作せるステッキを汽車の棚に置忘れたる事件にして、告白狀は恰かも其當時奉天公廳にて愛禽に逃られ搜索懸賞の揭示に眼が觸れ之に轉載せるものなり、忍の緖諸士帽、明覺の燒拔と三副封の傑作なり。

◇奉天の三感

停車場を降るれば馬車の數百臺の竝び居ると、街路の三幹線が放射形に直線をなして內地に見ることをえぬ幅廣に走ることは一の感なり。支那街と稱ふる舊市街に行けば道路泥濘にして凹凸狀をなし交通不便なると下水設備を缺き何處よりともなく嗅氣鼻をつき來ると牛蠅の飛び交ふ五月蠅さとは其二なり。宮殿を拜觀するに門衞警備こそはつき居るも各門は毀れて扉の立てつけも出來ず大小の宮殿は荒れて屋根には草を生じ庭苑は雜草に足の踏み場もなく其昔榮えし歷史を繰返す時轉々今昔の感に堪へざるもの其三なり。

◇校長會議

六日午前九時第一小學校の大講堂に開かる設備の完備せること內地にあつては縣立學校は言ふも更なり官立の專門學校といへども及ぶものあるを見ざる程なり、全國各府縣出席者百七十名愼重審議左の決議をなす。

イ、列國の實情及び國民性を理解せしむること

ロ、國際道德及び人類愛の精神を高潮せしむること

ハ、隣邦に對する友誼の精神を一層助長せしむること

◇同窓會合

琦師同窓、神山、澁谷、平山、小林氏と一行は加須町出身の武藏屋において懇親會を開き互に舊情を溫め母校の發展を祈つて歡談時を移せり、之等四氏、武藏屋主人發起となり來十一日奉天在住の縣人吾等一行の爲め祝宴を張らるゝ筈の內報を得、同時に大連縣人會鞍山縣人會よりも歡迎會開催準備中の旨電報竝に郵書を寄せられる、一行の勇氣百倍して長春に向ふ。

◇中華國側及び滿鐵の招宴

五日中華民國側有志、六日滿鐵會社の招宴を受く日支敎育家の握手滿鐵沿線の敎育と內地敎育との交涉、行はれ、將來の國民敎育に及ぼせる影響蓋し尠なからざるものあり。

◇長春の一夜

七日奉天を發す、暫くにして昌圖驛に達す、此處は日露の役休戰協

定を行ひし記念地點にして今日平和を招來し滿鐵列車の走るも此の日より創まれるを想起し自ら當時の將卒の武勇と、休戰交涉委員の樽俎の間に接衝せし苦辛と效績とを感謝して夜八時長春富士館に着く。富士館には秩父太織販路擴張に滯在の飯島氏及び一行吉川氏の同鄕の女中、及び飯能校出身者に會合し互に奇遇に共鳴し、飯島氏とは室を同じうして一夜を明せり。

翌八日五十臺の馬車に搭乘して市街を視察す、公園は十五萬坪の新設計にして奉天公園に優越すること數等將來吾が邦人の增加發展の日に備へて餘すところなし、正金銀行屋上に於て市街を展望し生々發展の狀を一眸に集め得たり。長春は地下水の豐泉工事完成して水道布かれ水質良好なりといふ、小學校、高等女學校の設けあり、領事館ありて將來倍々發展の境遇にあり殊に南滿鐵道の終點、東支鐵道吉長線の起點として實に樞要の市街たり、前日郊外において馬賊二名を死刑に處し銃殺せる實況を飯島氏より物語らる、一日違にて見ることを得ざりしは遺憾なり。午後十時東支鐵道二等寢臺車によりてハルピンに着す。

◇ハルピン驛の思出

京城、安東、奉天といへ又長春といへ着驛第一印象は車站の結構宏壯輪奐にあり、八日初更哈爾賓に着く電光晃々として白日の如けれども枝垂る杞柳の影を映すところ弦に視線は落つ獨り吾々のみならず衆悉く然り而して五發の銃聲は今耳朶をつんざく感あり。

噫維新の元老、立憲治世の殊勳、朝鮮統監政治の創始、樞密院議長伊藤公爵永眠の驛。公之終焉の地此處か彼處かと追慕するの外驛の壯麗は言ふも更なり他に耳目に觸るゝ何者もなく秋風颯として吹き來り鬼哭天に聞ゆるの慨あり。抑も露國東方政策の成る已に久し日淸戰後世界の平和を名として吾國をして遼東半島を還付せしめたるもそが爲なり。幾何もなくして遼東の野を租借地としたる東支鐵道を布敷したる、義和團に藉口して多數の守備隊を滿洲に配置して事實上遼東を占領したる之を證して餘りある所なり、延いてその暴威は朝鮮八道に及ばんとするの時克くその時局を洞察し千古の卓見を懷いて之に對應し、朝鮮統治の國策を樹て日露の役に訴へて東洋

の平和を確立せるもの公の輔弼與り存するところなり、朝鮮の統治其緒に就き日露の平和招來し漸く親善を高め、併せて滿蒙西比利亞の國際關係と資源開拓の實狀對査を兼ねハルピン旅行に志ざゝれたるは忘れもせず頃は明治四十二年十月なり、日露、日支親善を使命とせるは吾人の知る範圍の事に屬し、その他大任務を抱懷されしは當然にして抑も其大任の那邊に存せしかは吾人の與り知らざる所なり、十月二十五日長春の旅館にあり、絶筆を題して曰はく

見聞皆是眞學問

と翌廿六日黎明ハルピンに着く露國ココウツオフ藏相車內に握手寒暄を交へ天下の大勢を語る十五分公を伴ふて一步をプラットホームに運ぶ時露支儀仗兵は喨々たる奏樂と共に捧銃の敬禮を以て公を迎へられ蝟集せる日支露の政客亦公の來哈を歡迎せり、ココウツオフ藏相の請により露國儀仗兵の閱兵を行ひ最左翼に至つて步を返すや俄然儀仗兵の後方より銃聲一發又二發悼むべし公終に殪る、惡むべし第三第四第五は中村滿鐵總裁、田中理事、森槐南氏に酬いられ皆共に仆る、いと長閉けき日本晴の秋天忽ち雲りて風殺氣を帶び居留民六千の歡喜は一轉憂愁と化し各國の政客亦狂氣落魂、ハルピン市街人心囂々として只公の本復を祈ること切なりしが天は東洋の平和を吾人に與へて公の壽を奪ひしが再び移されたる列車內の假寢臺の上に臨終を告げられたり、嗚呼。公逝いて東洋の平和至る、卽ち翌四十三年朝鮮の併合は行はれて內鮮七千萬の同胞は俱に携へて幸福の人生を送ることをえ、日露の親善日毎に濃度を增し滿洲の經營樹立せらる、蓋し公の遺難を以て吾等同胞に慶福を授けたるものか、公去りて十有八年今ハルピンに着いて不思不知追慕痛悼措かず五發の銃聲耳朶に殘りて公の偉姿猶眼前に仰ぐが如き感あり、茫然自失唖然としてプラットホームに停立するもの數刻。

◇同窓本橋氏の近況

本橋君吾等一行を驛に迎へらる、氏に勵まされ心氣を一轉して東洋館に自動車を走らす、氏の案內にて市內殘る隈なく視察を遂げえたり、一日氏の邸に一行を招いて厚き待遇を受く、氏はハルピン小學校有數の地位にあり、成功者の一人たるは同窓一行は自らの如く喜

ガラス使用

べり、同校兒童の音樂會、ダンスを參觀す、一行皆異口同音に鄕里の學校に歸れる感ありと叫べり、出發來始めて無邪氣なる兒童の學習を直觀せるがためなり、吾等一行に取りては此の音樂會の催は山海の珍味にまさりての馳走として同校の厚意を感謝して止まざるなり。尙本橋氏は一行のため旅行用藥品を調へ車窓に之を贈らる、懇切思ふべし。

◇志士が原落花の薫

伊藤公客死のハルピン驛の郊外漠漠たるくさむら秋寂轉々身にしむ古來名づくるなく今は志士が原といふ我が憂國の士橫川省三、冲禎介銃殺の刑に處せられ皇軍のため櫻と散りしを以てなり。志士の最期實に壯烈日本魂の典型なり、前に品川東海寺澤庵和尙の墓つゞきに二氏の墓に詣て今此の原頭に刑場を弔ふ、二氏露と消え花と散りし面影亡しと雖も魂魄ハルピンの空を翔るを見る。明治三十七年日露の風雲急を告ぐるや二氏は憂國の士數名と武裝して北京を發し蒙古より西比利亞に踏み入りて東清鐵道破壞の大望を懷き松花江の流れを辿り行く、吹雪に道を踏み迷ひ氷河の上に憂國の夢を結び高粱を食べ水を飮み艱難辛酸物ともせず、漸く敵の橋梁に近づき喇嘛僧に變裝して時の至るを待つこと切切たり、敵の警戒竣嚴を極め終に監視の目に觸る。敵の凋眼又侮るべからず白の天幕とエナメルの食器をいぶかしめ、眞の蒙古僧にあらざるを看破され惜しむべし、四士の最期實に壯烈日本魂の典型なり、前に品川東海寺澤庵和尙の墓つゞき子の食べ方下手なるを以て日本人の變裝なるを看破せられたりと。三十七年四月廿一日原頭に於て銃聲一發刑場の露と消えぬ、志士殪るされど露軍大に狼狽し西比利亞蒙古の地帶全線に亙りて警備を堅うして爾來大軍をハルピン以南に南下することを躊躇したるがため遂に我軍の北進をして悉く有利ならしむ、奉天の大會戰を以て平和を講ずるに至らしめたるも志士武勳赫々の效績なり、現に我が滿蒙の野に勢力を扶植したるも亦士の形見といふべし。他の者は走つて蒙古に入りしも蒙古人のために大望を挫折せり、刑場の跡一大碑を建て、二士及蒙古入りし四士を併せ弔ふて六士の碑と刻す。銘に曰ふ

大詔煥發　事急邊疆
書生憂國　幾兮古狂
嗚呼六士　鐵石心腸
死雖慘烈　其骨猶香
豐碑屹立　後人仰光
松花之水　浩々洋々
正氣磅礴　千載流芳

抑も滅せざるものは志なり、朽ちざるものは名なり、敷島の國大和の櫻咲く限り其香薫るべく松花江の流れの盡きざる限り其忠烈永時に赫々たるべし。

◇奉天神社玉串奉奠中祝電

十二日再び奉天に戻り奉天神社に參拜、時飛電あり曰く「一行の健康を祝す、入間郡敎育會」過る六日奉天に於て校長會議中に大里郡敎育會祝電と共に一行の元氣一層旺盛を增し兩敎育會に敬意を表す。

◇奉天縣人會

此夜奉天在住縣人會員の招宴を受く、全滿地方委員大野壽、寫眞師小久保德次、菓子商田中吉郎、南滿中學堂高麗文英、陸軍二等主計小池榮平、武藏野旅館主渡邊淸太郎、滿洲銀行安東支店支配人長谷部正平氏等懇切の斡旋をせられ滿洲事情、鄕里の消息につき歡談時を移せり。

奉天醫科大學々生北葛南櫻井村出身鈴木道三郎氏は奉天滯在中、各方面の案內より、團員洗濯物の心配まで斡旋せられ、一行尠なからず便宜を得たり。

◇撫順縣人會

十三日撫順に着く埼玉縣人會は停車場に一行を迎へ市街竝炭坑を案內し加ふるに晩餐の宴を張らる、一行は其厚意と縣人會員の何れもつめてバカ〳〵するもの甚だ多し大成功家たるとに歡喜し歡談時の移るを知らずして午後十時春陽館に泊す。

◇縣人會員

今井磯吉　山崎亮作　小山英太郎
增永茂重郎　秋山伊藏（以上足立）
飯塚芳太郎　高田忠良（大里）
大藪鉦太郎　大澤寅松　渡邊寬一（北埼）
大澤廣三郎　大畑喜助　宮本七郎平（入間）
瀧田勝治　松本重平（比企）
染谷二男　山田正吉（北葛）
中村鐵五郎（兒玉）
小田繁治（南埼）

◇よく吸ふ人。寢る人。踊る人。

朝鮮の人は男女共に煙草を好む、外出にも煙管の長きものを手に携ふ、步行中大きな雁頸玉に煙草をつめてバカ〳〵するもの甚だ多し

炎天の下、路傍の土間に書寢をして邯鄲の夢を結ぶは中國人なり、ダンスに興じて夜を徹して享樂に耽るは露西亞人なり、その國多數のもの然りとは思はざるも、その一部に此の傾向あるは事實なり、一部に存する習俗と雖も風習其ものが而も國の消長に關するものにあつては之を忽緒に附すべからず況んや其習慣の廣き範圍の國民に瀰漫せるにおいては尚且つ然り。

◇畜力と道路

中國の道路といへば何人も其の惡しきを知り又小川の中を道とすることをも聞く所なり、道路改修の出來ざるは官治行政の不備、自治制の無きに依るは當然なるも一は畜類の蓄養多きがために牛馬の力に依り車を換かせ馬子は車に乘つて馭者臺にあるが故に道路の惡しき感ずる事の鈍さにも依るが如し馬車は一頭二頭より多きは六七頭に挽かするを以つて川を越える事などゝも内地の人の想像よりは困難を感ぜざるが如し、但し道路の惡しき丈け時間を冗費することは免れざるも時間觀念は彼の人等には案外低級なり。

◇鞍山縣人會の厚意

一行が鴨綠江を越えるや縣人會の企を打電せらる、惜いかな九月十四日午前鞍山製鐵所を視察し湯崗子溫泉に晩餐を喫して夜中大連に向ふ、日程なるを以て歡談を共にするの時間を與へられず、情溫き縣人會は鞍山小學校内に晝餉を催して一行を犒はる、一行も其厚意に共鳴し湯崗子行を一列車繰延べ短き時間に四方山の歡談を繰返すことをえたるは、感謝に辭なし、同窓神山一二三、兒玉出身鹽原照雄氏等十餘名の厚意銘記して忘れざる所なり。

◇湯崗子の靈泉

滿洲の地は殖産、工業、教育其他開拓急にして文藝、美術其他精神慰安の方面には未だ手を伸ばすべき時機をえざりしが如し而て天然の美。天與の勝地の紹介せられたるものも少なし、此處に湯崗子は天然の勝地として紹介されたる溫泉場なり、對翠閣あり、客室の設備頗る雅致に富み、音樂室、娯樂室、新聞縱覽室等備らざるなし、偶數時間休憩せり、若し時間を有し靈湯に浴し靈泉を酌み陶然たるを得ば、とかこちつゝ數刻にて辭退し夜行列車にて大連へ向ふ。

同窓蓋平公學堂草野七郎、大石橋小學校訓導淺海賴三氏の來訪を受

く。

◇旅順一瞥

翠を競ひ奇を爭ふ峯巒背を擁し水色麗明の海原に圍まれ、春の花、夏の凉影、秋の鶉狩、三冬の雲景四季折々の眺め盡きぬ仙境にて大陸に誇るべき絶勝の地たり、されど古來兵火の巷となり、優雅の山百合、眞紅の女郎花も馬蹄の蹂躙する所となり妙なる色香をあらはす季節を迎へず翠色滴る若葉も銃彈に撲たれて生々の氣を損じ水に浮ぶ鷗は海に沈める靈を弔ふ聲哀れに、葉蔭に鳴く鶉は陸に眠る武夫の亡靈を慰むる聲淋しく聞え、勝地を愛づるよりは、哀史に泣くの土地にして心あるものには遊覽の氣分絶えて起らず、只管奮鬪激戰の跡形を追懷するに止まり、英靈を追悼する情湧いて涙自ら袖を濕ほすものあり。

歌書より兵書にかなし吉野山

吉野山に登りし人にして初めて吉野の風物を味ふべし旅順に來るもののにして初めて旅順の眞相を捉へえん。旅順は其の初め獅子口といふ、港口の獅子形より言へり、又中國より滿洲旅順口ともいへり、中國より朝鮮に往來する旅の順序に依る處より旅順といふ、從つて勢ひ此處が兵馬水師の巷となるも偶然ならざるなり。

◇西港東港

港口實に百五十米、我が軍閉塞隊が運送船を沈めて敵の出入を杜絶せんと企てたるも實に可能事なり西港は露艦の沈める處、東港は李鴻章が東洋艦隊の根據地として築港せるものたり、東西港を合はす極めて狹く我國の軍港などの如く廣く且つ便宜の要港とは同日に語るべきにはあらず。露國が東方策の根據地として其主要港たる位置にありしものか。

◇白玉山

海拔四〇八尺、舊市街眼下にあり東西の港を黃金山砲臺と老虎尾半島の岬と百五十五米を巨て、相扼するを見る、背後は大小の丘峯重疊し何れも望臺として、又砲臺、砲壘として戰鬪價値に富む山形たり、二〇三高地を最高とせるよりも伺ひ知らるべし、而て連峯の外圍は開平地にして左右の兩翼は海を以て限られ敵を防禦するに自然の天險たり、白玉山神社を祀る、日露の役戰病死せる忠臣二萬二千餘人の靈を祀る、祀前白蠟燭形の一大塔之れ旅順の礎ともいふべき表忠塔なり、高二百餘尺、塔の頂

ガラス使用

上は海上二〇三米爾靈山と其高さを同じうす、塔を望むとき誰か我將卒の赫々たる武勳を仰がざる者あらんや、塔の頂上に登りて遙に閉塞船の地點を望み、顧みて各砲壘を展望する時誰か、血魂肉彈を以て惡戰苦闘せる日本魂の發露を偲ばざるものあらんや、追慕欽仰眼忽ち潤ひ脚自ら寒き不知不識我を失す、獨我一人に非るなり。

今や旅順は武裝を解き屍山は綠袍を着、花笑鳥囀り血河は清んで鼈住み魚躍る勝地たるの觀を呈するに至るも實に英露の吾等に授くる所の賜なり、白玉山表忠塔晝は空に沖して其偉功を物語り、夜はイルミネーション皎々として沖遠く航行する船舶に餘澤を與へて其威光を輝かす、英靈又慰むるに足らん。

露軍將校會議所は博物館たり、海兵團は旅順工科大學たり、關東廳其他著明の建物は悉く是れ露の經營せる建築物にして或は之に多少の改造を加へたるものなの境遇亦想像に餘りあり、羅馬を亡ぼせるものは羅馬市民なり、バビロンを滅せるものはバビロン市民なり嗚呼、夫れスバルタ魂何時までもスバルタ魂たらず、願みざるをえんや、戒めざるをえんや。

◇東鷄冠山

側防砦砦のコンクリートの砲臺にして我軍肉と血とを以て占領せる所、今尚當時の現形を止む、露守城法の最權威コンドラチンコ少將戰死の跡又其儘に存す、其西に望臺砲臺あり肉彈の名士櫻井中尉名譽の負傷せる所なり、此北砲臺には我軍の掘鑿せる坑道も其當時を

物語り、皇國のためには手に榴彈を以て投げ戰ひつゝも武士の情は湧いて麵麭の片、煙草の吸掛をば互に惠み合ひつゝ肉搏せる塹壕も之を言表はす言葉に乏しく筆に拙なるは敵前銃彈なき感あり。

◇爾靈山に詣づ

海拔二〇三米依つて二〇三高地といひ、山形より旅順富士といひ我軍が無數の鐵火と數千の鮮血を濺いで奪取せるより鐵血山といふ、支那固有の名稱は老爺山たり、乃木將軍が

爾靈山險豈難攀　男子功名期克難
鐵血覆山山形改　萬人齊仰爾靈山

と詠吟されしより爾靈山と唱ふるに至る、旅順を巨る一里半連峯中最高たり、その防禦工事は日露開戰と共に着手し十一月下旬に完成し東北部西南部に十五糎加農法二門宛中間の低き鞍部に速射砲二門を据付け周圍全體は二重の散兵壕及び鐵條網を取巻き、散兵壕は鐵道軌道を以て覆ひ其上を更に土表にて積重ねたるを以て小銃の效果は毫もあらはれず、我軍肉薄して占領すること二回にして敵の逆襲奪還に會ふこと亦二回、手榴彈、石塊を連投しつゝ味方の全滅を覺悟して遂に三回目に完全なる占領を遂げたる地たるは何人も忘れざる所なり、敵が難攻不落の天險に據り人工の極を盡して堅固なる城砦を築いて苦守する所、加ふるに滿洲軍は沙河方面にて優勢の軍と相對峙し、旅順軍の應援を得て北進し奉天に一大決戰を行ふ機漸く熟し、剩へバルチック艦隊は刻々肉薄し來るを以て旅順港外の艦隊は之が激擊に備へざるべからるを以て、旅順占領は如何なる犧牲を拂ふも一刻を爭ふ秋なるが故悪戰苦闘を敢てし鐵血山を覆ひ山形改まるも實に當然なり、乃木將軍の我愧何顏看父老、凱旋今日幾人還と吟せられしも其心緒を忖度欽仰するに餘りあり。

中麓に墓標一基之れ將軍の次子保典少尉戰死の墓標なり一行記念塔に詣づる時閑として聲なく、合掌三拜する時名譽の戰死を遂げたる英姿の髣髴として心眼に映ぜるを覺えたり。

乾に峙つ爾靈山　迷の雲は晴れなから
血汐の雨の跡赤く　夕日まば行く照すなり
近き赤坂海鼠山　遠き椅子案予山
暮れ行く秋の蟲の聲　吹き來る風も醒し

◇水師營

旅順を去る里餘部落あり水師營といふ、昔水師の營所を置けるを以て今部落の名とす、兩將會見所は土塀を以て四方を圍まれ門を入れば庭中正面に姿見形の大理石の記念碑あり「乃木將軍ステッセル將軍會見之所」と刻す、其左塀の極に一本の棗の樹あり少しく進んで支那建築の普通民家一棟あり二間に仕切らるゝれ兩將の會見記念館なり、此の會見に依り千才治まり山谷を埋めし勇士の白骨も無限の恨を呑んで艶れし忠義の靈魂も茲に始めて泉下に頰笑めるなり、君のため祖國のため捧げし忠勇義烈なる將卒の偉勳は長時に靑史を飾り、其英靈は永く護國の神なり。

龍河のほとり深みどり　朝霧とざす水師營
乃木の嵐の吹きしとき　山も力も皆拔けて
港も船もすてつせる　城を開きし條約地
長き記念の糸やなぎ　ゆさきの人の目やひかん

ガラス使用

◇みいら

關東廳博物館あり特に參考資料として四體の「ミイラ」を陳列す何れも千餘年前のものなり。

◇鶉料理

鶉は旅順に多く蕃殖し鶉料理は旅順名物の一なり、偶關東廳の招宴に侍つて鶉燒の馳走に接したり、此の鶉は多くは山東省方面よりの渡鳥なりといふ。

◇大連より天津へ

十七日午後五時大連を出帆す、八時を過くる頃旅順の沖合に達す、表忠塔のイルミネーションは皎々として航路を照らし、再び當時を追想せり、閉塞隊の隱れつ攻めつ怒濤と戰ひしは恰かも航路の此處彼處かと思はれて海軍の辛苦の程も察せらる、偶風強く波高し、折しも去にし黃海大海戰は今月今日にして高千穗艦の靑島封鎖監視中名譽の戰鬪をしたるも今日の今時なるを想ひ起せば、か程の風浪におづるは軍人の手前腑甲斐なしと思ふ間もなく濤いよ〳〵怒り船は木と葉と玩ばれトランクの山は崩れ、甲板に打上し怒濤はドアーを排して闖入すること、二度三度、船の中紅一點の貴婦人の如きは襦鼠となり、よそめながらも同情に堪へたり小兒は泣き叫ぶ、逆吐は此處彼處一行息を殺して長平丸に行手の平安を祈る甲斐ありて暫くにして風次第になぎ波漸く治まり黎明海濶く波平にして皆甲板の上に夜前の苦みを語り合へり、折柄數羽の鳩檣上を舞ひ石川團員の前に下る氏手にとりて水を與へればに喜んで之をついばねこと數回、石川氏の喜びと得意思ふべし、正午十二時太沽に着き白河を遡行す、氏甲板に上りて鳩を放つ、鳩氏の頭上を舞ふこと三回にして陸をさして飛び去る、石川氏曰はく海路平安の風神の御告なりと、時午後三時天津に着港す。

◇天津便り

天津は白河の河口を遡ること三十七浬の沿岸にあるも尙天津港といふ、船白河に入るや兩岸視線に映ずるは落莫たる寒村のみにして兩洛には靑蘆の茂りて行々子飛び交ふを見る、溯ること暫くにして右岸突兀たる崗丘を望む是れ團匪事件の際我軍の砲壘を築きし跡なり河の水は濁りて百年淸むことなし淸まざる河を白河といふ、こは迂紆曲折九十九ヶ所依つて百に一足らざるより白といふといふ。さもあるべし、天津は轢轆地軸を震ひ車馬絡繹、快車疾走、夫役騷然として働き北支第一つ貿易港にして南京に次ぐ商業地なり、人口實に八十万、中國政治の中心地たり各國の租界は各々其國の建築風を表はし就中伊太利租界の建築異彩を放つを見る、獨墺の租界は中國に於て其權利を回收せられたり、其坪數は日本四十万坪、佛四十五万坪、英八十万坪、白六万坪、露七十万坪、伊二十万坪にして獨墺の舊租界は獨四十五万坪、墺二十五万坪なり。

前大總統黎元洪邸に招待を受く、一々一行に握手の禮を交ゆ、茶菓の饗應の後記念撮影をなす、挨拶に曰はく。

諸君は奉天の會議にて敎育問題を研究されしと聞く敎育上の慶福と察し、且其勞を謝す、中國と日本は脣齒輔車の關係にあれば兩國の和親と協同とは東洋の平和は遂には世界の平和を納め得ることを信ず、而して兩國の親善融和は、兩國民の信と敬との二字に存するを確信す、信と敬とを小學校兒童よりつぎ込むことによつて達せらるべし、晩近日本の小學敎育の進歩は顯著にして我が中國も大に範を日本に採りつゝあり、諸君が自重自愛されて、兩國親善延いて世界の平和招來貢獻せられんことを望む。

居留地駐屯軍營所において野添大尉の講話あり、時局南方戰況を說明し併せて日本人の長所短所につき慷慨悲憤の辯を振はる、駐屯軍一人に對し保護すべき居留民割合は日本十一人、米は二人四分、佛は僅に〇人七分に相當すること悉く悲まる、駐屯軍總員日三五〇、米九二七、英七三五、佛一、一七四人なりといふ。

明治三十八年李鴻章を祀れる李公祠は奉天軍駐屯し居りて參詣することを得ざりしは遺憾なり。

民留民團にて設置せる天津尋常高等小學校は學級數十四兒童五三九人して本年度經費五万百九十二圓經費を吝まざることを伺ひ知るべし。

英租界に各國共同墓地あり、北淸事變の際戰死せる我が服部中佐外數名の將校の墓碑あり、一行香を手向けて英靈を弔ふ。

北葛靜村出身田中特務曹長は一行に中饗を饗應し會食しつゝ支那事情を告げられ記念撮影をして別る厚意感謝する所なり。

◇北京より

北京は遠く唐堯の世は幽都と呼び幾多の變遷ありて幽州、燕、中都燕京などの稱あり今は北京といふ民國初年南京遷都の輿論起りしも遂に其事なく依然首府たり、中國は其戸口確實ならず、天津を八十万、九十万百万といふが如し、現在天津より二十万を超過すべしといふ。

内城（都城は）五百年前明代の結構にして周圍十支里（一支里は我が六町）の城壁を以て圍む城壁の高さ三丈五尺五寸、巾五丈、四方に門につく、南を正陽、崇文宣武東を朝陽、東直、西を阜成、西直北を安定、德利門といふ。

百餘年を經て外城を築く、外城は内城の南面を抱き圍み、南面二千四百餘丈東面一千八百餘丈西面一千九百餘丈之に門を構ふること内城に同じ、内城内は皇城を中心として王府官府官神の府第相並外城は商業區たり。

◇宮　城

大總統其他政府の衙門は宮城以外にあるを以て宮城は今は故宮博物館として公開せらる、相隣れる拜賀を受けし大和殿、賜謁の保和殿經筵を開きし文華殿、活字版を藏せし武英殿等は古器物、歷代帝王の像、書畫美術品等を列々し公衆の觀覽に開放せり。

宮殿の結構は概ね一樣にして規模に大小の差こそあれ其小なるものと雖も宏壯雄麗一驚を禁ずるを得ず、されど何れも荒れ果てゝ治亂興亡の歷史を物語りつゝあり。

◇觀　象　臺

支那における天文觀測は遠く堯代にて起原す、二百五十餘年前清代に完全なる機械を備付く、天體機黃道經緯儀、地平經緯儀、象緯儀起眼儀等之なり、今日の觀測機には比すべきにもあらざれども住年の文化の發達を推測するに足る、北清事變に英佛軍の占領せる所となりしも學術發展のため兩國より之を還付して目下公衆の觀覽に供ふ。

◇雍和宮（喇嘛廟）

雍和帝の未だ親王たりし時代の邸宅を寄進して喇嘛寺としたるものなり、喇嘛敎に力を入るゝは蒙古西藏の民心を懷柔して統治の權勢を掌握せんとしたるにあり、清朝の世は政府より補助を下して維持したるも民國以來補助なきを以て二十有餘の堂塔伽藍朽廢して風雨に晒されつゝあり、觀喜物は高さ七丈の立像にして一本の楠木にて

彫刻せるものにして第七堂の魔法佛と相竝んで參詣者の眼をひく。

◇天　壇

北京に天子の祭壇七ヶ所あり天壇は其の一なり、明代の建築にかゝる、天に象の圓狀の壇を三層に重ね下層は經二十一丈高五尺二寸中層は經十五丈上層は經九丈高は何れも五尺餘なり。大理石を以て積み上ぐ、天を祭るは最も重き祭事にして、天の命に叶ふ政治を執り社稷人民に福祉を與へんがためなり、天子天を祀る民亦天を敬して修德に努め天に合一せんことを期す、此意味において天を祭ることは祭事中最重の儀式なり、天壇の構内雜草叢生して只往昔の古式場たる跡形を殘すのみ、今や天子之を祭らざるも人々天を畏れ敬ふの靈場たらしめんことを欲して止まず。

◇文　廟

孔子廟なり忽必烈都を北京に定め先づ孔子を祭りしを起原として現在の文廟は五百餘年前の建造なり大成殿は民國三年に重修を加へ丹畫朱塗結構壯麗黃瓦燦然人の眼を射、堂奥に先師孔子の神位を奉還し左右には述聖孔子、複聖顏子、孟子、曾子の四聖竝に十哲の神位を安安置し自ら襟を正して尊崇の念を起さしむ。民國六年黎元洪献進の遍額あり。

◇國　子　監

元代の舊學にして明代に國子監といひ最高學府にして又進士科擧の試驗場たり、碎雍宮は乾隆帝講書の處なり、東西兩庶の各堂には石刻十三經百九十基立てり。

◇北　海　公　園

中華門内一帶の地人工を加へて池沼を掘鑿し北海中海南海とす、北京の西郊外萬壽山より清流を卒き入れ護城河に注き更に運河にそゝぐ、遼金元得清皆離宮あり雲上人清遊の地なり、水色透明にして黃瓦朱柱の宮殿の影を寫し貴妃嬪御の舟遊なせる當時も連想せられて禁苑内の勝地として山紫水明幽邃閑雅なり。

◇景　山

北海中海南海を包繞せる假山にして五峰より成る、皆掘上たる土石を以て築たるものなり、四季の風木奇樹を移植し萬歲山といふ、蒼翠滴らんとする明媚なる山景は垺内何れよりも景仰せらる、萬翠參差の間黃瓦丹紫の望樓堂宇隱見して、景致の妙、落莫たる北京城内唯一の色彩なり。

◇萬　壽　山

北京西門を出づれば坦々たる大道の兩側には楊柳參差として郊外の野趣一層の雅致あり、乾土にして前驅の自動車の塵煙を立て咫尺を辨ぜず、折角の風光も望むことを得ざるは中國道路の特長なり。三十支里にして歷代の離宮あり土を掘りて山を築き湖となせること景山、北海と同樣なり、山を萬壽山池を昆明湖といふ、王泉山より走り出つる清泉をたゞよはせ、流れて北京北海に流通す、昆明湖よりは船によつて北京往復自由にして西太后は常に船によつて北京に往復せり、便殿あり、佛堂あり、塔宇あり、浮橋あり、大理石建造の石船あり、燦然たる佛香の高閣虛空を凌ぎ波光澄徹藍を欺き黃瓦丹碧の文碧湖と相映照し景山北海の比にあらず、此地初は甕山清漪園といひ今は頤和園といふ。

◇王　泉　山

萬壽山の一里餘の處王泉山あり、清水滾々として噴出して昆明湖に注ぎ更に流れて北京に通ず、乾隆帝「天下第一泉」と命名せられてよゆ特に其名あり(續く)

◇北京便り

精華學校

北京の西郊外二大萬壽山に至る途中にあり米國經營に係る、北清事變の賠償金を以て米國は直に此の校を建て爾來中國各省より秀才を募つて敎養につとむ。現在生徒三〇〇人職員米支兩國民一〇〇名初等三年高等科二年卒業生は大學出身資格なり、卒業生を出すこと約五〇〇人其卒業生は學費を給して米國に留學せしむ、留學して歸國せるもの已に五百人多くは敎育事業、商業、工業に從事し政治に關係するもの少なし、設備は完全にして到底內地には其例を見ざるなり、尙隣接して新設中の大學あり規模又宏大にして竣工の曉は肩を比べ得るものなるべし等しく米國人の經營と聞く。

◇慈惠女學院

天下第一泉玉泉山に程近き香山にあり熊希齡私財を投じて經營するものなり、民國六年水害に罹り怙恃を失せる女子を集め養育せるを端緒として爾來校舍其他の設備を完成して今日に至る、初級三年高級三年にして高級は高等女學校なり、校內を家庭として敎養するものなり、尙幼稚園、小學部、中學部、職業部、織物部、醫科部を設く、女學部以外は他所にあり現在女子部生徒二百四十八一ヶ年經費五萬圓寄宿舍は棟毎に町村に分ち自治的に生活せしめつゝあり。

◇協和醫學校

北京城內にあり米國ロックヘラーの經營なり、規模宏壯にして設備の充實稀に見る所なり、一九二一年の創設にして創設費二千万圓現在經常費一ヶ月二十万圓を要す、專門學校程度にして四ヶ年卒業、現在生徒百名入院患者は三等は五十錢にて食費藥料一切を給し、二等は一日金四圓一等は金十四圓とす。之に隣接せる我同仁會病院は規模餘りに貧弱にして到底比すべきに非れど內容においては遠に優逸し「死にたくば協和病院に生きたくば同仁病院に行け」と中國人間に標語ありといふを聞くに至つて大に意を强うするものあり。

◇懇　親　會

東興樓に開き一行の親睦、長途の慰藉と訣別とを兼ね支那料理の數數、ホワンチュウを呑みつゝ交はし つゝ宴酣に興愈々進み各々「わしが國さ」を發表し本縣一行よりも塙保己一の浪花節講演、秩父山景の追分節披露等あり。

◇月　見

三日月の頃より待ちし今宵哉

いつもなれば待ちこがるゝ月見も草枕旅路にあれば折忘れげるが今宵北京城內月見の祭壇に心つき仰げば、さえ渡る月は御空にかゝりむら雲の譬うらゝかなる中國に月にむら雲の譬うらゝかなる中國に發展し、山影水色亦自ら改まり尙前途洋々として止まざるものあるは月見の祭は紙製の宮殿を作り、(二三尺四方)各種の供物を饌し赤色の百目蠟燭を燈し線香を束のまゝ二三把立て、かゞり火をたき月を眺む。一行も北京の月見は空前絕後のことなればとて諸船の準備をなし月見を行ふ。

「家にあれば笥にもるものを草枕旅にしあれ椎の葉にもる」盛るに器なく供ふるに物なく圓き卓子をかこんで圓き盆に圓き西瓜の種子を盛り一盃の紅茶を喫し北京にて親しみ深くなりにし亞珍、星寶、季氏等と心もはれて打語らひ秋の夜長も今少し長かれと十二時までも眺めけり。

◇閑院宮殿下を迎へる

關東州

關東州施政玆に二十年、行政、經濟、敎育、交通、貿易躍如として發展し、山影水色亦自ら改まり尙前途洋々として止まざるものあるは之を二十年の過去に比べ轉隔世の感なきを得ず、此の秋に當り三十七八年の役本溪湖方面の敵を掃

蕩し連戰連勝の偉勳を輝せる、閑院宮殿下の台臨を仰いで施政二十週記念式を擧行する官民の感激はそも如何ばかりぞ、廿四日旅順において莊嚴なる記念式は擧行せられ廿五日は大連において宮殿下奉迎の大賀は宴開かる、國旗は閃々として軒提灯に飾られた市街は花電車輪轉し埠頭には大小の船舶滿歡飾を施して、奉祝の意を表し、施政以來未曾有の壯觀を呈せり。

◇閑院宮殿下奉迎歌

（生徒奉唱）

くもいはるかにうなばらな
こえさせたまふひのもとの
かがやくみやをむかへます
　たふときこの日
　たふときこの日
からくさかをるながづきに
やまとなでしこあやなして
あかきこころのはなぞのも
　ことほぐこの日
　ことほぐこの日
さやにひらけしますのはら
つらぬくみちにまなびつゝ
かぎりもあらぬみめぐみに
　こたへんこの日
　こたへんこの日

◇滿蒙の抱擁する富源

イ、面積と人口

日本の總面積は朝鮮を合せて四万四千方里、滿蒙は七万四千方里、日本の人口五千六百万に對し滿蒙は二千四百万、一方里の密度日本の二千二百人に對し滿蒙は三百三十人生存競走は何處を吹くかとばかりに悠々閑々と暮し得る樂天地なり。

ロ、氣候

大陸的にして寒暑の差大なりとはいへ、南滿の寒さは概して北海道に等しく洋風の防寒設備行屆き北海道の生活にも優りて安逸なり、暑さは三都の平的溫度よりは低く其期間短かく然も乾燥せるため汗の出つるに至らず綠陰の樹下は凉風快通の地なり。

ハ、農産

百年間は施肥の要なくして耕作せらるゝ土地約八割を占むといふ、年産二千万石の大豆、三千六百万石の高粱三千万石の粟、千万石の玉蜀黍、百万の陸稻、其他小豆、黍、小麥、蕎麥、燕麥稗、馬鈴薯等を產し今後有利なるものには水稻、亞麻、果樹、煙草等有利なるもの少なからず。

ニ、畜産

滿蒙の地たる十歳の小童猶ほよく數頭の牛豚を畜ふ、人間の仕事は畜力に支配され寧ろ畜類が人類を使役し居るかの感あり、牛馬、驢馬、豚、羊、鷄等の飼育は將來に望みあり。

ホ、林産

渺望千里見渡す限り一樹一木の眼を遮る事なしといふ滿蒙も松花、牡丹、豆滿江の上流長白山一帶、鴨綠江の流域白頭山、吉林、興安嶺、陰山々脈の木材の產出は筏節に謠はるゝに依りても推測に難からず。

ヘ、工業

原料の無盡藏にして加ふるに燃料豐富、勞銀低廉なるとを以て工業の勃興は將來倍々有望なり、大豆油、大豆粕、高粱酒、製粉、製革柞蠶紡績、麻布等已に世人の知るところなり。

ト、鑛業

石炭は鑛產の王にして撫順は鑛區二千萬坪炭層七八十尺より四百八十尺に及び、磐城炭の七九尺の到底比すべきに非ず、埋藏量實に十餘億噸、半無煙炭の本溪湖炭は二億噸を有す、鞍山の製鐵事業も鐵鑛無限にして燃料は無順に仰ぎ製鐵產額內地の需要に供して餘りある所なり。

關東州施設二十年にして此の資源を開發し　國富を增殖す、更に將來科學を應用し人力を加へて開拓につとめば將來二十年を經ば今日の文化も更に又隔世の感に打たるるの日あらん、俗謠に曰はく

滿洲を不毛の地じやと一口に
　みすてしやんすは曲がない
主の心の丹精で植ゑれば
　又花咲く實も結ぶ

◇大連縣人會

大連は南滿の表玄關なり、市街の發展商業の盛賑、神戸橫濱にも優るとも劣らざるなり、我が縣人の成功活躍も又稀に見る所なり、縣人會は一行のため盛大なる歡迎の宴を張り各其發展成功の經歷を紹介せられ、一行は激勵を受けしこと鮮少ならざるなり、特に一行のため斡旋せられたる成功者芳名左の如し。

渡邊進（學務課）、飯村佐四郎（ヤマトホテル）、長谷川良之助（滿鮮バック社）、浦山保壽（奉天每日新聞者）、中村國治（洋酒輸出入商）、萩原明正（豐年製油會社）瀧澤啓夫（遼東新報社）、高柳藏重（支那稅關）、持田彥平（澱粉製造）、小久保龍馬、矢島龜太郎、境野龜吉（滿鐵沙河口工場）、吉田守清（同）、高野茂義、外十餘名

◇五色の酒

飯能町出身中村國治氏は大連にお

ける成功家の一人にして其人格崇高にして實業に丹精なるを以て澁澤子爵の信任する仁なり、本縣一行を招致して歡談の間滿洲事情を說明せらる、氏は洋酒問屋にしてボルドー商會と稱し南清より北はハルピンに亙りて販路を有し大連市中屈指の紳商なり、一行に五色の酒を以て饗應せらる、所謂五色の酒は一、ジン(白、和蘭)二、チエリーブラン(赤、佛蘭西)三、ペバーメント(青、佛蘭西)四、キユーラソー(黃、佛蘭西)五、マブラ(紫、和蘭)にして之をカップに酌めば濃度によつて五層に色分けに區別せらる、麥藁を以て其層の中趣好に適するもの吸飲するものなり、其他各國を代表する銘酒一として備はらざるなく、貴婦人の就寢前用のペバーメント、起床後の飲料マラスキンを始め各種試飲の機會を得たり、夫人竝令嬢三名と共に酒間を斡旋し一行を心から待遇せられし厚意は感謝し措かざる所なり。

◇テツプのわかれ

愈廿五日滿洲の表玄關大連を辭すの事となれり、北足立郡出身滿鐵學務課屬渡邊進氏、中村國治氏、大里郡新會村出身大連稅關吏高柳藤重氏、兒玉郡出身大連高等女學校教諭平子庄太郎氏、等ホテルに來訪別れを告げらる、當日は宮殿下奉迎のため全市を擧けて準備に忙殺されたために縣人の多數の方には前日惜しき別れを告けおけり。

『出る〳〵船が汽笛と共に……』と口ずさむと無邪氣な可憐な兒童が唄ふ、謠る、拍手する姿の眼前に見えて學校の唱歌室にある心地せらる、今朝大連港の其の樣子は、さながら「港のわかれ」の童謠そのまゝなり。

大連より神戸までは三晝夜の航路なれば從つて見送人は埠頭に立錐の餘地無き程にて、テツプは數百筋も張りつめ、五千二百噸の「はるびん丸」も錨を上ぐるも港をはなれ行くことは出來まじと思ふ程なり。黃紅青藍取りまぜて、日の光を浴びて色彩を照らす樣はレンズを透して太陽の七色かともまぎらはる、デツキカラ埠頭へ下げたブリッヂの取外されるとまたゝ間に船は、はなれる、テツプは伸びる、やがてテツプは切れる、見送る人と送らるゝ人の手に殘されたテツピは別れの片見、潮風に煽られる、數百筋のテツプがもつれ合つて蜘蛛の網となる、程なく帽子をふる、手巾で答禮する、實に盛なるものにして、人情味がありありと體驗される、中村氏、高柳少尉も一行のために最後まで帽子振りつゝ別れを惜まる。甲板上の一行も感慨無量埠頭に影消えての後までも見つめて別れを惜み合へり。

○

七色八色とりまぜて、
　蜘蛛かとばかり張るテツプ。
昇る朝日のかげあびて、
　光り織り込む文の綱。

○

はなるゝまゝに張りつめし、
　テツプはきれて風に舞ふ。
かたみのはしをひれふりて、
　わかれを惜しみ惜しまるる。

○

帽子をふりて幸あれと、
　祈る情は濟ぎて行く。
千尋の海の底よりも、
　まして、そまさるますの海。

○

はやも委は沖つ濱、
　見えつかくれつなるみがた。
思を千鳥にかよはせて、
　港をあとにわかれゆく。

◇神戸便り

四晝夜海の生活

廿五日朝大連にてテツプの別れを告げたる一行は廿九日拂曉神戸に着港す、幸ひ浪も靜かに殊に瀨戸內海を航行せることとて海の生活を賛美するに至れり。

客室內には夫々ベットを備付けられ日用の調度品一つとして缺くることなく、扇風機も裝置せられ釦一つ押せばボーイは直に用達に來る、一度に十數人を入るゝ浴場は湯も水も豐富にて遠慮なく使用せらる、室には各種の遊戲品具を備へ食堂は百餘名を呑み込む大廣間にして裝飾を施し何となく氣持よし、一等船客の食堂は又一段の氣持善さが感ぜられる、甲板上には安樂椅子も備付けられて椅子にもたれて渺茫際涯なき青海原を眺むるときはえもいはれぬ爽かさを感ず、室に戻りてドアーを鎖せば閑靜に旅行日誌を記し又書を繙くに缺くることなき書齋たり。

夕食後は活動寫眞の開演もあり、窓眼から行き會ふ客船を望むときは恰かも夜行列車が走るが如く見ゆ、吾れ一人の航行にあらざることに氣もはげまさる、さあれ往途には單に一夜限りの玄海灘の航海に惱まれた北泉氏渤海灣の激怒にふれた劍道三段氏の如きも頗る元氣なり。朝起くる時の心身の心地よきは又特別なり、水天合一する所まで一物の眼を遮るものなく、

下弦の殘月と面して齒を磨くときやがて朝日さし昇り月と旭の合ひ鏡で容儀を調ふる氣持せらる。

はるぴん丸は船長の下に司廚長、航海長、事務長をおく吉川、大澤兩氏の親友飯能町出身弓削　酉三郎氏が司廚長たり、吾が縣一行は悉く懇切な待遇を受く、「犬もあるけば棒にあたる」の譬にもれず廿六日午後二等室の食堂において同氏の招宴に接したるは實に奇遇なり、氏又寫眞術に長け一行のために甲板上において記念撮影をして配與さる。

一行中翌る日門司にて上陸するものもあるを以て解散の式を兼ねて黄昏まで歡談せり。同氏の厚意はハルピンにおける特別印象と、はるぴん丸の海上生活と共に末長く忘れがたし、明れば二十七日門司に着港、宮田小林、飯野氏の外は此處に下船、三氏は續航して神戸上陸の筈、宮澤團長、關根氏は一行經過復命のため先を急いで下關より東上、吉川、石川、大澤、福島四氏は出雲大社へ參拜、中島氏は單騎四國へ廻るため門司に上陸す。

午後〇時半出帆、關門海峽にかゝる、壇浦燈臺は濤うちきわにそゞろに源平の昔が偲ばれる、下の關市街を眺むれば安德天皇御陵、赤間森も拜せられる、春帆樓の甍も一段高く聳えて見ゆる。深夜宇品港に碇舶新港を通過する時は一行異口同音に佐久間艇長の勇烈な最期を物語る、廿八日朝食後一同嚴島神社參拜したその莊嚴は此處に之を措く、紅葉谷公園は紅葉せる楓樹もはや深緑の間に點在青婉畫

くが如し、秋深く萬溪錦繡を織出せる時千紫萬紅の雅趣蓋し想像の外ならん。

此是蜻洲三勝一　神明叢得幾千秋
滿溪紅葉青圍裡　一道鳴泉繞屋流
（谷　干城）

午後一時本船に歸り神戸に向け出帆す今治の沖合にて暮れ一夜を明石の浦邊にて明かし、檢疫、稅關の檢査を終へて廿九日午前七時三十分神戸埠頭に上陸して玆に全く任務を終りて直に腕車を三宮驛に驅り八時十五分東京に向つて歸途を急ぐ。

◇五十三次を上りつゝ

關西旅行は常に夜行列車にて上下し東道の風致を窓外に玩べることなし、今日こそはと思ひしも視察を終へし心の緩み、四晝夜航海の疲れ出てゝ眠りつゝ、さめついつか木曾川鐵橋も渡り夢現にて名古屋につく。鯱のまばゆさに眼もはえて。

旅の尾張の便りをば、日記のあとさきみかはして、濱の風情を遠江書き行く心も清見潟。登山するのがの富士の嶺、三島の驛にふし拜み、箱根の隧道出でゝ又、くゞりつ入りつ書く程に。

鮮支の野邊に比翼の塚を探して
歸らんイザサラバ

と口すさんで旅立るは旅先にて內鮮融和、日支親善の敎育の栞をとの比喩なり。釜山よりハルピン。大連より天津北京三旬餘の旅行中小さき瞳孔に映せるもの勘なからす其主要なる事項は他日の推考を要す、走馬燈の如く汽車の中、車の上にて書きつくすこと能はされば輕きものゝ二三を示さん。

◇日本の國は松の國

日本の國は瑞穗の國

滿鮮北清の山脈は兀たる禿山、住宅の四周植うるに樹木なく、無味沒趣の鮮支の風土を見あきたる眼を以て遙に中國九州の山姿を澎洋たる海路に望める時眞に風趣の異なるを感ず、愈々近けば綠り滴る松柏千姿萬態或は嘯虎の如く或は臥龍の如く、實に日本の國は松の國たるを味ひ得。

廣漠たる高粱と濃美平野の黄金色づく秋圃とを較ぶるとき自ら日本の國瑞穗の國の名にそむかざるを感ず、それ松柏の操も歲寒うして而て後知り得べし、國の精國の誇他と較べて始めて其實相を捉へ得べし。

◇長所の辯、短所の解

融和親善の鍵

物に長所あり短所あり、人亦然り人克く言ふ長短相補ふと、實に然り然れども同一の間において長短相補ふと言はゞ則ち不可。日本の國は松の國、こは其風趣を言ふ。其材に至つては米松の輸入によつて其需要を瑞穗の國といふも其質を言ふ、其供給は鮮に仰ぎ南京に需めて之を充たすに非ずや、人格においても亦然り、功罪相償ふと思ふは不可、罪は飽まで罪、只其功の方面には其生命を有するのみ國として短は之を外に人として之を他に求めざるをえず、之に於いて外と他とに尊敬を拂はざるべからず、偶々我が一の長あるを以て短を忘れんか、自負心生じ驕慢湧き外を侮り他を蔑にするに至る、同胞相愛の情、國際親善の誼も一に此點にかゝるを信ず、國史の敎

ガラス使用

育地理の教授自尊走せて自負驕慢に至らざらんを希つて止まず、滿鮮教育者に親しく國際情誼と國民性の批判を傾聽し感動せる其の一なり。

◇餘　談（比翼の塚）

比翼の塚、その比喩たるは人之を許さん只面白おかしき事は惱裏にあることには自ら眼に映じ、事に觸るゝ事なり前に奉天おいて鶴の脚を失つて困惑の時の奉天廠にて愛禽捜索の懸賞廣告に着目せると同じく天津にて共同墓地に服部中佐以下の英靈に詣づる時彼の國の墓石に不思不識視線を注げり、餘談として之を掲げ常識に資せんとす、人情の濃き所所謂連理比翼とも言ふべきか。

歐米人の墓

マイ、ラビング、メモリー　と石に刻するを例とす。

支那人の墓

愛妻某性慧敏婉貞好合何年偶得疾逝不可復求焉哀愁之至也矣云々

九十九折りこむ山北や。學びの子らがもどり行く。親を松田の宿よりは。心もせかるゝ大磯の浦の。松風窓にあび程がやふればなつかしき。都にかへる秋の暮。

沼依山氏神戸埠頭に寄せられた時句

黒き人西瓜しまいくる土産かな

孫兒まで旅を案ずる俄か雨

旅立ちし親を思ふや今日も又

空を眺めつ早くおかへり

—（終）—

埼玉會館の沿革と其設備

◇沿　革

埼玉會館建設は大正十三年の候縣下各種産業團體が主唱し計畫した産業會館が動機となつてゐる。産業會館は其後財團法人組織の下に公會堂建設に變更され今亦、大正十三年東宮殿下御成婚事業として縣營として埼玉會館なる名稱の下に組織計畫され今日に至つたのである。

◇總　工　費

總工費は三十萬圓として內拾萬圓を縣費とし後二十萬圓は縣內外有志の寄附に依る計畫の下に大正十三年十一月の通常縣會に上提され、齋藤知事の原案說明あり萬場一致可決確定されたのである。

◇寄　附　者

寄附額は二十萬圓縣人の有志愛鄉の精神に訴へて出來あがつた淨財である。重なる寄附者は縣下各種銀行團、事業團、各種産業團體教育會、縣內有志竝びに澁澤子爵を始め縣出身實業家、名士等在京有志の篤志に依る處が多い。

◇設　計　者

歌舞伎座、靑山會館を設計した斯界の第一人者工學士岡田信一郎氏に依囑した。氏は豐富なる學識と造詣を傾けられ公會堂として殆んど完璧に近いものを制作されたことは云ふ迄もない。

◇請　負　者

本縣北足立郡中丸村の出身山本丑太郎氏である本館の竣成は山本氏の義俠的奉仕に負ふ處が多い。

◇設計の大要

設計は岡田工學士の苦心の餘に成れるもので公會堂として大ホールとして、從來の物に比して幾多の新機軸を出されてゐる。設計の大要をあげると次の如きものである。

（一）構造　鐵筋コンクリート

（二）本館　平屋建大會場　一棟

建坪三六一、五坪千有餘人を收容することが出來る。

音響、通風、彩光、其他近代建築學、劇場建築の粋を表示されて遺憾がない。

（三）別館　三階建　一棟

建坪　四八二、五坪

イ、各種集會堂　大小三室（二階）

何れも五六十人收容出來る

ロ、事務室　十一室（二階）

各種産業團體、敎育團體の事務室でビルデングの形式を取つたものである。

ハ、食堂、娛樂室、宿直室、厨室（地階）

何れも最新式の設備が施してあつて氣持がよい。食堂は數百人の求めに應ずる設備があるから集會等の如き場合は頗る便益がある。娛樂室は撞球臺二臺設備する筈であると云ふ。

ニ、日本室　三階（三階）

屋上庭園の一角にある、眺望絶佳、小數人々の集會に適してゐる。

◇工事日數

一ヶ年

卽ち昨年の十一月三日地鎭祭を擧行し本年十月末日に竣功した。

◇工事に入つた延人員
大略二萬人の延人員の勞力を要した。

◇會館の使用料
縣當局に於ては會館建設の主旨に鑑みて極めて低廉なる料金を徴收して廣く縣民諸君の活用を希望してゐる。其使用料は次の如きものである。

區別		晝間	夜間	晝夜間
本館集會室		二〇圓	三〇圓	四〇圓
別館	一號	五	七	一〇
集會室二號	三號	三	四	五
日本室一號		五	七	一〇
	二號	二	三	四
休憩室		五	七	一〇
事務室自一號至八號		各一ヶ月		二十五圓
娯樂室		一ヶ月		三〇圓
食堂	同	二〇		
賣店	同	一坪に付二圓		

◇會館の使用期間
使用期間は集會堂、日本室及休憩室は七日間以内、事務室は五年以内其他は三年以内となつてゐる

埼玉會館開館式

二十六萬七千圓の工費と三百六十八日の日數を費して昨年十一月三日以來工事を急いで居た埼玉會館は十一月六日華々しく開館式を擧行朝野の名士一千名參集、浦和町空前の盛儀であつた、當日は午後から餘興として川越市の舞獅子浦和藝妓等の音頭があつて賑つた。

彙報

○關東聯合教育會況

第一日

關東聯合教育會第一日は十一日午前十時廿分埼玉會館に於て開會出席代議員三百餘名田島本縣學務部長開會の挨拶を述べ齋藤知事の勅語捧讀、並に會長としての挨拶を述べ

金子督學官、齋藤本縣會議長、齋藤本縣町村長會長、大島町長記者室幹事等の祝辭あり桐生市の吉澤理三郎氏より前回の報告あつて後議事に入り齋藤會長（知事）議長席につき

東京市教育會及東京府教育會を帝都教育會と改むる事

東京府瀧野川町教育會が本會に入會したいとの申出あり承認して可なりやと諮り滿場一致可決し瀧野川町の有馬代議員登壇愛嬌を振りまいて本會の雅量を謝すと挨拶して議席につく。つゞいて議長より神奈川縣教育會から天機奉伺の緊急動議ありとて係員をして朗讀せしむ、終つて提出者たる神奈川縣教育會の曾根藤三氏登壇、同動議の提出理由を述べ方法其他は主催縣に一任するとて降壇議長之を議場にはかり總員起立のうちに可決尙伊藤房太郎氏より其の方法については一切本會議にはからずすべて主催縣に一任したしと述べ之又滿場一致可決、それより帝都教育會の多田房之助君外十餘名より提出の緊急動議

國民教育については在朝在野を問はず審實愼重に考究せられん事を望むを前同樣係員朗讀提出者たる多田房之助氏登壇境義務教育費に就て述べ、埼玉縣教育會の加藤睦之君より決議の實行についての方法如何を提出者にたゞし多田氏之に答ふ。次いで同案の贊成者伊藤房太郎氏より贊成演說あり埼玉縣の小林代議員より委員附託說を出したが主催縣に一任する事の意見あり之れを可決。

それより金子督學官登壇文部大臣の諮問案について說明を試む帝都の今關大造氏から『文部省の意向を今少し具體的に承はりたい』と問ひ督學官より說明し千葉縣の深山隆氏より委員附託說出て可決、委員及委員名は追つて報告する旨報告ありそれより

印旛郡、匝瑳郡教育會提出の義務教育年限延長を直ちに實施せられん事を其筋に建議するの件を附議し提出者同郡の寺元德次郎氏より提出理由を述べ滿場一致で卽決可決東京府下瀧野川町有馬代議員より空腹になつたから

と晝餐を催促し零時十五分休憩、午後一時半再開、田島學務部長は

齋藤會長は諸君の決議により唯今宮中に伺候天機を奉伺する事になつたので不肖私が暫らく議長席を汚す事になりましたと報告し議長席に著き午前中委員附託となつた、文部大臣諮問案について

議員牧辰夫（群馬）坂本松次郎（山梨）伊藤房太郎（帝都）正杉太藏（同）宮川仁三（神奈川）藤澤友治（同）中川眞助（千葉）大森義之助（茨城）稻垣幸二（栃木）小林直衞（長野、鈴木萬治（埼玉）以上十一名

を指名し議事に入り小學校令に關する四議案について帝都、茨城、山梨、千葉の各縣代表より提出理由を述べ山梨案の

小學校令施行の規則、第三十六條を小學校に於ては學校長の負擔する教授を補助する

ため正教員一名若くは准教員一名を置くべしと改正せられん事を其筋に建議するの件
は即決可決し其他は委員附託となつたが千葉縣印旛郡大澤代議員の說明に續いて
國庫負擔に關する東京、群馬、埼玉、山梨

高塚、菅野兩校長の表彰

熊谷男子小學校長兼同商業學校長高塚幾治郎、川越小學校長兼川越商業學校長菅野政五郎氏に對する表彰式は十三日關東聯合教育會席上に於て行はれ齋藤會長より表彰狀竝に置時計一個を贈呈されたが兩氏の事蹟は次の如くである

熊谷男子尋常高等小學校長 高塚幾治郎
正七位勳八等

氏は年十六にして夙とに教育者の班に入り明治二十三年本縣師範學校を卒業するや縣下數校に奉職して到る處その實績の見るべきものあり就中北埼玉郡大桑小學校に於ては其の施設經營よろしきを得その薫化の內外に及べるの故を以て氏と校と共に文部大臣の奬勵する所となり後郡縣視學に歷任し攻々としてその經營に任じ兒童父兄は固より一鄉の薫化に力めその教導感化の效校の內外に及べるの故を以て文部大臣の奬勵を受けついで奏任を以て待遇せらる現に從七位勳六等の榮譽を賜はる誠に宜べなりと云ふべし、依つてその功を多とし之を表彰す

川越尋常高等小學校長 從七位勳六等 菅野政五郎

明治二十五年埼玉縣師範學校を卒業の直に鄉里現校に奉職し爾來四十年一校に止りて攻々としてその經營に任じ兒童父兄は固より一鄉の薫化に力めその教導感化の效校の內外に及べるの故を以て文部大臣の奬勵を受けついで奏任を以て待遇せらる現に從七位勳六等の榮譽を賜はる誠に宜べなりと云ふべし、依つてその功を多とし之を表彰す

あり且つ又研究すべき事項もあるので眞面目に研究したい

との意見あり東京の今關大藏氏登壇

現內閣に於て青年訓練所の實施は成功の一つてある

三時再開山梨縣中巨摩郡提出の青年女子の素質向上を目的とする修養機關に關する法令を速かに制定せられん事を其筋に建議する事は撤回し各種委員を指名して三時三十五分散會尙委員附託となつた各提出議案については散會後午後四時より各自に於て委員會を開き協議する筈

第二日

關東聯合教育會第二日は十二日午前九時半開會、田島學務部長議長席につき教育會に關する件

と先づ其の必要を力說して喝采裡に壇を下り是より種々意見も出たが結局委員附託續いて青年教育に關する件二案を附議したが埼玉の佐久間氏よりの動議に依り二時四十五分休憩散會後委員會を開く

等提出の七案を一括委員附託となしそれより現行法に關する各議案を一括して是亦委員附託、續いて青年訓練所に關する十四案を附議し千葉の木村康哉氏より

委員附託も結構だが即決可決すべきものも

ろ件

（一）今後に於ける最も適當なる地方教育會（縣郡市町村教育會）の組織經營如何（埼玉縣教育會提出）

を議題に供す、丸山近美氏登壇提案理由の說明をなす栃木の横塚平衛門山梨の望月昌六栃木の村山正二等の諸氏から質問及意見の開陳あり今關大造氏の動議で委員附託、續いて

（二）關東聯合教育會改廢に關する件（埼玉縣大里教育會提出）

を上提、小林倭子氏登代議員數其他時代に伴ひ改廢を要すべき點が多々ありとて種々例證して說く多田房之助氏より事重大な問題であるから前案の委員に付附託されたしと動議の可決、それより

皇后陛下の御誕辰日を祝日とせられん事を其筋に建議するの件（山梨縣河內郡教育會提出）

の討議に入り提案者より即決可決を希望し異議なく總員起立の裡に可決す

（山梨縣教育會提出）教育基金令第二條に依る交付金の配當を復活せられん事を其筋に

建議するの件

を附議、多田房之助氏復活を建議するも無用であるからとていはゆる高等政策の歷史を說いて本案を保留したらどうかとやはらかに反對する、山梨の狛俊英氏長廣舌を振るつて本案の維持に努め簡單簡單の聲起る、討論終結と叫ぶものあり可決

實業補習學校就學を速かに義務制にする事を其筋に建議すること（前日）師範教育を速かに改善せられん事を其筋に建議する件（前日）

卽決可決

學務部獨立の趣旨を一層普及貫徹するの眞法如何（千葉縣教育會提出）

小林庄太郎氏提案理由として

學務部の豫算を獨立せしめ內務部長の手を經ずに濟むやうにせねばならぬ、而して學務部長其の人についても現在では內務部の行詰つたものを持つて來るやうな感がある、幸ひにして當埼玉縣のて甚だ遺憾である、幸ひにして當埼玉縣の田島學務部長さんは其の人を得たので誠に喜ばしい……

と議場をヤンヤと云はせる、議長席の田島學務部長も苦笑し乍ら椅子に寄る、栃木懸提出

の

視學制度を改正せられん事を其筋に建議する件

及追加議案を一括して議題にする委員附託埼玉の小林好三氏から休憩の動議あり十時卅五分休憩

十時五十五分再開。日程を變更して委員會の報告に移る、先づ青年訓練所について今關大造氏の報告がある

組織系統より說いて『全體陸軍の査閱が氣に入らぬ横合から飛び出して劍を拔いたりなどする事が甚だ宜しくない、單に視察程度にするやう當局に建議する事になつた』と數項に亙つて詳細に說明する。つゞいて木村康哉氏よりも報告あり質問應答ありて可決それより日程に入り

高等普通教育をして一層地方の實狀に適應せしめ且つ其の普及を圖らんが爲中學校令第九條第一項及第十條に但書を加ふる事を其筋に建議すること（信濃教育會提出）

小口幸一氏登壇、提案の理由を述べ可決確定次いで埼玉縣提出の國民教育の振興上級諸學校の教育をして一層國體に關する理解を普及徹底せしむる樣文部大臣に建議するの件を議

題とし田中四一郎氏は新聞紙にあらはれた教育界の不祥事ならべ詳細に提案理由を說明し滿場一致可決、此時緊急動議として帝部の小林善人氏より左の如き決議案を提出し協議の結果現在恩給法改正調査委員會に附議せられた改正案の内容を見るに小學校教員に對し其だ其當を得ざるものあるを認めこれ又滿場一致左の如き決議を可決した

決　議

本會は恩給法改正案中小學校教員に對し其年限を現行法の如く十五ヶ年としこれが貫徹を期す右決議す

次いで埼玉縣北埼玉郡教育會提出の農村教育振興の對策如何の討議へ入り田部井副右衞門氏提案の說明を爲すべく登壇し田部井氏說明をなす次いで

服忌令を適當に改正せられんことを知事に建議する件（群馬縣碓氷郡提出）及恩給法第六十二條中に左の一項を加へること（項目）略栃木縣安蘇郡提出を

附議し即決可決を叫ぶ者多くそのまゝ可決し十二時半休憩

一時半再開。十一日午後宮中に伺候天機を奉伺した齋藤知事より全員起立の中に報告あり議長席に著き多田房之助氏登壇栃木縣下熊谷小學校長高塚幾次郎氏川越小學校長菅野政五郎氏の兩氏を教育功勞者として表彰する事の動議を提出し滿場一致可決夫れより文學博士澤柳政太郎氏の挨拶に續いて教育方典に關する講演ありそれより各種委員を指名し三時二十五分散會終つて有志は縣立品陳列所浦和小學校の衞生施設を參觀尙指名された各委員はそれ〳〵附託された議案に付て調査研究を遂げ午後五時より浦和町協贊會の招宴に臨み同町藝妓の手踊を見て七時散會した

委員會の決定事項

聯合教育會の各種委員會は十一日午後四時より各室に於て開會左記の如く決定した

▼學級人員の件（小學校令施行規則第三十條の學級の兒童數を尋常科高等科を通して各々四十人以下とす）▼教員俸給支給方法（俸給を分ちて本俸及任地加俸として前者を國庫負擔、後者を市町村負擔）▼年功加俸に關する件（市町村立小學校教員の年功加俸を公立學校の職員の年功加俸を本科正教員と同一にし、專科正教員の年功加俸を本科正教員と同一にすることを建議）▼簡易教育費國庫負擔增額（市町村立小學校教員の俸給全部を國庫支辨に）▲改正小學校令の趣旨を徹底せしむる方案（內容略）▼青年訓練所の効果を完ふすべき適當なる方案根本要件（內容略）▼第四青年訓練に關する件第七項より第十一項まで五項目調査報告書（青年訓練所の經費を全部國庫支辨とせられむことゝ其筋に建議すること）▼幼稚園に關する答申案

第三日

關東聯合教育會第三日は十三日午前九時半開會、定刻に遲るゝもの多く併し開會二三十分にして議席は殆ど充滿した、先づ文部省の諮問「時勢に鑑み小學校教育をして一層實生活に適應せしむる具體的案如何」につき伊藤委員長より左記報告がある

一、本科教員並に專科教員の員數を增加すること

尋常小學校に於ては唱歌、手工、圖畫、裁縫專科教員を置き高等小學校に於ては本科正教員は二學級三教員とし其外手工、圖畫裁縫、家事、實業科專科教員を置くこと

二、實業科に於ては兒童實習指導のために適當の方法を設けて專門の實務者を囑託することあるべし

三、教員養成機關を改善擴張すること

四、本科正教員に對する俸給の分割支出を行ふことを得しむること

五、教員の待遇を高むること

六、其の地方に於ける生産及實際生活に關する基本調査を行ふこと

七、各教科目中の教材は可成其の地方の狀況に應じ生活の實際に適當なる採擇をする事

八、教科書は土地の狀況に應じたるものを地方別に編纂することを望む

九、改正小學校令により必修科目となりたる圖畫、手工、家事、實業及裁縫等の諸教科目につきては實習に重きを置き日常生活の實地に適用せしむべきこと

十、公民科の教材は修身、國史、地理等の諸教科に於て日常生活上關係して之を教授すること

十一、教科目の擔任は高學年に進むに從つて教科目分擔主義を加ふるを可とすべしと雖も修身、國語、地理、國史及操は學級受持に於て之を擔當するを本體とす

十二、一學級の兒童數は四十人を以て本體とす

十三、校舍の建築は堅牢と實用とを尙び裝飾華美を避くること

十四、實業教科、圖畫、手工、裁縫、家事等の實習に關する設備を完ふすること

議長採決せんとしたが瀧之川教育會の有馬淺雄氏が文部省の態度について痛論し議場をヤンヤと言はせる、可決。つゞいて小學校令の改正に關する委員會の報告を渡邊英三氏逃ぶ二三の質問應答あつて可決、義務教育費國庫負擔問題、年功加俸幼稚園等に關する件を各委員から報告可決

次に教育會に關する件中關東聯合教育會改廢に關する件について多田委員長より左記の如き報告があつて可決す

▼關東聯合教育會改正に關する件本件は左の如く本會規則を改正せんとす

第三條中一二三項を左の如く改む

一、帝部教育會、八名以內

二、神奈川縣教育會、橫濱市教育會、埼玉縣教育會、群馬縣教育會、栃木縣教育會千葉縣教育會、長野縣教育會、山梨縣教育會、茨城縣教育會、各四名以內

三、其の他の加盟教育會、各二名以內

但し關會主催の教育會は特に十名を列席せしむることを得

▲附帶申合せ事項　本會開會の都度主催會に於て代議員に對する物品贈與及饗宴を爲すの例は之を次回より廢すること

代議員總親會を催すは差支なし但し此場合主催會に於て豫め出席者より會費を徵收することを得

それより問題の學務部獨立の趣旨を一層徹底せしむるために左記事項に關し官制を改正せられんことを其筋に建議する案について木村康哉氏より左記報告あり可決

一、府縣歲算の編成は內務部より之を遷して知事官房に直屬せしむること

一、學務部長は教育に經驗ある適任者を內務文部兩大臣に於て合議の上之を選任せらること

一、各府縣に專任視學官を置き教育に實際經驗ある者をして之に充つること

一、府縣視學を增員し其半數を奏任となす事

次で農村教育問題について田部井氏から報告があつたが其の報告が

▲教員の優遇法を講ずること　▲實業補習教育の振興を圖ること

の二項で三百餘に代議員が決議したものとしては餘りに不滿の點があるとて議論百出途に保留となつた斯くて議事を終り懇話會に移り十一時四十分休憩十二時再開別項校長の表彰式を擧行し十三時半閉會それより一同は大宮に趣き岡町協贊會の招宴に臨んだ

ガラス使用

○投稿規定

一、原稿締切は毎月十日限りとす
二、原稿は論文、研究、彙報材料、文藝等とす
三、原稿は全篇完結したるものに限る
四、原稿は行數字數の一定せる紙を用ひ（二十字詰二十四行を望む）漢字は楷書假名は平假名とし必ず職、住所、氏名を記すること
五、讀書論壇質疑應答の原稿に限り誌上の匿名を許すも編輯係までは必ず氏名通知あるべきこと
六、人身攻撃その他不穏當の議論はすべて沒書とす
七、原稿はすべて本會事務所内編輯係宛發送せらるべし但し狀袋に原稿と朱書すること
八、簡明にして趣味あるやう記述されんことを望む
九、各郡講習部會などの教育研究狀況批評會の狀況事項等はつとめて掲載すべければ理事者より遲滯なく通信を希望す
一〇、掲載原稿に對して薄謝又は原稿料を贈呈する事あるべし

大正十五年十一月十四日印刷
大正十五年十一月十五日發行
定價一冊金四十錢　郵稅貳錢

編輯發行人　埼玉縣浦和町四百二十九番地　長沼新平
印刷人　埼玉縣浦和町三千九百六十六番地　星野市太郎
印刷所　埼玉縣浦和町三千九百六十六番地　星野活版所
發行所　埼玉縣浦和町（埼玉縣廳内）　埼玉縣教育會事務所
振替口座東京三〇三九四番
電話　浦和二十二番

埼玉縣教育會編纂

最新刊

公民學校 國語讀本

本書は新制度に據り國民性の涵養、趣味向上公民的訓練を重視し尚常識修養と實生活に必須なる知識を授けん爲めに編纂せるものにて內容の取材は各方面に亘り研究蒐錄せり。

前期卷一	金六十八錢
同 卷二	金六十八錢
後期卷一	金六十八錢
同 卷二	金六十八錢
同 卷三	金七十四錢

公民學校 數學教科書

本書は國語讀本と併用すべく新制に依り鄉土的、經濟的、常識的、社會的の材料を以て編纂し叙述は平易にして而も發見ならしめ自習に便ならしめて發兒せり。

前期卷一	金三十五錢
同 卷二	金五十錢
後期卷一	金六十錢
同 卷二	金三十五錢
同 卷三	金三十錢

公民學校 公民教科書

本書は文部省訓令による實業補習學校公民科教授要綱並に其の教授要旨に準據して本縣公民學校後期教科書として編纂して後期一、二、三の各學年に配當し行文を平易に而も本縣の實情を考慮し、尙法文を註して引用に便し內容は道德的及精神的方面に重きを置き一貫したものである。

上	金三十八錢
中	金三十八錢
下	金四十錢

廣告料 一頁金拾圓 半頁六圓 三分一頁金參圓 一行四拾錢

大正十五年十一月十五日發行
埼玉縣北足立郡浦和町 編輯兼發行人 長沼新平

第二百二十二號 每月十五日發行 一部金四拾錢

埼玉縣北足立郡浦和町弐六番地 印刷人 星野市太郎
埼玉縣北足立郡浦和町弐六番地 印刷所 星野活版所
埼玉縣北足立郡浦和町 埼玉縣教育會事務所 發行所 埼玉縣教育會 振替口座東京三〇三九四